

010.4  
T 22

010.4-Ts22ウ  
1200500723225

坪谷先生喜寿記念著作集  
国立国会図書館



始



平 90 86

0104

Ts22

坪谷先生喜壽記念著作集

010.4  
Ts22

⑤

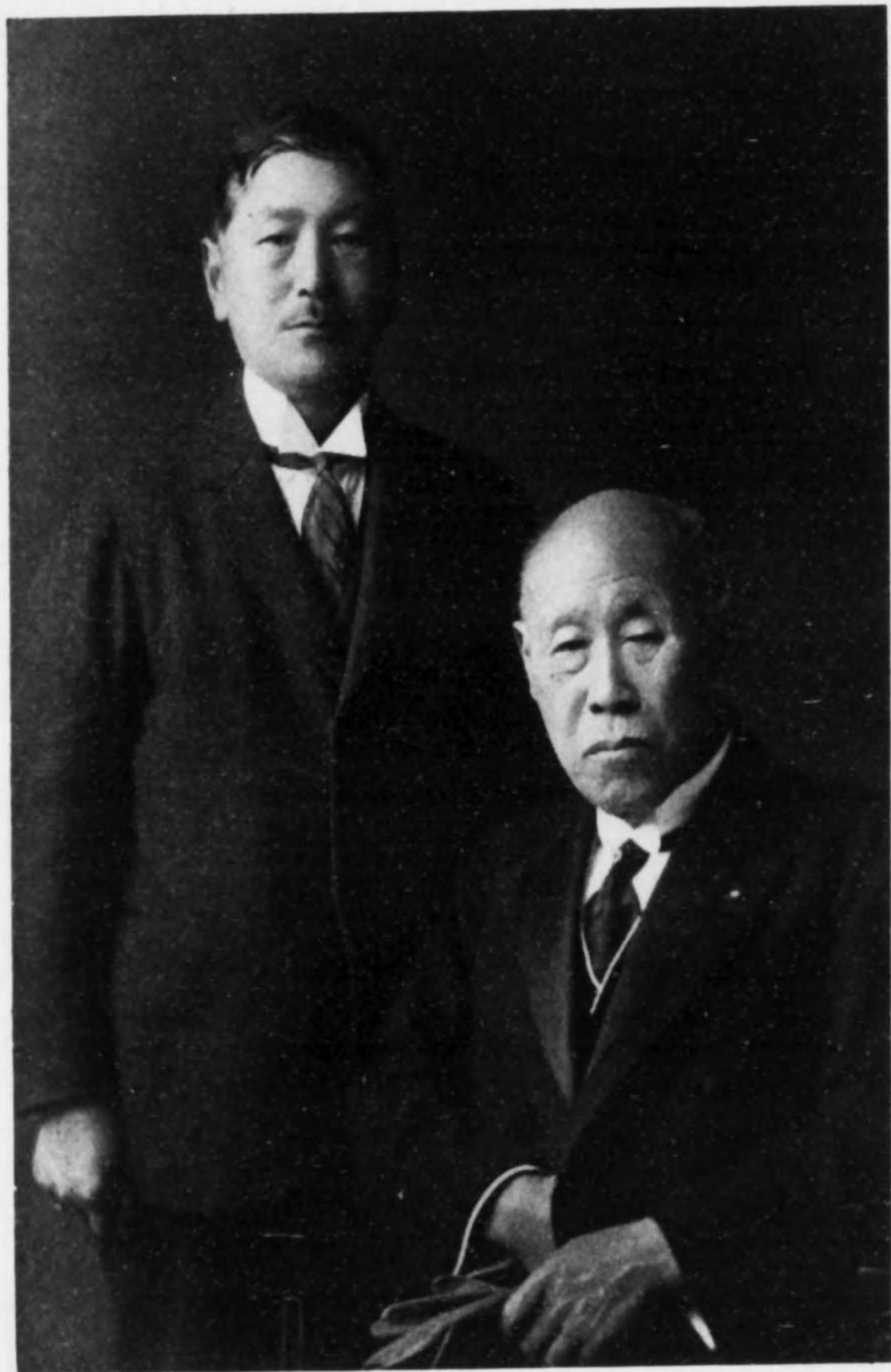


哉坪谷善四郎先生

發行所寄贈本



大橋圖書館職員



石黒子爵と坪谷先生



~~278~~  
~~311~~

目次

現行の日本著者記號の種々相……………	竹内善作……………一
館界人物誌……………	小谷誠一……………三
財團法人 大橋圖書館年表……………	三宅隆……………三
圖書館の制裁規程のいろ／＼……………	奥田勝正……………三
坪谷先生と圖書館事業……………	石井宗次……………五
米國議院圖書館印刷カードに就て……………	愛澤豐勝……………八
大橋圖書館所藏 博文館發行圖書目錄……………	小谷源三……………一〇五
獻詞……………	竹内善作……………一三

現行の日本著者記號の種々相

竹内善作

558  
118

一 序	三
二 山口縣立圖書館の著者記號法	四
三 龍山鐵道圖書館の著者記號法	五
四 滿鐵大連圖書館の著者記號法	七
五 神戸市立圖書館の著者記號法	八
六 大橋圖書館の圖書記號概説	一〇
七 同補助、排列、形態の各記號	一三
八 同圖書分類と分類記號法	一五
九 同圖書記號と表現の様式	一八
一〇 同著者記號使用方法	一九

一 序 説

著者記號は圖書記號の一種で、圖書館に於ける圖書排列の方式として考案せられたものである。現代の圖書館に於ける圖書の分類は、單に目録上の類別を以て満足せず、同時に其類別せられた圖書の位置を函架上に確立せしめ、隨時要求に應じて、何人にも容易に又迅速に抽出し得らるゝことを目的とするものである。こゝを以て圖書記號は簡明を旨とし單純を尙ぶに至つた。其結果十進分類法の流行を來したのである。この十進分類法に於ける圖書記號はすべて算用數字を用ひ、記憶に便にして使用し易く、又機械化することを得て、能率を著しく増大した。一般に流布したのは當然である。

乍併四個以上連続した數字は、少許の汚損摩滅若くは幻覺等のためにも屢々錯覺を生ぜしめる。十進分類法の性質上それ等の記號は函架箋面の上下の二段を占め、又それ等が各々三個以上の數字を連續することは、避けることの出来ない約束である。こゝを以て藏書冊數拾萬を算する圖書館にあつては、上段の分類を明示する記號として四個乃至五個の數字を必要とするに至る。かゝる場合に十進分類に於ては、形態の區分を行はないから、大小長短廣狹の書背、書架の上に雜然と林立し、往々にして錯覺を生ぜしめ、圖書の位置に不安を與ふるに至ることが尠くない。著者記號はこの弊を救ふものとして北米合衆國に於ては頗ぶる珍重されてゐた。

著者記號の世に最も著れたものは、展開分類法の組織者カッター氏のそれである。この方法は著者の姓の首字に、豫め作られた著者姓表 (Cutter's alphabetical order table) から二字乃至三字の數字を採つて加へる組織で、必要の時は更に數字若くは羅馬字を加へて展開する極めて精緻な組織をもつものである。而もこの著者記號は藏書數の増加に伴ひ、漸く窘窮し來れる十進分類法を打開するために、その排列記號として採用され、十進分類法の行はるゝところ必ず著者記號の使用を見るに至つたのである。この外にブラウソンの考案になる數字のみのもの、或は英國に於て行はれてゐる姓の首字

に受入順番號を附するもの等種々あるが、こゝには説明を省略して置く。

日本に於ては明治の末年から大正の初期にかけ、手嶋精一氏の翻案になる帝國圖書館の八門分類が汎く行はれ、次いで大正年中京都市山口縣臺灣總督府の各圖書館に於て、八門分類の細目を按排してそれらの十進分類を編成し、更に大正十年圖書館員講習所の開設とともに、デウキ一氏の十進分類法推獎の聲が喧しくなつて、次いで種々の十進分類の翻案が續出したのであつたが、まだ當時にあつては藏書拾萬冊を超える圖書館は何程もなく、著者記號の必要は殆ど感じられなかつたのである。而も近頃漸く藏書の激増するにつれ、十進分類を以てする圖書の整理次第に難澁となり、こゝに著者記號の必要を感じるもの多く、又大橋圖書館は十數萬冊の藏書を抱擁するが故に、有機的分類法を制定すると同時に、孰れも著者記號を應用するに至つたのであつた。

## 二 山口縣立圖書館の著者記號法

現在日本の圖書館で著者記號を使用してゐるものは、自分の知る限りでは次の五個所である。それ等は大橋を除いて孰れも十進分類法を使用してゐる圖書館である。勿論これ等の圖書館の分類法は悉く異つた様式のもとに考案されたもので著者記號も亦その館獨特の態様を具へてゐる。これ等の館名と分類様式とその考案者名を掲ぐれば左の通りである。

山口縣立圖書館 佐野式十進分類法 佐野友三郎 朝鮮鐵道圖書館 林式十進分類法 林 靖一  
神戶市立圖書館 日本十進分類法 森 清  
大橋圖書館 有機的分類法 竹内 善作

著者記號の考案者は各館とも分類法の考案者と同一である。

山口縣立圖書館に於て佐野友三郎氏のこれが使用を試みられたのは、思ふに大正六年ではなかつたか、大正七年五月自

分が同館を訪ふた時佐野館長は自ら書庫に案内して、この春漸く完成したものであるとて、詳しく説明されたことを記憶してゐる。この記號は姓名を數字に置き換へた極めて單簡な組織で、次の如きものであつた。

ア行 0 カ行 1 サ行 2 タ行 3 ナ行 4 ハ行 5 マ行 6 ヤ行 7 ラ行 8  
ワ行 9

即ち發音數三語までの姓氏を數字三個に置換へて使用するので、アオキは 001、イイオカは 000、アオトは 003、イイダは 003、アオヤギは 007、マイダは 603、モチギは 631の如く振宛つるものである。これを圖書記號として表現する場合は、上段に分類を、次ぎに著者記號を、更に卷別あるものは、圖書の背部に貼付する函架箋の下段に卷號を數字で表示することに定められてゐるが、その使用の範圍は小説の著者と、傳記の中各傳の被著者名に限られてゐるのである。併し現今はその使用を廢止して了つた。

## 三 龍山鐵道圖書館の著者記號法

朝鮮鐵道圖書館で著者記號の使用を始めたのはその後で、林靖一氏は大正八年山口でヒントを得たのだと稱してゐる。その方法はまづ著者名の頭文字一字を直に羅馬字で表し、次に他人と區別する爲に、同一頭文字中での到着順番號をその後で數字で附加する簡單な組織である。鐵道圖書館はすべての部門に著者記號を使用してゐる日本唯一の圖書館である。乍併上記のやうな簡單な組織であるから、各部門を通じて同一著者の著作が同一の著者記號で整理されることは不可能であつた。例へば泉鏡花の單行小説は「一」で整理されるが同人の小説全集は「一」で表示され、二葉亭四迷の單行小説は H22 で小説全集は H3 で、各異つた著者記號で整理されてゐるなどの類である。

併し同館の著者記號は近年になつて漸く複雑となつた。最初一人一記號であつたものが、後に同姓一記號となり、これ



を細別するために個人を表現する若干の数字を必要となし、更に受入圖書をも数字で順序づけるに至つた。今その用例を次に掲げる。

六

個人別	著作順
1-1	1-1
1-1	1-1
2-1	2-1
3-1	3-1
4-1	4-1
5-1	5-1
6-1	6-1
7-1	7-1
8-1	8-1

319
N16-1
1

は中村武羅夫を表示し、最下段の「は同氏の著作として最初に受入れた圖書、此處では「嘆きの都」を表徴するのである。

氏名	著者記號姓氏別
湖 夫 星 村 中	N15-
武 羅 夫 村 中	N16-
平 亮 村 中	N16-
葉 白 村 中	N16-
岳 東 村 中	N16-
峽 古 村 中	N16-
二 能 村 中	N16-
眞 村 中	N16-
常 正 村 中	N16-

又著者が改姓した場合は、改姓後の著作にのみ、その頭文字の羅馬字を變更して記録するにとゞめ、従前の圖書には遡及しないし、ペンネームが二個以上ある場合も、原則として各別に羅馬字で出し、その關係の判明したもものには相互に参照を附する丈である。雑誌及公共團體の刊行物も亦右に準じて記號を與へるが、複本は正本と同一の記號を附して何等の區別も行はない。卷數は最初スモルレターの「P」で區別し、其後「1」「2」等の數字に改め、各函架箋の下段著作順番號の右傍に併記してゐるが、現在では圓形のレベルを書物の背の最上部に貼付し、これに數字を用ひて表示してゐる。即ち上圖は卷數「30」を、下圖は卷數「4」を、



號數「4」を明示するものである。

但傳記の各傳の部分は他の圖書館に於けると同様被著者名に此記號を用ひてゐる。以上は昭和三年以後に改訂された龍山鐵道圖書館の記號法の概略である。(林靖一著『圖書の受入から配列まで』及『鐵道圖書館藏書目錄昭和十二年』參照)

#### 四 滿鐵大連圖書館の著者記號法

大連圖書館の十進分類法は大正七・八年の頃柿沼介氏が練上げたもので、これは大正八年から使用されてゐると記憶してゐるが、著者記號は同氏が歐米に遊んだ後のことで、多分大正十四年頃に制定されたもの、やうに考へてゐる。大連圖書館のこの種の記號は、小説の中で日本の分は明治以後の別集分類番號「1000」と、外國小説の別集分類番號「2000」と、哲學中西洋各哲學者及其學說分類番號「3000」と、傳記中日本人各傳分類番號「4000」と、外國人各傳分類番號「5000」と應用されてゐるのみで、支那小説、明治以前の日本小説、支那人各傳其他の部門には及んでゐない。この用法は著者若くは被著者の姓と名の最初の各一語を採り、これを五十音で端的に表現したものである。例へば有島生馬はアイ、有島武郎はアタ、泉鏡花はイキ、中村吉藏はナキ、中村武羅夫はナムを以て表示され、同様にヨゼフ・アイエンドルフはアヨ、エドモンド・アミーチスはアエ等で表現されてゐるものであるが、宮地嘉六、水守龜之助の如くミカの記號二人以上の場合には前者はミカチ、後者はミカモのやうに、第三字目に姓氏の漢字で表はされた第二字の頭文字を片假名で表現して据えるのである。レオンス・アルシイをアレル、フレデリック・フアラアをフアラとするのも其等に準ずるものであるが、この場合外國人でクリスチャンネームの判明してゐるものは、三字目をその發語で置換へることもあるもの、やうである。即ちジョン・ステアルト・ミルをミシスとするが如きはその一例であらう。

この著者記號の特長は小説、哲學並に傳記に共通のもので、同時に又内外人の區別をも設けてゐない點にある。これを函架箋に表現する際には、上段に分類を、次に下段に著者記號と著作圖書の受入順番號を各併記して用を辨ずる。即ち上

七

253.2
キカ 1

圖の 253.2 は分類番號、下方のキカは菊池寛の著者記號、其右傍の 1 は受入圖書の番號で、こゝでは假に同氏の著作「道理」を表現してゐるのである。傳記では被著作者名にこの記號を利用してゐる。實に簡明な様式である。

##### 五 神戸市立圖書館の著者記號法

大橋圖書館の著者記號は昭和四年に制定せられたもので、有機的分類法の創案と同時になされたものである。この記號を詳述する前に神戸市立圖書館の著者記號を紹介して置く。

神戸市立圖書館の著者記號は昭和十年の制定である。即ち同館では森清氏の赴任とともに、その圖書分類を日本十進分類法に改むるとともに、形態記號を廢し、同時に著者記號を考案したのである。

この記號の他と異なる點は、これを使用する小説と傳記の一部に、日本十進分類法の分類番號を全く使用せず、小説の記號として F を（註森氏は F は Fiction の頭文字を採つたのであるが、小でもシでも見易い記號に代へてもよいと云ふ）、各傳の記號としては P（註森氏の言によれば P は Personnel の略語で實際は B が適當であるが、神戸圖書館では A B C D を特殊形態記號に使用してゐるためだとのことである）を採用し、それ等の次に左記の表に示す數字を併記して使用するのである。即ち

00	オト	オ	オ
01	アト	オ	オ
02	ア	オ	オ
03	イ	カ	カ
04	イ	カ	カ
05	イ	カ	カ
06	イ	カ	カ
07	イ	カ	カ
08	イ	カ	カ
09	イ	カ	カ
10	イ	カ	カ
11	イ	カ	カ
12	イ	カ	カ
13	イ	カ	カ
14	イ	カ	カ
15	イ	カ	カ
16	イ	カ	カ
17	イ	カ	カ
18	イ	カ	カ
19	イ	カ	カ
20	イ	カ	カ
21	イ	カ	カ
22	イ	カ	カ
23	イ	カ	カ
24	イ	カ	カ
25	イ	カ	カ
26	イ	カ	カ
27	イ	カ	カ
28	イ	カ	カ
29	イ	カ	カ
30	イ	カ	カ
31	イ	カ	カ
32	イ	カ	カ
33	イ	カ	カ
34	イ	カ	カ
35	イ	カ	カ
36	イ	カ	カ
37	イ	カ	カ
38	イ	カ	カ
39	イ	カ	カ
40	イ	カ	カ
41	イ	カ	カ
42	イ	カ	カ
43	イ	カ	カ
44	イ	カ	カ
45	イ	カ	カ
46	イ	カ	カ
47	イ	カ	カ
48	イ	カ	カ
49	イ	カ	カ
50	イ	カ	カ

51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99								
タ	チ	ツ	テ	ト	タ	チ	ツ	テ	ト	タ	チ	ツ	テ	ト	タ	チ	ツ	テ	ト	タ	チ	ツ	テ	ト	タ	チ	ツ	テ	ト	タ	チ	ツ	テ	ト	タ	チ	ツ	テ	ト	タ	チ	ツ	テ	ト	タ	チ	ツ	テ	ト							
ナ	ニ	ノ	ハ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ヨ	シ	ス	セ	ソ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ

これである。この中神戸圖書館では翻譯小説にはこの記號を用ひず本來の分類記號 713.9 を使用し、講談は F. 97 として單に受入順に整理してゐると云ふことである。

是等の記號は小説及傳記の全部に使用するのではなく、明治以後の小説の別集と日本人各傳にのみ應用されるもので、同時に是等の圖書本來の分類記號 113.14 (明治以後の小説の別集) と 113.23 (註この記號は日本人に限り休停) とは、使用を休止するのだと云はれる。換言すれば小説の中明治以後の別集は、すべて F の記號文字と著者の姓の首語一二字に該當する、前記記號表の二數字とを結合したものを、分類記號と看做し、又日本人各傳も P の記號文字と、其被著作者の姓に當る、前表の二數字との結合を、分類記號と看做すのであると言はれる。例へば菊池寛の小説は 722.6、横光利一のもの 722.6、又西郷隆盛の傳記は 722.6、東郷平八郎の傳記は 722.6 で表示し、同時にこの著者記號を以て分類記號と看做すと云ふのである。そして 722.6 に相當する記號は菊池寛の外に、菊池幽芳、木々高太郎其他の作家にも及ぶ場合があるが、それは圖書記號 (註この場合この語は排列記號を意味する。考案者の用語を尊重して其儘こゝに援用して置く。) を考慮することによつて、各々同一人の作品を一個所に集めることが出来ると考案者は云ふ。

森氏は言を續けて「圖書記號は最も簡易な受入番號式によるのであるが、この場合菊池寛に 722.6、幽芳に 713.9 の如く、作者により適當なる數字を餘分にとつて置けばよい。受入順は一面作品の發行順 (新刊の都度購入すると假定して) と云

ふことにもなる」と述べてゐる。それから個人の全集で小説のみか、若くはその大部分が小説の場合は、單行本同様にFを使用し、二人の共著はその第一作者の姓を記號化し、目録にだけ第二作者の名で分出する。三人以上の合集又は連作は本來の分類記號をFを使用するか、若くは單にFとして置き、小説と戯曲との合集は戯曲が大部分を占めない限り、小説として取扱ふ。小説（一作家の一作品）の註釋書類は原著同様に取扱ひ、原作者名で記號化す。それから作者が二つ以上の筆名を持つてゐる場合は、比較的廣く用ひられてゐるものに據る。例へば牧逸馬は牧として取扱ふ。最後に森氏はこの記號は又明治以後の戯曲にも、Drama として同一方法を使ひ得られよう」と述べてゐる。

この著者記號の實施に際して、考案者は次の如く説明してゐる。「分類法として日本十進分類法を使用すれば、その分類記號は S13.1 (明治以後の日本小説) となるのであるが、これを漫然と受入順による圖書記號を與へたのでは、何百何千となつて甚だ不便である(中略)。そこで小説に特殊記號を附して別置し(中略)、而も著者排列にして置くことは、整理上からも出納上からも手数が省略できる。デウキ一の十進分類法では小説は分類記號を用ひず、單に著者記號のみを以て整理するやうに暗示してゐるが、わが國では目下適當な著者記號が完成されてゐない」と。

#### 六 大橋圖書館の圖書記號概説

大橋圖書館の著者記號は極めて簡單な機構から成つてゐる。即ち姓氏の最初の一語を直に片假名一字で表現し、次に他人と區別するために、その片假名の次ぎに到着順の番號を附加するのである。原則は鐵道圖書館と同一であるが、表現の方法と配置の方法に異なるものがある。彼にあつては羅馬字を數字と並置し、これに於ては片假名と數字とを結合させ。彼にあつては分類記號と全く分離するに、これにあつては片假名はこれを分類記號と並べ(寧ろ其一部分として取扱ひ) 數字(これも又分類細目を意味する)のみを隔離して補助記號と同列に置く、だから彼にあつては單なる著者記號にとゞまるも

これは著者記號たると同時に分類科目をも表現してゐることとなるのである。それから彼にあつては排列記號と卷別記號は孰れも數字を使用し、而もこれが表示は兩架臺の下段と、別紙の圓形のレベルの中とに、各々引き離されてゐるのに、これは單に片假名で表現され、補助記號として排列記號と卷別記號を併せ兼ねてゐる。併し大橋圖書館ではこれを各部門全部に使用せず、小説、講談、戯曲と傳記の中の各傳と家記のすべてに利用してゐるだけで、大連、神戸の兩圖書館よりは稍々廣く用ひてゐるけれども、鐵道圖書館の如く廣汎に互つて使用してゐるのではない。

元來大橋圖書館の圖書記號は、十進分類法の圖書記號とは著しくその様式を異にしてゐる。従つて著者記號の使用方法を説くに當り、豫めその相違する點を明にして置く必要がある。十進分類なるものは其名の示す如く近代思想の影響を受けて極度に機械化され單純化された分類法で、一般の學問の系統を著しく歪曲し總べての藝術の分野を極端に壓縮して、これを厭應なしに十分し、數字を記號として十進展開を試みたものである。乍併現代に於ける學術の研究方法は、今や近代的な機械論から新力學的實證論的な方法に變化しようとしてゐる。否既に怒濤の如き勢を以てその研究の方法は各方面へ浸透してゐるのである。従つて將來に於ける文化の進展は十進分類の如き機械的人爲的な方法では十分合理的に整理し得らるゝ見込はない。六十餘年前デウキ一氏が十進分類を圖書の分類法として採上げた時代と、今日の時世とは全く異つてゐる。實にその窮屈極る圖書記號の様式は、將來の複雑な知識を整理するどころではなく、既に現代の學藝の各分野に對してすら弾力性を失つてゐるのである。こゝに新しい圖書の排列方法に就いて考究する必要が生じて來た。我が有機的圖書分類法は、この要求に應じようとして創定せられたものである。従つてその記號の如きも展開性と弾力性と抱擁性とに重きを置き、近代的な數字のみを使用する十進法やアルファベットと數字とを連結する展開法などを却け、現代の知識の集積に適合せしむるために敢へて片假名と數字とを結合開展する新方式を採つたのである。蓋しアルファベットと數字とを連結する展開法では、I, O, Y, X 等の如く數字と誤認され易い文字を除けば其數二十三となり、それだけでも十進

法に較べて約五倍の弾力性は帯びてゐるが、片假名のそれによる展開性には到底及びもつかない。即ち片假名五十音の中から重複類似の發音を除くときは、四十四の音韻が得られる。これに撥音を加へ、四十四の音韻文字を四十五に展開使用すればアルファベットの四倍以上の収容力を優に發揮し、二百萬部以上の圖書を容易に整理することが出來て、聊かの混雑をも惹き起さない。而も分類記號には私達に親しみの深い平易な片假名二字、排列記號としては算用數字三字以内を使用するのみで、十分に効果を奏し得らるゝのである。

大橋圖書館の圖書記號はこの分類記號の外に、別に十分された形態記號(數字一から九までと零とで示されたもの)を備へ、更に一數字乃至三數字で組織された排列記號と、片假名一字若くは二字を用ひて展開する補助記號を有するのであるからその抱擁力は一層大なるものがある。これ等の原理の説明や利害得失の論辯に關しては、別に項を改めて叙述する機会があると信ずるから、今は詳細なる意見を省略して唯一般の圖書記號に就いて、その概要を説くにとゞめる。

### 七 大橋圖書館の補助、排列、形態の各記號

大橋圖書館の圖書記號は、普通分類記號と形態記號と排列記號と補助記號から成立つてゐる。この中、分類記號と補助記號は片假名を使ひ、形態記號と排列記號には數字を用ひてゐる。そして分類記號は形態記號と合して一聯となり、排列記號は必要ある時に限り補助記號を隨伴することゝなつてゐる。そして分類形態一聯の兩記號は必ず假名二字、數字一字の結合からなり、排列記號は數字三字以内に限られ、補助記號は片假名二字以内と定められてゐる。唯稀觀書及特別集書だけは分類記號として片假名三字を使用する。其際は形態記號を排列記號と結合せしめるが、双方の數字は併せて三字以内に制限されてゐるのである。それから補助記號は分類記號中の片假名の一字が、著者記號の一部分に充當せしめられた時だけ排列記號に代用される。その他の場合には縦ね順序、即ち巻別記號とし用ひられ、又稀に複本を表示するために使

はれる。この場合には五十音の順によらず、各行の首字のみを採つて使用されるのである。詳しく述べれば、アを正本の記號とし、カを複本の記號とし、第二第三以下の複本には、サ、タ、ナ、ハと順次に使用し、ワに至つて止まるのである。但し大橋圖書館に於ては内容體裁の全く同一なものでなければ複本として取扱はない。數頁の増補でも僅の修正版でもそれは異本として處置するのである。尚ほ本文と附録とある場合には補助記號の撥音を、附録を表示する記號に代用する。若し上下二巻に附録が添附されてゐる場合があるとすれば、上巻の附録はアン、下巻の附録はインとなるのである。又叢書の複本はその一・二・三・四はカア・カイ・カウ・カエ、三部以上の場合にはサア・サイ・タア・タイの如く表現せられるのである。

補助記號は前述のやうに普通の場合には、連冊ものの巻別や、叢書、全集、講座、逐次刊行物等の順序別を、明示する用に充てられるものであるが、その組織は五十音中ヤ行のイ、エ、ワ行のキ、ウ、エ、ヲの六字を除いた、アよりワに至る四十四字を基礎とし、これに撥音を加へた四十五字で前記四十四字を展開するもので、總數二千二十五に開展するやうに工夫されてゐるのである。この補助記號としての片假名が次序を如何に集約して示すかを次に圖示して置く。

アイウエオカキクケコサシス	セソタチツテトナニヌノ	ハヒフヘホマミムメモヤユヨラリルロ	ワ
1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17	18	19	20
21	22	23	24
25	26	27	28
29	30	31	32
33	34	35	36
37	38	39	40
41	42	43	44
45			
アイウエオカキクケコサシス	セソタチツテトナニヌノ	ハヒフヘホマミムメモヤユヨラリルロ	ワ
46	47	48	49
50	51	52	53
54	55	56	57
58	59	60	61
62	63	64	65
66	67	68	69
70	71	72	73
74	75	76	77
78	79	80	81
82	83	84	85
86	87	88	89
90			
アイウエオカキクケコサシス	セソタチツテトナニヌノ	ハヒフヘホマミムメモヤユヨラリルロ	ワ
91	92	93	94
95	96	97	98
99	100	101	102
103	104	105	106
107	108	109	110
...	...	...	...
131	132	133	134
135	...	...	...

ア	136	ウ	137	エ	138	オ	139	カ	140	キ	141	ク	180	ケ	181	コ	182	ク	183	ク	184	ク	185	ク	199	ツ	200	ツ	201	ツ	225	エ	226	エ	227	エ	228	エ	229	エ	230	エ	231	エ	265	オ	266	オ	267	オ	268	オ	269	オ	270	オ	271	オ	315	カ	316	カ	990	ナ
---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---

この補助記號は右の表に見るが如く、片假名一字で一位若しくは二位の數字が表現されたり、或は又二位から四位までの數字を、片假名二字に置換へたりして、極めて簡潔に圖書の順序を處理し得るやうに組織されてゐるのである。

尙ほ補助記號が極僅な卷數の區別に用ひられる場合は、まづ上下若しくは前後或は正續等二冊に限られたものにはアとイを應用し、上中下、前中後、前後續、元享利貞、前中後續續々等三冊乃至四冊以上のものには、アイウエオカクケコ等々の順に片假名を置換へて使用するのである。又卷別と號數若しくは項目別と卷數とを同時に示す必要の生じた時は、卷別又は項目別毎に片假名を展開せしめて使用する。例へば第一卷第一號はア、第二卷第一號はアイ、同第二號はアイ。第三卷第一號はイア、同第六號はイカ、又岩波講座數學のI一般項目の部第一冊はアア、第二冊はアイ、同じくII代數學の部第一冊はイア、同じくIV解析學の部第三冊はエウと云ふが如く整理するのである。

排列記號は各分類の細目と、その細目中の受入順を示すもので、すべて算用數字を用ひ、その百位は分類細目のアに當るものを除き、概ね細目を表現するものとして用ひられ、十位と一位とは受入順番を明かにするものとして使はれるのである。分類細目のアに當るものは、普通百位の數字を空位とし、直に一位の部分から順次受入順に使用することに定めてある。著者記號中に使用する算用數字は、排列記號の按排される位置に常に置かれてゐるから、一見排列記號と見誤られるのであるが、これに關しては後段で述べる著者記號の項目中に詳しく説明することとしてこゝでは省いて置く。併し大

橋圖書館では書架の上の混亂を避けるために、例へば排列記號でも百位以上の數字、即ち三箇以上の連續した數字は絶対に用ひない。この點は特に注意して戴きたい。これは書庫内の整頓と圖書出納の迅速とに便するためで、補助記號の使用も次に述べる形態記號の制定も、孰れもこれと密接不離の關係にあるのである。

形態記號は算用數字を以て次の如く規定されてゐる。

0	一枚物	1	三五判以下	2	新菊及嬰判	3	菊判	4	四六倍判以上	5	軸及卷物
6	半紙半裁以下	7	美濃半裁判	8	半紙判	9	美濃判以上				

一枚刷の版畫又はこれに準ずるものは更に特別の數字を用ひて、その大小を順序區別されてゐるが、煩瑣に互るからこゝには掲げない。

### 八 大橋圖書館の圖書分類と分類記號法

分類記號は前述の如く片假名二字を組合せて用ひてゐる。即ち五十音の四十四字を四十五字で展開して用ひてゐる。従つて四十四字を三十二門に割宛て、これを壹千九百八十の綱及科に開展し、更に壹萬九百八十の綱目を設け。門綱及科に片假名の記號を使用し、目及屬に數字を附してゐるのである。

- |   |    |   |      |   |      |   |      |   |      |   |      |   |      |   |      |
|---|----|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|---|------|
| ア | 數  | イ | 物質科學 | ウ | 生物科學 | エ | 生理科學 | オ | 心理科學 | カ | 語學   | キ | 哲學   | ク | 宗教   |
| ケ | 社會 | サ | 統計   | シ | 經濟   | ス | 政治   | セ | 法律   | ソ | 教育   | タ | 児童   | チ | 工業   |
| ナ | 農産 | ニ | 工藝   | ホ | 美術   | ヘ | 藝術   | ヒ | 音楽   | フ | 音楽   | ボ | 音楽   | マ | 音楽   |
| ミ | 文學 | ヤ | ユ    | 歴 | 史    | ヨ | 地誌   | ラ | 一般圖書 | リ | 貴重圖書 | ス | 特殊集書 | ル | 兒童圖書 |



ユコ	傳記一般	ユニ	災禍史	ユホ	地方史	ユラ	地方史
ユサ	日本歴史	ユヌ	逸史	ユマ	戰史・災禍史	ユリ	戰史・災禍史
ユシ	通史	ユネ	史料	ユミ	逸史・史料	ユル	逸史・史料
ユス	時代史	ユノ	日本史一般	ユム	東洋史一般	ユレ	西洋史一般
ユツ	職官儀制史	ユハ	東洋史	ユメ	西洋史	ユロ	世界史
ユテ	文明史	ユヒ	通史	ユモ	通史	ユワ	歴史一般
ユト	地方史	ユフ	時代史	ユヤ	時代史		
ユナ	戰史	ユヘ	職官儀制史 文明史・文化史	ユヨ	職官儀制史 明史・文化史		

九 大橋圖書館の圖書記號と表現の様式

以上の圖書記號の中、圖書の整理に必ず使用するものは、分類、形態、排列の三記號で、補助記號は叢書逐刊連冊もの及びこれに準ずるものか、又は複本に限って使用し、その他の場合は用ひない。それから小説、講談、戯曲、シナリオ、児童劇、各傳及家記等に使用する時は、排列記號として補助記號の形式を應用するのであつて、本來の補助記號として利用するのではない。今これ等の記號を各々函架箋上に記録する様式を圖示すれば次のやうになる。

ユオ 2	54
ユオ 3	456 ア

このレベルに於てユオは分類記號(傳記叢傳中の細目列傳を表示するもの)、は形態記號(四六判を意味するもの)、は排列記號(即ち列傳中の學者傳に關するもの、受入順番號)である。又次のレベルに於ては、上段のユオは分類記號、は形態記號(菊判を意味するもの)、下段の數字は排列記號(即ち列傳中の財界人物傳に關する受入順番號)、補助記號アはこゝでは上巻を指示するものである。具體的に述べれば前者は大塚虎雄著學界新風景の圖書記號で、後者は實業之世界社編輯局編財界物故傑物傳上巻の圖書記號である。更に著者記號を使用する圖書の記號は次のやうに圖示される。

ミイ 2	1イ
モイ 2	1ア

この上段の片假名の中ミは分類記號(小説を表示した記號)で、次のイは著者記號の一部で、姓の最初の一語がイに屬することを示すもの、は形態記號(四六判の意味を持つ)、下段の1は著者記號の一部分、上段のイと組合せて泉鏡花を表示するもの、下段の數字の1の次のイは、泉鏡花著作の小説中四六判のもので第二番目に受入れた排列記號で、換言すればこゝでは泉鏡花著『りんどう』と意味する圖書記號が、上記の様式を執つて片假名と數字で表示されてゐるのである。次の記號も同じく泉鏡花作『昭和新春』を意味するもので、上段のモは小説戯曲の併合されてゐるもの、分類記號、次のイと下段の數字1は著者記號、上段のは形態記號(四六判を表示)、下段のアは排列記號(受入順番)である。

彼様に様式の上では著者記號を使用する部分も、使用しないものも一見何の相違もないが、これが包含する内容に至つてはそれ／＼異つてゐるのである。この様式上の統一は出納手をして圖書出納に容易く習熟せしめ、何等の不審をも抱かぬしめず、迅速に閲覧者の請求に應じ得らるゝ目的から、圖書分類法の制定と同時に、考案組織したものである。乍併この記號法は十萬冊以上の圖書を整理するためにのみ必要とするものであつて、十萬冊以下の圖書整理に當つては、數字を以てこの片假名の記號に代用して差支へないのである。

大橋圖書館の圖書記號は、上に述べたやうに、これに使用する文字の個數は、上段に片假名二字、數字一字で合計一列三文字。下段は數字一字丈か、若しくは數字三字以内片假名二字以内、で都合一列一字乃至五字。雙方合せて二列八個以内の字數に限られてゐるから、形態記號の利用と相俟つて、簡單明瞭にその位置を明示し、書架の整頓に圖書の抽出に便利を極めてゐる。以上で概説を終り、以下著者記號の使用法に就いて詳述するであらう。

一〇 大橋圖書館の著者記號使用方法

大橋図書館の著者記號は、既述した如く、姓氏の最初の一語を直に假名遣法によらず、發音のまゝに片假名一字で表はし、次に他人と區別するため、到着順の番號を附加するのである。例へば次の通りである。

著者記號 1 2 3 4 5 6 7 8 著作順は補助記號を排列記號に代用して、アに始まつてワに終る方法で整理する。これを函架箋上に表現する時は、前に泉鏡花氏の作品を掲げて圖示し

名 山五 豊風彦石郎二 理する。これを函架箋上に表現する時は、前に泉鏡花氏の作品を掲げて圖示し  
 氏 中直 長永 長夏 長中 家記はヤ) と形態記號の數字一字との中間に伍して上段に位置せしめ、數字

の部分は下段に置き、こゝでは排列記號として利用されてゐる片假名一字乃至二字(用法は補助記號として使はるゝ場合と同

一である)の前に配して用ひられるのである。

この著者記號は小説と戯曲と小説戯曲の併合されたものには共通して用ひられるが、各傳と家記の被著作名と被著作家記とは融通は出来ない。それから翻譯者の姓を用ひて整理されるのは原作者不明のもののみで、翻譯物はすべて原作者の姓で處理される。併し翻譯歐米小説と翻譯歐米戯曲とは、共通の著者記號で整理することは分類の構成上不可能となつてゐる。また二つ以上の雅號を使用してゐて、その孰れもが相當世上に喧傳されてゐるものは、本名で整理し二つ以上の雅號を使用しても一雅號ばかりが一般に知悉されてゐて、他のものはホンの匿名用として取扱はれてゐるに過ぎないものは、一般に知悉された筆名で整理するのである。次に全集はすべて單行本に準じ、二人共著の場合はその述作に主として努力した作家の名を採り、三人以上の雜集及び連作は、叢書と同じく合集の名の下に、ミン、ムン、メン、モン等の分類記號で整理をする。この場合は註釋書と同様に著者記號を與へない。註釋書は假令へ單獨の作品に對するものでも、語學書類として取扱ひ、文學の分類から全く離して了ふ。對譯書も同様である。又外國の皇室は外國人家記として取扱ひ、

唯目錄の上で外國皇室、外國元首などの標示をするにとめて置く。

この著者記號の著しく他と異なるのは、他館に於ては概ね分類記號の下段に一括して位置せしむるのに反し、これは上下の二列に分割して使用すること、排列記號に片假名を用ひ、而もこの片假名が二千二十五冊を抱擁し得る擴延性をもつてゐること、假令へ叢書全集若くは講座のやうなものでも、各冊すべてが異つた記號を、一枚の函架箋上に必ず持つてゐること、それからこの著者記號が、或程度まで分類の細目を同時に指示してゐる點とにある。

最後に是等各圖書館の著者記號は孰れも藏書の運増に伴ひ、必要を痛感して制定されたものと云ふことを注意して置く。唯それが大橋図書館に於ては、圖書分類法の制定と同時になされ、其他に於ては圖書分類法の設定と、目を異にして組織された差があるだけである。將來漸次に藏書拾數萬冊以上に達する圖書館の増加するに伴ひ、この種記號の利用は必然のものとなるであらう。若しかすに歲月を以てするならば、總て東洋獨特の精緻を極むる著者記號の大成が見られるに相違ない。自分は今多大の希望を將來にかけてこの稿を終る。

註記 この記號を修つた後滿鐵圖書研究會年報第三卷の裏面を受け、奉天圖書館その他に於ても著者記號の使用されてゐることを知つた。特に奉天に於けるそれはアルファベット二字と數字一字乃至四字の組合せからなるもので、著者の姓の第一語をアルファベット二字で表示し、これに一種の姓氏表によつて數字を附加するものである。即ち例へば、杜春雄は HAN、杜博太郎は HANBO と云ふが如きものであるが、詳細の姓氏表に就ては當かでないから、こゝにはそれ以上の事實のみを掲げて置くにとどめる。



館界人物志

小谷誠一

曾て、或る先輩が謂つたことに、『僕が選んで圖書館員になつたのには憚うした理由があるのである。元來、圖書館員位良い職業はないと思ふ。圖書館員は閱覽者より何ものをも求めず、偏へに與へんとのみ努力する者であつて、その間に一點の疚しきものを挟まない、この故である』と。

圖書館員を職業として、なほ進んでは、館界へ這入つて見て、見込がない、と云ふのは主として物質的に見てのこと。良心的な仕事である、と云ふのは云ふ迄もなく精神的に感じてのこと。ともあれ、この圖書館員たる職業を如何に觀するかは自ら觀者に委ねるとして、こゝに曾て館界にあつて雲霓の飛來を待ちたりし蛟龍にも比すべき人士と、また圖書館をその榮光の殿堂として翔下したる亢龍にも比すべき傑人とを、とつ國に求め摘記して、聊か水哉先生の喜壽に捧げまつらんとするものである。

#### カーライル Thomas Carlyle, 1795—1881

英國の史家、評論家であり、英雄崇拜論の著者として知られて居る、彼のカーライルの主唱と、幾多名士の贊助とに依り、一般貸出を許す倫敦圖書館の計畫が成就したのは實に一八四一年のことであつた。

カーライルは十四歳にして郷里を出で、首都エディンバラの大學に入つたと云ふ秀才。在學數年、教師の教授によつて得るところは少なかつたけれども、その圖書館に立籠つて自ら萬卷の讀破に没頭し、其絶倫の精力と非常な學才と、強記とを以つて、他日大活躍の基礎を造りつゝあつた、と云はれてゐる。

彼が倫敦圖書館を創設するについては、非常な熱心と希望と精力とを以て之に當つたものであることは言を要しないところであるが、當時四十五歳の彼は英雄崇拜論執筆中で他人の手さへ欲しい多忙の身であつた。それにも拘らずその多忙の中を非常な熱心を以て、學者、政治家を説いて賛同を求め、書肆を屢訪して寄附を勧誘し、又一方に於て新聞、雜誌紙上に、或は又演壇に立つて貸出圖書館の必要

を力説し、その計畫を推進したことであつた。

彼がこの貸出圖書館設立の計畫を發意した動因とも稱すべきものとして

- 1、クロンウエルの事績を調査するに當つて參考資料蒐集に苦心したこと。
- 2、大英博物館圖書館の雜踏甚しくして、靜讀に適せず、その上貸出を取扱はぬこと。
- 3、自己の靜肅な書齋に帶出を許す貸出圖書館が倫敦に無いこと。

等であると稱せられて居るが、また一説に従へば、彼は青年時代に於て既に、各都市に王立監獄を維持し得るのに、何故に王立圖書館を設け得ないのか、との論をなして居るが、之が、後年彼をして圖書館建設の爲めに力を致さしめたものである、とも稱せられる。

彼の熱心によりて得たる賛同者、會員の中には、

エリオット、ジョージ(海將)

キー、トーマス(文法學者・教授)

ギゾー(政治家・歴史家)

グラッドストーン (政治家)  
 サツカレー (小説家)  
 スコット (小説家)  
 スベツチング、ジエームス (著作家)  
 ダーウイン (博物学者)  
 デイツケンズ、チャールズ (小説家)  
 テニyson (詩人)  
 ナボレオン三世  
 ハラム、ヘンリー (史学者)  
 ビューゼイ、フィリップ  
 フォースタ、ジョン (政治家・著作家)  
 フォンブラング、アルバニー (エキザミナー主幹)  
 マコーレー (歴史家・政治家)  
 ミル、ジョン・スチュワート (哲学者・経済学者)  
 ミルネス、リチャード・モンクトン (政治家・蔵書家)  
 ミルマン (宗教学家)  
 モルベス卿 (政治家)  
 ラウンスダウン卿 (政治家)

リットン卿 (小説家・劇作家・政治家)  
 ルイス、コーンウォール  
 ロージャス、サミュエル (銀行家・詩人・批評家)  
 等が数へられ如何に彼の勸説が廣き範圍に届いたものであるか窺はれる。そして無二の協力者として、クリスチーを得、かくして倫敦圖書館は一八四一年倫敦ポール・モール街五十七番地にクレアレンドン伯を初代の館長とし、コチレーンを初代司書として開館の運びとなつたのである。當時の蔵書三千冊と稱せられてゐる。降つて一八七〇年館長クレアレンドン伯の逝去に遭ひ、カーライルは七十五歳の高齡を以て自ら館長の職に就き、爾來十一ヶ年身を終るまで館長の職に在つた。一八七五年最初の印刷目錄を出し、一八八一年にはその増補版を出してゐる。  
 なおカーライルは圖書、圖書館並に圖書館員に關する有益にして興味ある意見を吐露してゐる。司書の選任に關しクレアレンドン伯と論争した、その圖書館員を専門的職業なりと主張する意見の如き興味深いものであつた。

### グリム兄弟

Jacob Grimm, 1785—1863  
 Wilhelm Grimm, 1786—1859

グリム兄弟は獨逸ハナウの生れで、官吏の子供達である。弟ウィルヘルムと相前後して共にマールブルク大學に法學を修めたが、卒業後、兄は一八〇八年、弟は一八一四年相次いで生地カッセルの國立圖書館の館員となり、弟ウィルヘルムは果進して一八三〇年其副館長となつてゐる。館務のかたはら古代の研究に深い興味を持ち、兄弟力を併せて彼の有名な『子供と家庭と童話』及び多くの獨逸古詩に關する著作を發表してゐる。後、相次いでゲツチンゲン大學の教授に招聘せられたが、一八三七年學校騒動に座して共に罷免せられることとなり、カッセルに歸へつた。童話の作者グリムを知らない者はないと云つても過言でない位に人々に膾炙して居るこの兄弟が、二十ヶ年にも互る長い圖書館員生活の持主であつたことは残念ながらあまり知られて居ない。

### エドモンド・ゴッス

Sir Edmund William Gosse,

1849—1928

英人ゴッスは魯庵先生にソツクリの風貌を持つてゐる。

海洋動物學の大家であつたヒリップ・ヘンリー・ゴッスを父として、デボンシエアの別墅のやうなその小邸で人となり、イートンへもハロウへも送られずに、その教養は主として教師を家庭に聘して行はれたのであつた。十八歳の時大英博物館圖書館の圖書係を命ぜられたが、後年彼が書物の人として知られるやうになつた最初の機縁がこの時に與へられたのである。傳者の傳ふるところに據れば、六十年前の大英博物館の司書や助手などは、皆云ふに足らぬ小額の手當を給せられ、むさくるしい生活を立てゝゐたのであつたが、一方また、その入れ合せも無いではなかつたさうである。と云ふのは、仕事らしい仕事といふものは殆どなく、圖書館勤務の出納手達も、また、これを使ふ者も、みな一樣に莫大な閑暇を持つてゐた。長い廊下で球投げをする者もないではなく、畫筆を持つたり、ビヤボン：古樂器：を吹いたりして遊び暮してゐたものである。この間にあつて彼ゴッスの道樂は専ら讀書にあつたので、二階の廊下にあつたキングス・ライブラリーや、ゲリツク・ブレイスの中に没頭し、鰻魚食ふ革表紙の臭ひを嗅ぎながら、夢中

になつて、十七世紀文學とその埋没した作家達を獵りあさつてゐたのであつた、と云はれてゐる。

かくして一八七五年職を商務省の翻譯局に轉ずるに至る迄の、即ち十八歳から二十七歳迄の九年間を大英博物館の圖書館員として生活したのであつた。

彼は一八八四—一八八九年の間ケンブリッジ大學の英文學講師となり、次いで貴族院の圖書館に關係、一九二五年ナイトの稱號を許された。

**シャルル・ノディエ** Charles Nodier, 1780—1844

シャルル・ノディエは、十九世紀佛蘭西文學に於ける浪漫主義運動の中心人物の一人で、且つ珍書蒐集家でもあつた。と、作家としての彼は、清らかな無邪氣な感情の外に、極めて異常な豊富な想像力を持つてゐた。印刷術の許す様々な方法を用ひて作品の幻想的な効果を収めようとしたのも彼であつた。忘れられて居たロスタンのシラノ・ド・ベルジュラック—和名白野辨十郎—を世間に紹介したのも彼であつた。後年彼の小説「シヤン・スボガアル」が既に人々の記憶から忘れ去られやうとして居た時、料らずもナ

ボレオンの備忘録が公にせられ、この備忘録によつて、彼のこの小説が、かつて彼が攻撃の矢を向けた當の主人公ナボレオンその人によつて、セント・ヘレナの謫居の間、その鬱悒を忘れんが爲めの、しばしの友として選ばれて居たと云ふ次第が明白となつた。

彼は前記の通りナボレオン攻撃の短詩を書いた爲めに、數ヶ月投獄せられた等、大革命當時の蒼生として種々な苦難を嘗めたことであつたが、早熟な彼は十八歳の時既に言語學や博物學に關する著作をものしてゐた。革命避難者としてジュラやイタリー等を遁れ渡り、その間に新聞などを發行して居たこともあつたと云ふことである。一八二四年以來巴里アルヌナル圖書館の館長を勤め、其の住宅は若き浪漫派の文士を中心として小チユイリイと呼ばれた有名な文學的サロンとなつた。ユゴー、デュマ、ラマルテイエ、サント・ブーヴ、ミュツセ、ヴィエニエ等が、そこに集つた主なる文士であつた。

アルヌナル圖書館は、セイヌ河からバステイユに亘る舊巴里兵工廠の跡にあつて、その建物がもとシエリの築いた

兵工廠長官の住宅であつた由縁に、この名稱が附けられたのである。十八世紀の末葉長官アントアヌルネ・ドウ・ポールミーは、こゝに住ひ歴大な藏書を有して居た。アルトア伯—シャルル十世—これを購ひ、その有に歸したが後大革命に際し差押へられて公有となり、一七九三年四月二十八日始めて公開されたものである。後更にバステイユ記録所の寫本二、七二七冊と演劇關係の書籍三萬を加へてこの圖書館は歴史、演劇研究上殊に重要なものとなつた。一九二二年以來國立圖書館の經營管理の下に置かれ、藏書九十五萬、他に一萬を超える寫本、一萬二千の版畫を有し、殊にその古佛蘭西の詩劇に關する粉飾寫本は珍重とせられてゐる。

**ラフカディオ・ハーン** (小泉八雲) Lafcadio Hearn, 1850—1904

破れ着物、みすばらしい風采で、たゞ食を求むるに急な苦しい生活を送つてゐた移民小泉八雲は、そうした間にあつても公立圖書館などへ通つて修養を怠らなかつた。その浪々の身であつたシンシナテイ時代のことである。教養の深い親切な英國出身の活版屋ヘンリー・ワトキンへ紹介さ

れて、その食客となつて居たことがある。そこで掃除や使あるきなどをしながら、それでもその主人の藏書を借覽したりしてゐたと云ふ。この話の山はさうかうしてゐるうちに幸にもシンシナテイ公立圖書館長トマス・ヴィカースの秘書となることが出来たと云ふのにある。就職の時も、その期間も亦不明である。後に音楽批評家として名をなした友人クレイビエルへの手紙に、折々この館長のことや、その圖書館にある文學や音楽の珍書の事などを書き送つてゐると傳へられてゐるが、八雲はクレイビエル夫人と折合はず、ついで交通も絶えたらしい。一八六九年シンシナテイに移民列車で到着し、一八七四年の春に、シンシナテイ・インクワイアラー紙の記者となつて居るところからして、彼のこの圖書館員生活も、彼が十九歳から二十四歳迄の間に、親しく體驗することゝなつた生活の一斷片であらう。

**フランクリン** Benjamin Franklin, 1706—1790

フランクリンがペンシルバニアで獨立した今から二百三十餘年前の一七三〇年頃には、亞米利加の大部分には専門の書店などはなく、讀書の好きな人々は皆英本國よりわざ

わざ取寄せる以外には良い書物入手する方法がなかつたのである。フランクリンもその會員の一人であつたところのジャントー俱樂部では、當時その最初の集會場であつた酒場を止して別に會員グレース家の一部屋を借受け、協同研鑽の道場として居つたのであるが、フランクリンの主唱により、その部屋へ會員各自の持合せを持寄つて、各員蔵書の偉力を擴大強化した小文庫を形成した。この文庫は、俱樂部員の爲めには随分と役に立つたことであつたが、適當な管理が出来なかつた爲めに約一年の後には自然と解散することになつて了つたと云はれてゐる。併しこの自分の發案になる小文庫で、その便益を體驗したフランクリンは次いで一般會員組織により、本の與へる利益を一層普遍化せしめようと、會員組織圖書館の計畫を樹てた。そこで自らその草案を作り、公證人チャールス・プロックデンに見せて適當な定款とし、ジャントー俱樂部の援助の下に約五十名の會員を得、計畫は實現の緒についた。丁度一七三一年フランクリンが二十五歳の時のことである。この圖書館の各會員は、始め、先づ四十志宛を出し、其の後は會の存

續期間である五十ヶ年間毎年十志宛贈出する定めであつて會員の大部分は若い小商人であつた。この圖書館は毎週一回開かれて會員に貸出を取扱ひ、一定期間に返却する定めであり、萬一期日を失した延滞者には倍額の料金を科するものとせられ、さうした證文が取集められてあつたと言ふことである。この圖書館は後に法人として認可せられ、會員も亦百名に増加した。あの有名な費府圖書館はこの會員組織圖書館の成長したものであるとのことである。之についてフランクリンは「是は實に北亞米利加全體に亙り、今日、幾千をもつて數ふる公開圖書館の母であり、濫觴であり、之れが次第に發達し、遂に國家的重要な事業となり、尙ほ年と共に發達しつゝある様になつたのである。」と云ふて居るが、なほこの圖書館の會員募集についての苦心談をその自叙傳に縷々と述べてゐる。

政治家フランクリン、空中電氣を捕へたフランクリン、そのフランクリンは、今日あの盛大な亞米利加の圖書館事業の創始者であり、今日の意味に於ての公共圖書館の母であるのである。前記英吉利のカーライルと共に實に館界偉

人の双壁と稱すべき傑士である。

#### ライプニッツ Gottfried Wilhelm Leibniz, 1646—1716

かのアリストテレスにも比せられる學的萬能天才で、微分積分學の創唱者、自然科學、哲學、神學、歴史法學、政治學、經濟學、言語學の各方面に通じ、それ等の進歩に貢獻するところの多かつたライプニッツは、ライプチヒの生れ、ライプチヒ大學の倫理學教授の子であり、神童の譽れが高かつた。

後年、ライプニッツはその保護者のポイネブルグ及びマインツ侯の逝去によつて、パリに永住せんと劃して成らず、ヨハン・フリードリヒ侯の提言に従ひ、一六七六年ハノーヴァーに落付いた。ここではハノーヴァー家の顧問官となり同家圖書館の仕事に關係したりして居た。一六八七年ハノーヴァー家史編纂資料採收の爲め、伊太利へ旅行した時には、羅馬に於て、若しライプニッツが、天主教の教會に入るならば、バチカン圖書館の館長となさう、と招かれた。然し彼は遂にその招請に應じなかつた、と傳へられる。

一六九〇年、伊太利より歸りウォルフエンビュツテル圖

書館の圖書館長に任ぜられた。

更に、ブランデンブルグ選挙侯の宮廷の知遇に依り、招かれてベルリンに赴き、一七〇〇年七月選挙侯の誕辰を祝福記念する學士院を創立して其最初の、そして終身院長となり、一七二二年には、ウイーンで宮中顧問官の榮職をも與へられた。

一七一四年、當時ウォルフエンビュツテル圖書館の所蔵にかゝるマザランの遺文書に依つて、フィレンツェ繼承問題を解決したことがある。その文書は皇帝カール五世がメチチ家のものに與へられたものであつた。

ライプニッツとこの圖書館との關係は、ハノーヴァー侯との關係に連なつて終身的のものであつたやうであるが、今は寡聞にして、明かでない。

#### レッシング Gotthold Ephraim Lessing, 1725—1781

獨逸文學をして、佛蘭西文學乃至英國文學の模倣から脱せしめ、眞に獨逸文學特有の光輝を發せしめた偉大なる功勞者としてのレッシングは、一七二九年一月二十二日サクセン州カメンツに牧師の子として生れ、幼兒から神童を以

て稱せられた。十三歳の時には、マインツの中學校に於て『これは二匹前の秣を喰ふ馬である』と、受持教師をして、その知識吸収力の強さを驚嘆せしめたと傳へられて居る程である。

ライプチヒ大學に於て神學、博言學、文學、哲學、美術を修めてからの彼は、我々は獨逸固有の文藝を獎勵し、獨得の精彩を發揮すべきである。となし、劇壇に於て、文壇に於て烈々たる活躍を續けた。彼が社會的に地位を得たのは一七六五年ブレスラウのタウエンチン將軍の祕書官となつてからのことで、三十八歳の時、招かれて得意の裡にハンプルヒ獨逸國民劇場の經營を委ねられた。然しこの劇場は不幸一年ならずして、あへなく失敗に歸して了つた。この時のレッシングは、精神と物質との兩面の痛手に、失望と落膽の極、見るに偲びない憔悴に墜ちてゐたと云はれてゐる。

一七七〇年、ブルンスウィツク侯に招かれて、こゝに會てライプニッツを載いたことのある輝かしい歴史を持つたオルフェンビユツテルの圖書館長として聘せられたのであ

る。

レッシングは、圖書館長に就任後間もなくその藏書の中から、ベエレンガリウスが、ランフランクとの論争にものした聖餐の變體に關する論篇の寫本を發見して大いに喜んだことであつた。彼はこれに依つて一論文を草し、爲めに教會の嫌惡に觸れたりなどして、世人の耳目をそばたしめると共に、自らも積年の鬱を晴すことが出来たのであつた。それからの數年間、彼はその書庫の中に閉ぢこもつて藏書の中に全く埋まつて暮して居た。その結果は勿論數々の書物となつて現れたことであつた。かくてブルンスウィク侯庇護の下に、終身館長の職に居り、五十二歳を一期として榮ある身を終つたのである。

この小篇が生れ出でるについては種々の註料に資ふところが少なくない、それらを一つ／＼に列記して感謝すべきではあるが、こゝに餘白を借りてその概を要すこととする。

財團 大橋 圖書館 年表

三宅 隆編

これは、編者が、數年以前からその必要を感じて作成に取掛り乍ら中絶してゐたものを、急遽とりまとめたものである。杜撰疎漏の點は他日の訂正増補に期したく、諸賢の御教示を乞ふ次第である。尙、本年表の作成に關しては竹内主事の助言に預つたことと、開館初期の豫算額につき石井司書の助力を得たことを附記して、右謝意を表するものである。〔昭和十三年二月〕

明 年 四 三 治 明		年 度 年 業	長 事	主 館 主
<p>一月廿七日 大橋佐平氏我帝國ノ主都タル東京ニ公 共圖書館ノ施設全カラザルヲ遺憾トシ私立圖書館 ノ設立ヲ志シ其一切ノ經營ヲ男爵石黒忠憲、文學 博士上田萬年、帝國圖書館長田中稻城ノ三氏ニ委 嘱ス</p> <p>七月廿六日 圖書館敷地ヲ東京市麹町區上六番町四 十四番地大橋氏邸内ノ一隅ニトシ此日起工ス</p> <p>十一月三日 大橋佐平氏逝去</p> <p>二月十六日 東京外國語學校教授伊東平藏、博文館 員岸上操兩氏ニ圖書館一切ノ組織及諸規則ノ起草 ヲ委嘱ス</p> <p>五月廿五日 大橋佐平氏嗣子新太郎氏父君ノ遺志ヲ 繼承シテ本館寄附行爲證書ヲ作成シ財團法人設立 願ヲ文部大臣ニ申達ス而シテ寄附行爲證書第十三 及第十四條ニ依リ協議員十五名ヲ選ビ左ノ諸氏ニ</p>		<p>員 員</p> <p>額 總 產 資 會</p> <p>算 豫 度 年 計</p> <p>增 遞 內 度 年 藏</p> <p>書 贈 寄 同 年 書</p> <p>計 總 末 度 年</p> <p>數 日 館 開</p> <p>計 總 員 人 覽</p> <p>均 平 日 一 事</p> <p>均 平 數 冊 項</p> <p>均 平 日 一</p> <p>均 平 人 一</p>		
		<p>催 物</p> <p>刊 行 物</p>		

五 第 一 年		五 第 一 年	
忠 平		忠 平	
忠 平		忠 平	
大橋新太郎			
更ラニ石黒協議員長ヲ推シテ圖書館長ノ就任ヲ請ヒ其承諾ヲ得タリ			
六月七日 建築竣工、延坪本館百九十五、書庫七十二、計二百六十七坪			
六月十一日 文部大臣ヨリ財團法人設立許可ノ指令アリ、即チ東京區裁判所ニ登記ヲ申請ス。其出資方法ハ總額ヲ金拾貳萬五千圓トナシ、先ヅ圖書館建築費及圖書購入資金トシテ金五萬圓ヲ開館當日迄ニ支出シ、維持基本金五萬圓及維持費金貳萬五千圓ハ向フ五箇年間ニ一定額ヲ拂込ムコトトセリ			
六月十四日 第二回協議員會			
六月十五日 開館式ヲ舉行。			
開館式ニ先チ館内ニ安置セル大橋佐平氏ノ銅像除幕式ヲ行フ。(像ハ大熊氏廣氏作・鈴木長吉氏鑄)			
六月十六日 法人登記手續完了			
六月十七日 大橋圖書館設立開申書進達願ヲ東京府知事ニ提出			
六月十九日 主事ニ伊東平藏氏ヲ、副主事ニ岸上操氏ヲ囑託			
15		15	
126,127.871		125,000圓000	
決算 18,752.674		決算 53,363圓160	
15,070		29,470冊	
8,091		10日	
44,540		3,201人	
338		320人	
64,350		11,933冊	
190		1,193冊	
241,972		3.冊7	
716			
3.8			

三 治		三 治	
石 伊		石 伊	
黒 東		黒 東	
大橋新太郎			
囑託シテ其承諾ヲ得タリ			
男 爵 石黒 忠應 子 爵 牧野 忠篤			
男 爵 横井 時敬 子 爵 手島 精一			
法律博士 高田 早苗 寺田 勇吉			
田中 稻城 菊池長四郎			
都筑 馨六 宮川 保全			
文學博士 上田 萬年 大橋 省吾			
安田善次郎 坪谷善四郎			
次デ男爵石黒忠應氏ニ請フテ協議員長トナシ且同證書第十八、十九、廿一、廿二條ニ依リ理事五名監事二名ヲ互選シ左記ノ如ク承諾ヲ得タリ			
理事 男 爵 石黒 忠應			
上田 萬年			
宮川 保全			
坪谷善四郎			
安田善次郎			
15		15	
125,000圓000		125,000圓000	
決算 53,363圓160		決算 53,363圓160	
29,470冊		29,470冊	
10日		10日	
3,201人		3,201人	
320人		320人	
11,933冊		11,933冊	
1,193冊		1,193冊	
3.冊7		3.冊7	
催し物			
刊行物			



年七三治明		年六三治明		年五三治明	
三第	年	二第	年	一第	年
<p>六月廿日 一般公衆ノ閲覧ヲ開始</p> <p>四月 副主事岸上操辭任</p> <p>七月十九日 第三回協議員會</p> <p>七月 夜間開館規定ヲ制定</p> <p>八月一日 夜間開館ヲ實施</p> <p>十月十四日 第四回協議員會</p> <p>十一月一日 十月中本館規則ニ改正ヲ加ヘ此日ヨリ實施</p>					
15	15	15	15	15	15
19	19	19	19	19	19
126,648.930	126,173.316	126,648.930	126,173.316	126,648.930	126,173.316
18,523.400	4,994.300	18,523.400	4,994.300	18,523.400	4,994.300
減 636	2,925	減 636	2,925	減 636	2,925
853	1,579	853	1,579	853	1,579
46,829	47,465	46,829	47,465	46,829	47,465
341	341	341	341	341	341
70,951	71,435	70,951	71,435	70,951	71,435
208	209	208	209	208	209
273,778	252,237	273,778	252,237	273,778	252,237
799	740	799	740	799	740
3.9	3.5	3.9	3.5	3.9	3.5
<p>八月一日(二週開館) 圖書部事務費會 (日本文庫館費主催)</p> <p>十一月十日 大體圖書部第一報 (六・六)</p>					
<p>附帶 催し物</p> <p>刊行物</p>					

年九三治明		年八三治明		年七三治明	
五第	年	四第	年	三第	年
<p>九月八日 亡大橋八重子、大橋貞子紀念圖書購入資 金トシテ父大橋新太郎、大橋省吾兩氏ヨリ金貳百 圓ヲ寄附セラル</p> <p>九月十一日 第五回協議員會</p> <p>四月一日 理事兼協議員兼館長男府石黑忠憲氏軍功 ニ依リ勳一等旭日大綬章ヲ賜ハル</p> <p>四月 監事兼協議員大橋新太郎氏明治卅五年以降五 箇年間ニ分割出資セラルベキ維持基金及維持費 ヲ一箇年間繰上ゲ全額支出セラレタリ</p> <p>七月九日 第六回協議員會</p> <p>九月十日 主事伊東平藏氏東京市立日比谷圖書館主 事ニ轉任理事坪谷善四郎氏ニ後任ヲ囑託ス</p> <p>十一月五日 理事會ヲ開催シテ圖書分類目錄印刷ノ 件、東京勸業博覽會へ出品ノ件等ヲ協議決定</p>					
15	15	15	15	15	15
21	19	21	19	21	19
150,715.432	128,941.765	150,715.432	128,941.765	150,715.432	128,941.765
8,108.380	19,594.620	8,108.380	19,594.620	8,108.380	19,594.620
2,803	4,041	2,803	4,041	2,803	4,041
2,708	1,209	2,708	1,209	2,708	1,209
53,673	50,870	53,673	50,870	53,673	50,870
341	339	341	339	341	339
81,084	79,828	81,084	79,828	81,084	79,828
238	235	238	235	238	235
300,268	305,282	300,268	305,282	300,268	305,282
881	901	881	901	881	901
3.7	3.8	3.7	3.8	3.7	3.8
<p>九月十六日 大體圖書部第一報 (九・六)</p> <p>九月廿八日 大體圖書部第三報 (八・六)</p>					

四治明	年六第	四治明	年七第	年八第	年九第
<p>二月 東京勸業博覽會ニ九點二百十四個ノ參考品ヲ出品ス(二等賞ヲ受ク)</p> <p>四月 監事兼協議員大橋新太郎氏右出品物ノ陳列場整備費トシテ金八拾九圓八拾錢ヲ寄附セララル</p> <p>六月十五日 大橋新太郎、大橋佐太郎兩氏ヨリ博文館創業二十周年紀念トシテ圖書購入費金壹千圓ヲ寄贈セララル、仍テ故大橋乙羽氏紀念圖書ヲ購入備付タ</p> <p>六月卅日 和漢圖書分類目錄ヲ刊行</p> <p>七月一日 第七回協議員會</p> <p>十一月二日 大橋省吾、大橋佐太郎、大橋幹二、大橋光吉四氏先考七回忌紀念ノタメ本館基本金トシテ金百五拾圓ヲ寄附セララル</p> <p>七月三日 第八回協議員會</p> <p>七月六日 和漢圖書分類增加目錄ヲ刊行</p>					
15	22	159,733.967	11,021.080	1,899	* 2,943 (雜誌ヲ含ム)
342	94,193	275	368,741	1,078	3.5
<p>三月 東京勸業博覽會(九點二一四圓)</p> <p>八月廿日 大橋新太郎氏右出品物ノ陳列場整備費トシテ金八拾九圓八拾錢ヲ寄附セララル</p> <p>六月 和漢圖書分類目錄</p> <p>現在(明治三十八年六月末)</p>					

四〇

四治明	年六第	四治明	年七第	年八第	年九第
<p>八月三日 協議員法學博士都筑巖六氏勳功ニ依リ特ニ男爵ヲ授ケラル</p> <p>六月卅日 洋書目錄ヲ刊行</p> <p>七月一日 規則ニ若干ノ改正ヲ加ヘ此日ヨリ實施</p> <p>七月二日 第九回協議員會</p> <p>七月九日 第十回協議員會</p> <p>十二月 館外帶出假規則ヲ決定</p> <p>一月六日 館外帶出假規則ヲ此日ヨリ實施</p>					
15	21	179,050.745	10,200.33	5,101	1,001
22	21	10,200.33	5,101	1,001	1,001
165,691.73	10,559.23	929	* 1,146 (雜誌ヲ含ム)	56,501	342
91,590	268	343,510	1,004	3.7	
<p>六月 和漢圖書分類增加目錄</p> <p>四月 大橋新太郎、大橋佐太郎、大橋幹二、大橋光吉四氏先考七回忌紀念ノタメ本館基本金トシテ金百五拾圓ヲ寄附セララル</p> <p>八月 大橋新太郎、大橋佐太郎、大橋幹二、大橋光吉四氏先考七回忌紀念ノタメ本館基本金トシテ金百五拾圓ヲ寄附セララル</p> <p>六月 和漢圖書分類目錄</p> <p>現在(明治三十八年六月末)</p>					

四一

年元正大・五四治明		年四四治明		年度	事業	啓事館主
一第	年〇	一第	年	度	業	主
				事務		
				長		
				事		
				摘		
				要		
一月卅日 協議員大橋省吾氏逝去、補缺トシテ大橋進一氏ヲ推薦 七月十四日 第十一回協議員會						
四月一日 從來ハ雜誌新聞室ノミ夜間開館シタルモ前年六月夜間開館規則ヲ改メ更ニ各閱覽室全部ヲ開館スルコトトシ此日ヨリ實施 七月八日 第十二回協議員會 八月一日 夜間開館規則ヲ廢シ開閉時間ヲ三月一日ヨリ十月卅日迄ヲ午前八時開館午後九時閉館トナシ此日ヨリ實施 十二月廿六日 和漢圖書分類增加目錄ヲ刊行						
15	15	15	15	員	役館	
25	24	25	24	員	會計	
186,571.58	180,834.935	186,571.58	180,834.935	額總	資年	
10,500.50	10,347.71	10,500.50	10,347.71	算豫	度年	
2,668	減 10,132	2,668	減 10,132	増減	内度	
740	823	740	823	書贈	寄同	
57,328	54,660	57,328	54,660	計總	末度	
337	342	337	342	數日	館開	
102,112	98,144	102,112	98,144	計總	員一	
303	287	303	287	均平	日一	
404,350	387,894	404,350	387,894	計總	數日	
1,200	1,169	1,200	1,169	均平	冊一	
4.0	4.0	4.0	4.0	均平	人一	
				催	附	
				し	帶	
				物	事	
				刊	業	
				行		
				物		

四二

年四正大		年三正大		年二正大	
一第	年三	一第	年二	一第	年一
七月七日 第十三回協議員會 十一月一日 夜間開館ヲ延長シ此日ヨリ十一月末日迄午後九時閉館トナス 七月七日 第十四回協議員會 一月六日 閱覽規則ヲ改正シテ十二月一日ヨリ翌年二月末日ニ至ル夜間開館ヲ實施シ閉館時間ヲ午後八時トシ此日ヨリ實行ス 七月七日 第十五回協議員會 十月十日 監事兼協議員大橋新太郎氏御即位御大典ニ際シ特旨ヲ以テ從五位ニ敘セラル					
15	15	15	15	15	15
26	26	26	26	26	26
179,578.41	192,641.51	179,578.41	192,641.51	179,578.41	192,641.51
12,032.24	11,260.63	12,032.24	11,260.63	12,032.24	11,260.63
4,667	3,123	4,667	3,123	4,667	3,123
※ 5,200	1,046	※ 5,200	1,046	※ 5,200	1,046
65,118	60,451	65,118	60,451	65,118	60,451
343	336	343	336	343	336
112,519	104,743	112,519	104,743	112,519	104,743
328	312	328	312	328	312
406,228	385,553	406,228	385,553	406,228	385,553
1,184	1,047	1,184	1,047	1,184	1,047
3.6	3.7	3.6	3.7	3.6	3.7
三月廿七日 通館教育講演會(二) 人向 三月廿八日 通館教育講演會(一) 人向		三月廿七日 通館教育講演會(一) 人向 三月廿八日 通館教育講演會(二) 少年向		四月廿六日 通館教育講演會(一) 人向 四月廿七日 通館教育講演會(二) 少年向	
八月 大橋圖書館第十三年 大正三・七・一三 大正三・七・一三		八月 大橋圖書館第十二年 大正二・七・一三 大正二・七・一三		八月 大橋圖書館第十一年 大正一・七・一三 大正一・七・一三	

四三

年六正大		年五正大		年四一		年度	曆事
六 一 第		年 五 一 第		年 四 一		度 年 業	館 主
郎 四 善 谷 坪		" "		" "		長 事	
		七月七日 第十六回協議員會				摘	
七月七日 第十七回協議員會 九月六日 理事兼協議員男爵石黒忠恵氏館長ヲ辭任 シ理事兼協議員坪谷善四郎氏館長ニ就任						要	
15	15	15	15	15	15	員	役 館
26	25	25	25	25	25	員	員
275,259.403	268,300.125	184,872.312	184,872.312	184,872.312	184,872.312	額 總 產 資	會 計
14,792.32	12,771.01	12,550.15	12,550.15	12,550.15	12,550.15	算 豫 度 年	計
2,817	2,407	2,816	2,816	2,816	2,816	增 遞 內 度 年	藏 書
859	※ 5,861 (雜誌ヲ含ム)	※ 5,861 (雜誌ヲ含ム)	※ 5,861 (雜誌ヲ含ム)	※ 5,861 (雜誌ヲ含ム)	※ 5,861 (雜誌ヲ含ム)	書 贈 寄 同	書
73,158	70,341	67,934	67,934	67,934	67,934	計 總 末 度 年	計
343	340	339	339	339	339	數 日 館 開	閱 覽 事 項
138,088	129,633	125,303	125,303	125,303	125,303	計 總 員 人	計
403	381	370	370	370	370	均 平 日 一	均
417,013	403,117	432,681	432,681	432,681	432,681	計 總 數 冊	計
1,216	1,186	1,276	1,276	1,276	1,276	均 平 日 一	均
3.0	3.1	3.5	3.5	3.5	3.5	均 平 人 一	均
六月九日 通俗教育講演會(一) 授向		七月八日 通俗教育講演會(一) 授向		七月八日 通俗教育講演會(一) 授向		催 し 物	附 帶 事 業
八月 大正圖書館第十六年 報(大正五・七・七六)		八月 大正圖書館第十四年 報(大正四・七・五)		八月 大正圖書館第十四年 報(大正四・七・五)		刊 行 物	

年八正大		年七正大		年七正大	
年 八 一 第		年 七 一 第		年 七 一 第	
" "		" "		" "	
七月五日 第十九回協議員會		七月九日 公益法人トシテ認定サル 二月十七日 理事兼協議員男爵石黒忠恵氏樞密院顧問官ニ親任サル 七月九日 第廿回協議員會 七月十日 安田善次郎氏ヨリ將來大樞圖書館改築ノ際ハ全五萬圓ヲ密附スベキ旨口頭ヲ以テ坪谷館長ニ申出アリ(當時既ニ理事者間ニハ近キ將來ニ於		一月廿一日 協議員手島精一氏逝去 補缺トシテ山本留次氏ヲ推薦ス 七月九日 第十八回協議員會	
15	15	15	15	15	15
25	24	24	24	24	24
287,630.089	281,118.666	281,118.666	281,118.666	281,118.666	281,118.666
16,068.20	15,195.70	15,195.70	15,195.70	15,195.70	15,195.70
2,775	2,477	2,477	2,477	2,477	2,477
630	770	770	770	770	770
78,410	75,635	75,635	75,635	75,635	75,635
343	338	338	338	338	338
140,417	139,979	139,979	139,979	139,979	139,979
409	414	414	414	414	414
377,267	411,028	411,028	411,028	411,028	411,028
1,110	1,216	1,216	1,216	1,216	1,216
2.7	3.0	3.0	3.0	3.0	3.0
五月十五日 通俗教育講演會(一) 授向		八月 大正圖書館第十六年 報(大正六・七・七)		八月 大正圖書館第十六年 報(大正六・七・七)	
九月 大正圖書館第十七年 報(大正七・七・八)		九月 大正圖書館第十七年 報(大正七・七・八)		九月 大正圖書館第十七年 報(大正七・七・八)	
九月 大正圖書館第十八年 報(大正八・七・九)		九月 大正圖書館第十八年 報(大正八・七・九)		九月 大正圖書館第十八年 報(大正八・七・九)	

正 大	年 〇 一 正 大	年 九	年 九 一	年 度 年 業 事 館 主
〇 二 第	〇 二 第	年 九 一	年 九 一	長 事
井 島				主
<p>七月一日 鳥井熊一郎氏主事ニ就任</p> <p>七月七日 第廿二回協議員會</p> <p>七月九日 第廿一回協議員會 規則改正(閱覽料値上)決定</p> <p>九月廿八日 監事兼協議員安田善次郎氏逝去</p> <p>十月十一日 協議員寺田勇吉氏逝去</p> <p>十二月廿六日 監事兼協議員大橋新太郎氏大正十年七月恩賜財團濟生會へ金參萬圓ヲ寄附シタル慶ニヨリ紺綬褒章ヲ下賜セラル</p> <p>八月廿八日 協議員菊池長四郎氏逝去</p> <p>九月四日 理事兼協議員男爵石黒忠憲氏子爵ニ陞叙セラル</p> <p>テ適當ノ地ニ本館ヲ移轉新築スベキ内議アリタルニヨル)</p>				<p>摘 要</p> <p>役員</p> <p>員 員</p> <p>資 産 會 計</p> <p>額 總 産 資</p> <p>算 豫 度 年</p> <p>增 進 内 度 年</p> <p>書 贈 寄 同 年</p> <p>計 總 末 度 年</p> <p>閱 覽 事 項</p> <p>數 日 館 開</p> <p>計 總 員 人</p> <p>均 平 日 一</p> <p>計 總 數 冊</p> <p>均 平 日 一</p> <p>均 平 人 一</p>
12	14	24	22	307,550.91
24	22	21,809.77	18,317.80	24,327.27
3,049	2,744	694	929	3,654
84,203	81,154	341	324	87,857
341	324	131,639	140,661	342
386	411	272,557	323,692	126,838
799	946	2.1	2.3	371
2.1	2.3			271,309
				793
				2.1
九月 報大 一九一〇年七月	十一月 報大 一九一〇年七月			

附 帶 事 業

催 し 物

刊 行 物

※ハ他ノ主催ニ本館ヨリ出品セルモノ

十一月  
報大 一九一〇年七月

九月 報大 一九一〇年七月

二 正 大	年 一 一	年 一 一
二 第	二 第	二 第
井 島	熊 一 郎	
<p>監事補缺トシテ山本留次氏當選就任</p> <p>十一月廿五日 理事兼協議員宮川保全氏逝去</p> <p>一月 監事兼協議員大橋新太郎氏ヨリ金五拾萬圓寄附ノ申出アリ。但其内金貳拾五萬圓ハ新築費、其他ハ維持基本金トシテ大正十二年二月ヨリ大正十五年六月迄ニ提供ヲ約セラル</p> <p>七月五日 協議員男爵郡筑霽六氏逝去</p> <p>七月六日 第廿三回協議員會</p> <p>七月廿八日 監事兼協議員大橋新太郎氏寄附金ヲ以テ本館ノ改築豫定敷地トシテ麹町區飯田町一丁目五番地及六番地ニ於テ宅地三百七十八坪四合四勺ヲ購入ス</p> <p>九月一日 關東大震災ノ厄ヲ蒙リ建物ト藏書(八萬八千餘冊)トヲ舉ゲテ灰燼ニ歸ス</p> <p>當時本館ノ資産總額ハ金參拾貳萬百六圓八拾四錢參厘ニシテ其内維持基本金ハ金貳拾四萬壹千四百拾五圓貳拾六錢ナリ。</p>		
11	24	320,106.843
24	22	24,327.27
3,049	2,744	3,654
84,203	81,154	87,857
341	324	342
131,639	140,661	126,838
386	411	371
272,557	323,692	271,309
799	946	793
2.1	2.3	2.1

大正三年		大正二年		大正一年		大正三年	
第 二 年		第 二 年		第 一 年		第 二 年	
主 事 長		主 事 長		主 事 長		主 事 長	
<p>同日 本館假事務所ヲ東京市牛込區北山伏町二十九番地坪谷善四郎氏方ニ置ク</p> <p>九月 安田善次郎氏先代ノ遺志ニヨリ圖書購入費トシテ大正十五年五月以降金五萬圓ヲ五回ニ分割シテ寄附スベキ旨ノ申出アリタリ</p> <p>一月九日 理事兼協議員子爵石黒忠惠氏特旨ヲ以テ宮中杖ヲ差許サル</p> <p>二月一日 坪谷館長多年社會事業ニ盡瘁シタル功ニヨリ勳五等ニ叙セラル</p> <p>二月廿一日 舊館燒跡ニ假事務所ヲ移轉</p> <p>三月七日 木川華子氏ヨリ夫君故木川惠二郎氏ノ追善ノタメ金貳百圓ヲ寄附セラル</p> <p>七月七日 第廿四回協議員會</p> <p>故宮川保全氏ノ補缺トシテ星野準一郎氏理事兼協議員ニ當選ス</p>							
10	4	277,299.49	25,243.95	10,349	60	17,209	287
				大正十二年七月・八ニケ月分		43,891	732
							2.6
役員		會計		藏書		閱覽事項	
額總産資		算豫年度年		増減内年度同		計總未年度年	
日館開		計總員人		均平日一		計總日册	
均平日一		均平日一		均平日一		均平日一	
催し物		刊行物					

大正四年		大正三年		大正二年		大正一年	
第 一 年		第 一 年		第 一 年		第 一 年	
主 事 長		主 事 長		主 事 長		主 事 長	
<p>十月一日 館外圖書貸出事務ヲ開始</p> <p>一月卅一日 監事兼協議員大橋新太郎氏ヨリ義ニ申出ノ建築費トシテ金貳拾五萬圓ヲ寄附セラル</p> <p>二月廿二日 理事兼協議員田中稻城氏逝去</p> <p>三月十九日 坪谷館長理事星野準一郎氏ト共ニ駒町區飯田町一丁目六番地ニ於ケル新館敷地現場ニ臨ミ設計ノ地位ヲ決定ス</p> <p>四月十七日 坪谷館長清水組ノ森田正太郎、海野浩太郎兩氏ヲ伴ヒ大橋新太郎氏ト會見シ建築請負ノ契約ヲ結ブ</p> <p>五月十七日 假事務所ヲ駒町區上六番町四十六番地ニ移轉</p> <p>五月廿一日 警視廳ヨリ建築工事ノ認可アリ即日起工</p> <p>七月八日 第廿五回協議員會</p> <p>協議員補缺トシテ文學博士姉崎正治氏當選</p> <p>十二月廿五日 監事兼協議員大橋新太郎氏維持基本金トシテ金拾萬圓ヲ寄附セラル</p> <p>二月廿七日 監事兼協議員大橋新太郎氏維持基本金</p>							
10	7	547,344.21	20,190.39	13,085	23,434	3,022	11
						8,946	33
							3.0
十三一年一月ヨリ館外貸出ノミ							
催し物		刊行物					

事務館主	年度	正	大	五
長事	年	四	二	一
事	業	年	年	年
摘要	トシテ金五萬圓ヲ寄附セラル	三月廿八日 事務室ヲ建築中ノ本館内ニ移轉	四月廿六日 監事兼協議員大橋新太郎氏維持基本金トシテ金五萬圓ヲ寄附セラル	五月十七日 安田善次郎氏圖書購入費トシテ金五萬圓寄附申出ノ内第一回分金壹萬圓ヲ寄附セラル
役員	六月三日 第廿六回協議員會	本館寄附行爲證書第十三條ヲ變更シ、協議員二十名以内ヲ置タコトナシ、補缺トシテ醫學博士木村德衛、林平次郎、長谷川誠也、大橋武雄ノ四氏當選ス	六月十五日 新築落成、開館式ヲ舉行。來賓約五百餘人、若槻内閣總理大臣以下ノ祝辭及演説アリ。此日寄附行爲證書中變更ノ件文部大臣ヨリ認可サル	同日 監事兼協議員大橋新太郎氏維持基本金トシテ
會計	15	32	1068,853.85	23,298.02
藏書	16,394	12,734	39,828	5,391
閱覽事項	15	14,071	39	2.6
附帶事業	催し物	六月十五日、十八日 六月 復興の大禮圖書部	九月廿四日、廿六日 日本エスベラント空	十一月十二日、十四日 古今名家手紙展覽會

昭	元	和
第	二	五
年	年	年
更ニ金貳拾五萬圓ヲ追加シテ寄附セラル	六月十六日 飯田町一丁目ノ全住民、東京市内各小學校長、本館關係ノ各書店及大橋氏關係各方面ノ人々一千餘名ヲ招待ス	六月廿九日 監事兼協議員大橋新太郎氏維持基本金トシテ金五萬圓ヲ寄附セラル。是ニテ同氏ヨリ金七拾五萬圓寄附ノ全額ヲ受領ス
協議員補缺トシテ安田善次郎氏當選	七月一日 一般公衆ノ閱覽ヲ開始	七月十日 第廿七回協議員會
六月六日 安田善次郎氏圖書購入費寄附ノ内第二回分金壹萬圓ヲ受領ス	六月十四日 監事兼協議員大橋新太郎氏大正九年四月長岡市公園設置費金壹萬五千圓ヲ寄附シタル慶ニヨリ紺綬褒章頒版一箇ヲ下賜セラル	六月十八日 東京堂社長大橋省吾氏金壹千五百圓ヲ寄附セラル
七月九日 第廿八回協議員會	八月一日 理事兼協議員子爵石黒忠憲氏正二位ニ敘セラル	
16	45	1102,235.25
55,316.02	15,869	5,232
55,697	337	252,979
751	599,252	1,778
2.4		
七月一日、三日 海へ・山へ・旅行會	十一月五日、七日 古傳書展覽會	十二月 大禮圖書部第廿一回 昭和(大正一・六)

昭和六年		二年		度年業		長事館主					
和		昭		年		二					
年		六		二		第					
内		竹		事		事					
<p>九月一日 児童閲覧室ヲ閉鎖シ婦人閲覧室ニ改ム</p> <p>十一月一日 協議員農學博士横井時敬氏薨去</p> <p>十一月廿三日 主事島井熊一郎氏死去</p> <p>十二月十八日 會計事務ノ刷新ヲ圖ルタメ坪谷館長星野理事、竹内善作氏等協議ノ結果、帳簿全部ヲ複式簿記ニ改メ明年一月ヨリ實行ノコトニ決定ス</p> <p>一月元旦 竹内善作氏ニ主事ヲ囑託</p> <p>會計様式ヲ此日ヨリ改ム</p> <p>三月廿一日 有給職員處務規程及處務細則、勤務及休暇規程、出勤簿整理規程、除服出仕規程ヲ制定</p> <p>四月一日 右諸規程ヲ實行ス</p> <p>同日 竹内善作氏主事ニ就任。事務分掌更新サル</p> <p>六月六日 安田善次郎氏寄附圖書購入費ノ内第三回分金壹萬圓ヲ受領</p> <p>七月五日 監事兼協議員大橋新太郎氏金澤文庫ノ復</p>				<p>15</p> <p>45</p> <p>1146,633.46</p> <p>60,434.19</p> <p>12,226</p> <p>1,839</p> <p>67,923</p> <p>335</p> <p>256,320</p> <p>762</p> <p>600,815</p> <p>1,785</p> <p>2.4</p>		<p>員</p> <p>員</p> <p>額總産資</p> <p>算豫度年</p> <p>増進内度年</p> <p>書贈寄同</p> <p>計總末度年</p> <p>數日館開</p> <p>計總員一</p> <p>均平日一</p> <p>計總數一</p> <p>均平日一</p> <p>均平人一</p>		<p>役館會計</p> <p>員</p> <p>類總産資</p> <p>算豫度年</p> <p>増進内度年</p> <p>書贈寄同</p> <p>計總末度年</p> <p>數日館開</p> <p>計總員一</p> <p>均平日一</p> <p>計總數一</p> <p>均平日一</p> <p>均平人一</p>		<p>附帶事業</p> <p>催し物</p> <p>刊行物</p>	
<p>※一月三日—廿三日 松屋製菓店 松屋製菓店 松屋製菓店 (八點)</p> <p>※三月一日—廿五日 松屋製菓店 松屋製菓店 松屋製菓店 (二五點)</p> <p>※四月廿一日—廿四日 明治大學 明治大學 明治大學 (二點)</p> <p>※五月九日—十四日 三越呉服店 三越呉服店 三越呉服店 (三點)</p> <p>※五月一日—十九日 資生堂 資生堂 資生堂 (三點)</p> <p>※一月三日—廿三日 松屋製菓店 松屋製菓店 松屋製菓店 (八點)</p> <p>※三月一日—廿五日 松屋製菓店 松屋製菓店 松屋製菓店 (二五點)</p> <p>※四月廿一日—廿四日 明治大學 明治大學 明治大學 (二點)</p> <p>※五月九日—十四日 三越呉服店 三越呉服店 三越呉服店 (三點)</p> <p>※五月一日—十九日 資生堂 資生堂 資生堂 (三點)</p>				<p>十月</p> <p>大橋新太郎氏</p> <p>三・六・七</p> <p>三・六・七</p> <p>三・六・七</p> <p>三・六・七</p>		<p>十月</p> <p>大橋新太郎氏</p> <p>三・六・七</p> <p>三・六・七</p> <p>三・六・七</p> <p>三・六・七</p>					

昭和七年		三年		度年業		長事館主					
和		昭		年		二					
年		七		二		第					
内		竹		事		事					
<p>興建築費トシテ金五萬圓ヲ神奈川県ニ寄附セラル</p> <p>(坪谷館長持參シテ神奈川県知事池田宏氏ニ手交ス)</p> <p>七月九日 第廿九回協議員會</p> <p>十一月一日 閱覽規程ヲ改正シ一年ヲ通ジテ閉館時間ヲ午後九時トス</p> <p>一月廿六日 監事兼協議員大橋新太郎氏大正十二年十二月大震災善後會へ金壹萬圓寄附セシ廉ニヨリ紺綬褒章飾版一箇ヲ下賜セラル</p> <p>二月十八日 監事兼協議員大橋新太郎氏大正九年三月明治神宮奉賛會へ金壹萬圓寄附セシ廉ニヨリ紺綬褒章飾版一箇ヲ下賜セラル</p> <p>五月二日 本館ノ創立ニ當リ功勞アリタル伊東平藏氏逝去</p> <p>六月五日 安田善次郎氏寄附圖書購入費ノ内第四回分金壹萬圓ヲ受領</p> <p>六月十九日 監事兼協議員大橋新太郎氏大正十年四月室蘭區道路及排水溝敷地トシテ土地ヲ寄附セシ廉ニヨリ紺綬褒章飾版一箇ヲ下賜セラル</p> <p>七月三日 黒井第次郎氏ノ仲介ニテ杉原謙氏荏戸太</p>				<p>15</p> <p>45</p> <p>1181,326.33</p> <p>68,531.92</p> <p>9,014</p> <p>2,142</p> <p>76,937</p> <p>331</p> <p>261,515</p> <p>787</p> <p>593,950</p> <p>1,787</p> <p>2.3</p>		<p>員</p> <p>員</p> <p>額總産資</p> <p>算豫度年</p> <p>増進内度年</p> <p>書贈寄同</p> <p>計總末度年</p> <p>數日館開</p> <p>計總員一</p> <p>均平日一</p> <p>計總數一</p> <p>均平日一</p> <p>均平人一</p>		<p>役館會計</p> <p>員</p> <p>類總産資</p> <p>算豫度年</p> <p>増進内度年</p> <p>書贈寄同</p> <p>計總末度年</p> <p>數日館開</p> <p>計總員一</p> <p>均平日一</p> <p>計總數一</p> <p>均平日一</p> <p>均平人一</p>		<p>附帶事業</p> <p>催し物</p> <p>刊行物</p>	
<p>※一月二〇日—二七日 三越呉服店 武蔵野 廣貨會 (九七點)</p> <p>※四月二八日—五月二日 日知新聞社 廣貨會 (一七點)</p> <p>※十一月一日—三日 江戸城内祭 廣貨會</p> <p>※一月三日—廿三日 松屋製菓店 松屋製菓店 松屋製菓店 (八點)</p> <p>※三月一日—廿五日 松屋製菓店 松屋製菓店 松屋製菓店 (二五點)</p> <p>※四月廿一日—廿四日 明治大學 明治大學 明治大學 (二點)</p> <p>※五月九日—十四日 三越呉服店 三越呉服店 三越呉服店 (三點)</p> <p>※五月一日—十九日 資生堂 資生堂 資生堂 (三點)</p>				<p>十月</p> <p>大橋新太郎氏</p> <p>三・六・七</p> <p>三・六・七</p> <p>三・六・七</p> <p>三・六・七</p>		<p>十月</p> <p>大橋新太郎氏</p> <p>三・六・七</p> <p>三・六・七</p> <p>三・六・七</p> <p>三・六・七</p>					



昭和五年 第八年度 業務報告書

燕翁文書ノ寄託契約成ル  
 七月九日 第三十回協議員會  
 七月十日 東京堂社長大橋省吾氏ヨリ金壹千圓ヲ寄附セラル  
 八月一日 圖書分類ノ改善ニ着手  
 六月九日 安田善次郎氏寄附圖書購入費ノ内第五回分金壹萬圓ヲ受領是ニテ金五萬圓全額ヲ受ク  
 七月九日 第卅一回協議員會  
 十一月十一日 研究室及學生自修室ヲ新設シ、地階ニ兒童閱覽室ヲ復興ス

15	51
43	42
1207,971.43	1217,602.96
68,024.81	60,528.80
12,390	8,527
2,566	2,184
89,327	97,854
332	335
266,057	244,647
799	756
631,415	591,046
1,804	1,788
2.4	2.4

附帶事業  
 催し物  
 ※ハ、他ノ主催ニ本館ヨリ出品セルモノ  
 ※一月二〇日—二八日 三輪吳服店 珠球展覧會(一〇點)  
 ※一月二二日—二六日 (東京堂キヤラリー)  
 ※一月二七日—二月五日 東京堂 現代式紙製掛曆展覧會(二四點)  
 ※二月九日—一〇日 廣田立齋書館九州關係展覧會(六點)  
 ※四月七日—八日 荻戸大橋翁文書展覧會  
 ※五月二四日—二六日 佐賀立齋書館佐賀縣立齋書館展覧會

昭和六年 第三〇年度 業務報告書

四月十六日 東京堂社長大橋省吾氏ヨリ金壹千圓ヲ寄附セラル  
 七月十日 第卅二回協議員會  
 吉谷專吉氏理事兼協議員ニ當選就任  
 八月十七日 黒井悌次郎氏ノ仲介ニヨリ丸山智明氏ト丸山文書寄託ノ契約ヲ行フ  
 十一月卅日 協議員林平次郎氏逝去  
 十二月八日 原梅子氏ヨリ夫君故原志郎氏ノ香燭返禮ニ代ヘ金壹百圓ヲ圖書購入費トシテ寄附セラル  
 即チ同氏生前ノ研究ニ因ミ金融及貨幣ニ關スル圖書三十四冊ヲ購入備付ク  
 七月九日 第卅三回協議員會 上田萬年氏理事ヲ退任シ協議員大橋進一氏代ツテ就任

15	51
42	42
1224,772.90	1217,602.96
49,353.73	60,528.80
7703	8,527
3542	2,184
105,557	97,854
335	335
227,959	244,647
677	756
545,347	591,046
1,622	1,788
2.4	2.4

附帶事業  
 催し物  
 ※五月六日—一二日 松屋吳服店 俳諧展覧會(三點)  
 ※五月二九日—六月三日 松屋吳服店 海國史料展覧會(一點)  
 ※六月四日—六日 (東京日日新聞社後援) 論語展覧會  
 ※六月二〇日—二九日 松屋吳服店「雲」の展覧會(二〇點)  
 ※十月一日—一〇日 三輪吳服店 土耳其展覧會(三點)  
 ※十一月五日—七日 (東京堂キヤラリー) 現代風景版畫展覧會  
 毎土曜日 童話會(於兒童室)  
 六月 論語展覧會目錄  
 十一月 現代風景版畫展覧會目錄

主館長	事業年度	昭和七年	昭和八年
摘要		七月十一日 協議員會ノ決議ニヨリ缺損填補基金金五萬圓設定ニ關シ、文部大臣ニ認可ヲ申請ス 八月四日 右ニ關シ文部大臣ヨリ許可ノ指令アリ 十月廿八日 東京堂社長大橋省吾氏ヨリ金壹千圓ヲ寄附セララル	六月十三日 杉村廣太郎氏亡見ノ紀念トシテ其藏書杉村兄弟文庫二百五十二冊ヲ寄附セララル 七月一日 町名變更ニヨリ麹町區飯田町一丁目六番地ヲ麹町區九段一丁目三番地ト變更 七月十日 第卅四回協議員會 十一月一日 創立者 大橋佐平氏ノ第卅三回忌ヲ紀念シ、閱覽料金中回数券ノ金額ヲ改正ス
役員			
會計		15	40
藏書		1231,672.42	47,358.35
閱覽事項		6,218	2,658
		111,775	334
		203,635	606
		478,361	1,425
		2.3	2.3
附帶事業		催し物 ※ハ他ノ主催ニ本館ヨリ出品セルモノ	刊行物 八月 大橋圖書部第廿四回年報(昭和四・七・六) 十月 杉村兄弟文庫目錄 十一月 冬のスボイツ 十二月 列傳スキ・スケイ ※九月三〇日十一月一日長岡市立五書文庫(六六點)

主館長	事業年度	昭和七年	昭和八年
摘要		十二月廿日 東京堂社長大橋省吾氏ヨリ金壹千圓ヲ寄附セララル 二月十九日 監事兼協議員大橋新太郎氏維持基金トシテ金拾萬圓ヲ寄附セララル 四月廿九日 監事兼協議員大橋新太郎氏昭和六年乃至九年ノ事件ノ功ニ依リ勳四等ニ叙セララル 六月廿日 協議員大橋光吉氏ヨリ坪谷館長ヘ十年計畫ヲ以テ藏書目錄刊行ノ内議アル由ナルガ實行ノ曉ハ出版費ヲ寄附スベキ旨ノ申出アリ 七月九日 第卅五回協議員會 星野準一郎氏理事ヲ退任。協議員補缺トシテ大橋光吉、大野孫平、大橋達雄、大橋太郎ノ四氏當選 八月六日 圖書分類改正ノ第一期計畫終了。普通圖書ノ整理完了	四月十一日 協議員子爵牧野忠篤氏薨去サル 五月廿七日 東京堂社長大橋省吾氏ヨリ金壹千圓ヲ寄附セララル 六月十七日 故江見水蔭氏遺族ヨリ大橋新太郎氏ヲ
役員		18	19
會計		41	39
藏書		1344,460.88	1329,964.37
閱覽事項		47,734.94	46,884.90
		8,237	6,507
		3,063	6,496
		126,519	118,282
		335	333
		223,968	204,212
		667	612
		550,825	508,504
		1,638	1,499
		2.3	2.5
附帶事業		催し物 ※ハ他ノ主催ニ本館ヨリ出品セルモノ	刊行物 二月 八日 海山山脈圖書部第廿六回年報(昭和九・七・一〇・六) 十月 大橋圖書部第廿六回年報(昭和十・十・一現在) 十一月 大橋圖書部第廿五回年報(昭和七・七・九・六)

摘 要

介シテ江見水藤手澤本集書ヲ寄附セラル  
 七月十日 第卅六回協議員會  
 十二月一日 從來内規ニ屬シタル職員服務規程、任  
 用規程、分限規程、給與規程ヲ成文化シテ此日ヨ  
 リ實施ス  
 十二月廿一日 理事兼協議員子爵石黒忠憲氏ヨリ圖  
 書購入費トシテ金壹百五十拾圓ヲ寄附セラル  
 一月十六日 舍監ノ缺員ヲ機ニ交代宿直制ヲ採ル  
 二月一日 閱覽票ノ様式ヲ更新ス  
 四月一日 宿直心得ヲ制定シテ此日ヨリ實施  
 四月廿日 理事兼協議員子爵石黒忠憲氏ヨリ圖書購  
 入費トシテ金壹千圓ヲ寄附セラル  
 五月四日 東京堂社長大橋省吾氏ヨリ金壹千圓ヲ寄  
 附セラル

20	員
41	員
1349,827.22	額總産資
50,611.36	算豫度年
7,821	増減内年度
2,852	書贈寄同年
134,340	計總末年度
331	數日館開
222,702	計總員人
674	均平日一
530,473	計總數冊
1,613	均平日一
2.4	均平人一

附帶事業

催し物  
 ※八他ノ主催ニ本館ヨ  
 リ出品セルモノ  
 資料に關する展覽會 十一月  
 ※二月一三點—二五  
 三崎島商店 五五日  
 紀念展覽會(六點) 五月  
 ※四月二七日—三〇日  
 住居之新開社出版文  
 化展覽會(二六點)  
 ※十月一七日—二〇日  
 山形縣立圖書館山  
 形縣縣土史料大展覽  
 會(八點)  
 煎茶會(於兒童室)  
 和月一回  
 兒童室月次展覽會 七月  
 二月一四日—六日  
 東北地方の玩具の繪 八月  
 の展覽會 七回 大橋圖書部第廿  
 三月三日—五日  
 本體の繪の展覽會 十一月  
 四月一〇日—一二日  
 春の鳥と花の繪の展 四月  
 覽會 覽會 覽會 覽會 覽會  
 十二月  
 七ルロイド製七項表  
 (昭和十二年用)

五月廿日 協議員大橋太郎氏逝去  
 七月九日 第卅七回協議員會  
 協議員補缺トシテ大橋勇吉、金子武蔵、大橋正雄  
 三氏當選  
 九月十五日 第卅八回協議員會  
 十月六日 昭和十一年七月十一日及九月十六日附ヲ  
 以テ申請シタル、寄附行爲證書中(五)解散ノ章ヲ  
 寄附行爲變更並解散ト改メテ第十二條ニ一條ヲ加  
 へ元ノ第十二條以下ヲ順次繰下グルトモニ其第  
 十四條ノ協議員ヲ二十五名以内ニ増員スルノ件文  
 部大臣ヨリ本日附ヲ以テ認可トナレリ  
 十月廿三日 協議員安田善次郎氏逝去  
 十二月廿四日 監事兼協議員大橋新太郎氏ハ昭和九  
 年二月本館維持基本金中ニ金拾萬圓寄附シタル廉  
 ニヨリ畏キ邊リヨリ紺綬褒章頒版並ニ金杯一個御  
 下賜アリタル旨東京府ヨリ本館ニ通達アリタリ。  
 其後、東京府ヨリ同氏ノ飾版ハ五個以上ニ及ビタ  
 ルヲ以テ銀飾ヲ金飾ニ取換へ交付セラレタル旨ノ  
 通知アリタリ  
 二月廿八日 荏戸太華翁文書ノ寄託者杉原謙氏逝去

20	員
40	員
1363,028.25	額總産資
52,247.45	算豫度年
7,245	増減内年度
2,872	書贈寄同年
141,585	計總末年度
334	數日館開
214,011	計總員人
641	均平日一
495,043	計總數冊
1,480	均平日一
2.3	均平人一

五月三日—五日  
 五月八日—十日  
 六月五日—七日  
 六月の鳥と花の繪の展  
 覽會  
 ※四月六日—九日  
 新聞之新聞社第二回  
 出版文化展覽會(一  
 六點)

昭和五年		昭和五年		昭和五年		昭和五年	
年	度	年	度	年	度	年	度
<p>四月廿九日 荻戸太葉翁文書及丸山文書ノ寄託ニ仲介ノ勞ヲ執ラレタル海軍大將黒井梯次郎氏薨去            四月卅日 職制及定員ノ變更ト共ニ處務ヲ革新スル            タメ處務規程、處務細則、勤務及休暇規程等ノ改正ヲ行ヒ、職員ノ整理ヲ斷行ス。尙、處務細則ノ改正ニヨリ三部制ヲ採用シ全ク其面目ヲ改ム            六月八日 東京堂社長大橋省吾氏ヨリ金壹千圓ヲ寄附セラル            七月十七日 監事兼協議員山本留次氏ヨリ圖書購入費トシテ金壹千圓ヲ寄附セラル            九月一日 監事兼協議員大橋新太郎氏ヨリ維持基本金トシテ金貳萬八千七百五拾圓ヲ寄附セラル            七月十日 第卅九回協議員會            協議員補缺トシテ大橋一輝氏當選            九月十八日 本館職員及雇員ヲ委員トセル作業審査會成リ綜合及各部會ノ役員決定ス</p>							
19		員	役				
40		員	員				
1419,764.51		額	總				
62,086.33		算	算				
6,271		増	減				
2,495		書	書				
147,856		計	計				
218		數	日				
140,170		計	均				
643		計	均				
330,739		計	均				
1,517		計	均				
2.4		均	均				
<p>催し物            ※ハ他ノ主催ニ本館ヨリ出品セルモノ            ※十一月一日―十二日 大坂市一日清歌會            ※十一月二日―三日 關西書會(二期)            ※十二月二日 電話の會</p>							
<p>刊行物            十一月 新開雜誌及特殊刊行一年八巻引(昭和十一年八月現在)            十一月 七巻ロイド製七巻表(昭和十三年度用)            十一月 大橋新太郎氏(昭和十三年度内)            十二月 和漢圖書分類目録表(昭和十二年一月現在)            大橋新太郎トビツク            第一巻 九月            第二巻 十月            第三巻 十一月            第四巻 十二月            第五巻 一月            まあるい・てえぶる            第十五巻 三月            マルイ・テエブル            第十六巻 九月            第十七巻 十一月            第十八巻 十二月</p>							

昭和六年		昭和六年		昭和六年		昭和六年	
年	度	年	度	年	度	年	度
<p>十月廿六日 協議員前理事文學博士上田萬年氏薨去            十二月廿日 和漢圖書分類目録數學之部ヲ刊行            二月末現在ニ於ケル役員ハ左ノ如シ            協議員理事兼館長 坪谷善四郎            協議員兼理事 石黒忠一            協議員兼理事 大橋進一            協議員兼理事 吉谷專吉            協議員兼理事 大橋新太郎            協議員兼理事 山本留次            協議員兼理事 高田早苗            協議員兼理事 星野準一郎            協議員兼理事 姉崎正治            協議員兼理事 木村徳衛            協議員兼理事 大橋武雄            協議員 長谷川誠也            協議員 大橋光吉            協議員 大野孫平            協議員 大橋達雄            協議員 金子勇吉            協議員 大橋正一            協議員 大橋一輝            協議員 大橋一輝</p>							
<p>註。右欄ニ於ケル第三十六事業年度ノ計數ハ年度豫算額ヲ除キテハ全部昭和十三年二月末現在ヲ採録ス</p>							
<p>大橋新太郎トビツク            第六巻 二月            第七巻 二月            マルイ・テエブル            第十九巻 二月</p>							

圖書館の制裁規程いろく

—特に圖書毀損亡失に就て—

奥田勝正

「狼藉書籍者、其志不篤、竟不能成學、最可敬借書也」

— 隨 筆 錄 (冢田虎) —

### 書齋記

東京宣風坊有<sub>二</sub>一家、家之坤維有<sub>二</sub>一廊、廊之南極有<sub>二</sub>一局、局之開方纔一丈餘、投<sub>レ</sub>步者進退傍行、容<sub>レ</sub>身者起居側<sub>レ</sub>席、先<sub>レ</sub>是秀才進士出<sub>レ</sub>自<sub>二</sub>此局<sub>一</sub>者、首尾略計近<sub>二</sub>百人<sub>一</sub>、故學者目<sub>二</sub>此局<sub>一</sub>爲<sub>二</sub>龍門<sub>一</sub>、又號<sub>二</sub>山陰亭<sub>一</sub>、以<sub>レ</sub>在<sub>二</sub>小山之西<sub>一</sub>也、戶前近側有<sub>二</sub>一株梅<sub>一</sub>、東去數步有<sub>二</sub>數竿竹<sub>一</sub>、每<sub>レ</sub>至<sub>二</sub>花時<sub>一</sub>、每當<sub>二</sub>風便<sub>一</sub>、可<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>優<sub>二</sub>暢情性<sub>一</sub>、可<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>長<sub>二</sub>養精神<sub>一</sub>、余爲<sub>二</sub>秀才<sub>一</sub>之始、家君下<sub>レ</sub>教曰、此局名處也、鑽仰之間、爲<sub>二</sub>汝宿廬<sub>一</sub>、余即便移<sub>二</sub>簾席<sub>一</sub>以<sub>レ</sub>整<sub>レ</sub>之、運<sub>二</sub>書籍<sub>一</sub>以<sub>レ</sub>安<sub>レ</sub>之、嗟<sub>レ</sub>地勢狹隘也、人情崎嶇也、凡<sub>レ</sub>厥朋友、有<sub>レ</sub>親有<sub>レ</sub>疎、或有<sub>二</sub>無<sub>レ</sub>心合之好<sub>一</sub>、顏色如<sub>レ</sub>和、或有<sub>二</sub>首施之嫌<sub>一</sub>、語言似<sub>レ</sub>昵、或名<sub>レ</sub>擊蒙、妄開<sub>二</sub>祕藏之書<sub>一</sub>、或稱<sub>レ</sub>取<sub>レ</sub>調、直突<sub>二</sub>休息之座<sub>一</sub>、又刀筆者寫書刊謄之具也、至于<sub>二</sub>鳥合之衆<sub>一</sub>、不<sub>レ</sub>知<sub>二</sub>其物之用<sub>一</sub>、操<sub>レ</sub>刀則削<sub>レ</sub>損<sub>二</sub>几案<sub>一</sub>、弄<sub>レ</sub>筆忽汚<sub>二</sub>穢書籍<sub>一</sub>、又學問之道、抄出爲<sub>レ</sub>宗、抄出之用、稟草爲<sub>レ</sub>本、余非<sub>二</sub>正平之才<sub>一</sub>、未<sub>レ</sub>免<sub>二</sub>停滯之筆<sub>一</sub>、故此間在在短札者、總是抄出之稟草也、而闖入之人、其心難<sub>レ</sub>察、有智者見<sub>レ</sub>之卷以<sub>レ</sub>懷<sub>レ</sub>之、無智者取<sub>レ</sub>之、破以<sub>レ</sub>棄<sub>レ</sub>之、此等數事、內疾之切者也、自外之事、米鹽無量、又朋友之中、頗有<sub>二</sub>要須之人<sub>一</sub>、適依<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>用、入在<sub>二</sub>簾中<sub>一</sub>、闖入者、不<sub>レ</sub>審<sub>二</sub>先入之有<sub>レ</sub>用<sub>一</sub>、直容<sub>二</sub>後來之不要<sub>一</sub>、亦何可<sub>レ</sub>悲、亦何可<sub>レ</sub>悲、夫董公垂<sub>レ</sub>帷、薛子踏<sub>レ</sub>壁、非<sub>二</sub>止研精之至<sub>一</sub>、而抑亦安閑之意也、余今作<sub>二</sub>斯文<sub>一</sub>、豈絕交之論乎、唯發<sub>レ</sub>閱之文也、殊慙<sub>二</sub>闖外不<sub>レ</sub>設<sub>二</sub>集賢之堂<sub>一</sub>、簾中徒設<sub>二</sub>闖入之制<sub>一</sub>、爲<sub>二</sub>不<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>我者<sub>一</sub>也、唯知<sub>レ</sub>我者、有<sub>二</sub>其人三許人<sub>一</sub>、恐避<sub>二</sub>鶯雀之小羅<sub>一</sub>、而有<sub>二</sub>鳳凰之增逝<sub>一</sub>矣、悚息悚息、癸丑歲七月一日記

— 菅原文章 七 記ノ内 —

これは菅原道眞が、左京五條の第に書齋として造られた、紅梅殿について自ら書いた書齋記である。寛平五年といへば今から千餘年の昔である。その頃自分の書齋を開放し、貴重な蔵書を學徒の研鑽の用に供してゐたと聞いては、その人柄が惚ばれて、そゝろに頭の下がるのを禁じ得ない。更に「豈絶交之論乎、唯發閱之文也」の一句に逢着するに至つては、いやが上にもその寛容を讃嘆しないではゐられない。それと同時に、この道眞をして——恐らくは彼としての最大級の嘆

聲であらうところの——この嘆あらしめた不心得者、『刑損几案』『汚穢書籍』を爲した狼藉の徒輩は、憎みても餘りあるものといはざるを得ない。

これは寛平の昔がたり、昭和の御代は、と振り返へると、悲しみ更に倍するものがある。

『閲覧者が圖書の記事、挿圖を切抜いたものを発見したときほど、係員が切齒扼腕して憤慨することはない。かつて某市図書館では博士論文を書く人にこの犯罪者を出したと云ひ、又某館はその蔵書に多くの被害圖書が混入してゐるため益々犯罪が増大するといふ。——犯罪方法も近年次第に進歩の傾向があり』（『圖書保管法』改訂篇、昭和十二年十一月再版）

と著者林靖一氏が大聲に怒鳴つてゐるのを聞くまでもなく、我々図書館員が日常深刻に悩んでゐるものはこの不心得者の背徳行爲である。

最も眞面目であるべき讀書子を騙つて、この悪戯を取へてさせるものは何であらうか、図書館の施設が不備のためであらうか、それとも圖書そのものがこれを誘致するやうに、出来てゐるのであらうか、但しは人間の性として已むに已まれないものがあるのであらうか。

愚かよ、そんな性を人間に認めることなど斷じて出来るものではない。

再び書齋記に目を轉じると、「戸前近側有一株梅、東去數歩有數竿竹、每至在時、每當風便、可以優暢情性、可以長養精神」とある。この文に叙せられた紅梅殿の情景は、さながらに集賢之堂である。幽雅な氣を起させることはあつても、そんな亂暴を誘發するやうなものは何もなささうである。藏書もその内容は知る由もないが、凡人としては容易に手に入ることの出来ないものが、多かつたにちがひない。それでなくとも當時にあつては、書籍は珍寶の一であつた筈である。嗚呼、心なき人の絶えぬことよ。

併し、「青年期のいたづらは自然の世界、非人格的世界から、價值の世界、人格の世界への實驗だともいひ得る。成人

の生活への律動を感じ、成人の世界を理解して行く、極めて原始的な行爲である」【文意】（都市と農村の娛樂教育—上田久七著—）と辯護者が現れた。この意味でならば年少の徒のいたづらは、まだ幾分恕すべき點がある。それは矯正する望があるからだ。否、この「原始的行爲を文化的行爲に置きかへる」任務が、吾々にもあるからだ。

然るに、學位論文を書くほどの者が、バリ／＼とやるに至つては、言語同斷、沙汰の限りである。或人はこの學者の徳性の麻痺の罪を、明治初年來澎湃として起つた歐化主義の思想に歸してゐる。個人主義と唯物主義の思潮は、一頃天下を蔽つた觀があつたのは事實である。人材登用の途が開けて、封建世襲の重壓から反撥した氣鋭の徒は、自己一身の立身榮達に向ひ血眼になつて馳け出した。激しい競争が演じられた。目的達成のためには手段を擇ぶ遠がないかのやうに遮二無二進んだ。その習癖、遺風が未だにこびりついてゐて、ぬけきれないためだといふのだ。成程さうでもあるだらう。併しさうなると當時の先輩や、教育者なども大いにその責を負はなければならぬ。

だが、この不心得者は畢竟或種の變態者と見るのが至當なのではないか。もしさうならば、人生きるところ病なきを得ないと同じ様に、社會には必ず變態者があり、而かもまた絶えることはないであらう。文化が進み、生活が複雑になればなるほど、この厄介なる病人は殖えるといふ。我々は病人を對手に仕事をしてゐるのではないとはいへ、この病人の混入を防ぐ術がないのが恐しい。さればと申して一々來館者に診断書や、精神鑑定書を提示して貰ふ譯にも行かないので、時にこの病人が混入し來つては、ひそかに荒し去る、その害毒の傷さは、辨慶たりとも泣かされるであらう。而かもその傳染力がまたなか／＼強く、急性臨時性變態患者を鼠算式で續出させ、そゞろに膽を零下に沈下させられるのである。

その故に、とばかりいへぬが、多分にそのために、どこの図書館の閲覧規程にもあまり感じのよろしくない或種の制裁條項が、つきものになつて織込まれてある。まことに自衛上やむを得ないものではあるが、

或るものは嚴かに、或るものは寛かに、とり／＼の文字が各々その施設の心構へをものがたつて、一見無味な條文も、

集めて見較べると、なか／＼面白く、またいろ／＼教へられるところがありさうである。

さしあたり、手近にあるもの數種を、手にまかせて拾つて見るに、先づ圖書を亡失、毀損、染汚した者には辨償をさせ、といふことが通則になつてゐる。

ところが、辨償だけすれば問題は直に解消されて了ふもの(二)と、辨償が完全に済まされるまで、又は辨償義務が果されても、登館乃至は圖書の閲覽を禁ずる(三)といふのがある。

前者は、圖書館が蒙つた損害を、填補さへすれば文句はないといふ、簡単な考へであり、辨償による負擔だけで、充分に懲戒の目的を達したものとしてみるものであらう。

辨償ばかりでなく、或期間利用の自由を奪つて、「返へしやア済むんだらう」的の觀念を矯め、反省させるといふ所に重きを置いてゐるのが、後者の建まへであらう。

事故の防止といふ意味からは、後者の方が徹底してゐる。

(一)の方は、至極恬淡に取扱つてゐるから、條文の上にも、(イ)「辨償せしむるものとす」、「辨償せしむべし」(ロ)「辨償せしむることあるべし」又は情狀によつては、辨償を免除若くは輕減するとまで云つてゐるものもある。

(二)の方には、辨償は絶対的のもので、附帶の懲戒には、辨償義務完了まで絶対に圖書の閲覽を禁止するといふのと(イ)、閲覽を謝絶するといふもの(ロ)、謝絶することあるべし(ハ)、と裏んであるものがある。

又、辨償の方法から觀れば、被害原品と同一の品を以てせよ(一)、と命ずるものと、相當の代償を以てせよ(二)、とあるもの、兩者併用のもの(三)、とがある。

尙ほ單に閲覽を禁止するといふのみで、何等辨償のことに言及しないものもあるが、これは現行のものには見當らない。些か煩雜の感があるが、以下條文の抜書を記載する。

### (一)單に賠償せよとあるもの

○ 借覽ノ圖書ヲ紛失シ或ハ汚損シタル時ハ必ス之ヲ辨償セシム、時宜ニヨリテハ圖書ニ代フルニ其時價ヲ以テスルコトアルヘシ。——國學院大學圖書館

○ 閱覽又ハ借受シタル圖書ヲ毀損汚染若ハ紛失シタル者ニハ同一ノ圖書ヲ以テ補償セシム但シ時宜ニ依リ代價ヲ以テ補償セシムルコトアルヘシ。——京城帝國大學附屬圖書館

○ 借受又ハ借覽シタル圖書ヲ毀損若クハ紛失シタル時ハ相當ノ補償ヲナサシム。——高野山大學圖書館

○ 閱覽ノ圖書ハ之ヲ鄭重ニ取扱フヘシ若シ紛失汚損等ヲナス場合ニハ之ヲ辨償セシム。——龍谷大學圖書館

○ 本館ノ圖書ヲ亡失、汚損又ハ毀棄シタルトキハ本人又ハ保證人(團體ニアリテハ代表者)ヲシテ本館指定ノ現品若クハ相當ノ代金ヲ以テ之ヲ辨償セシム。——神戸市立圖書館

○ 借覽ノ圖書類ヲ紛失又ハ汚損シタルトキハ本文庫ノ指示スル處ニヨリ現品又ハ相當代價ヲ賠償スルモノトス。——下村文庫

○ 閱覽者圖書ヲ亡失シ若クハ汚損シタル時ハ同一ノ圖書又ハ相當ノ代金ヲ以テ辨償スヘシ。——市立尾道圖書館

○ 閱覽者ニ於テ圖書ヲ亡失若クハ毀損シタルトキハ館長ノ指定ニ從ヒ現品又ハ相當ノ代金ヲ以テ之ヲ辨償セシム。——青森縣立圖書館

○ 閱覽人ニシテ圖書ヲ紛失又ハ汚損シタルトキハ其ノ相當ノ價額ヲ辨償セシムルコトアルヘシ。——奉天圖書館

○ 圖書ヲ紛失汚損又ハ毀棄シタル者ニ對シテハ同一ノ圖書若クハ相當ノ金額ヲ以テ之ヲ賠償セシム。——東京市立圖書館

○ 圖書ヲ紛失シ又ハ毀損シタル者ハ現品ヲ代納シ又ハ相當ノ代金ヲ辨償スルコトヲ要ス。——中央大學圖書館



- 閱覽者ハ圖書ノ取扱ニ注意シ萬一之ヲ亡失或ハ毀損、汚染シタル時ハ同一ノ圖書若クハ相當ノ代價ヲ以テ辨償セシメラル、モノトス。——蓬左文庫
- 閱覽者ニシテ圖書ヲ亡失毀損シタルトキハ同一ノ圖書又ハ相當ノ金額ヲ以テ之ヲ賠償セシム但事情ニ依リ代金ノ一部ヲ賠償セシメ又ハ之ヲ免除スルコトアルヘシ。——高崎圖書館
- 圖書ヲ亡失又ハ毀損シタル者ハ現品ヲ代納シ又ハ相當ノ代金ヲ以テ之ヲ辨償スルコトヲ要ス。——早稻田大學圖書館
- 圖書ヲ汚損又ハ亡失シタルトキハ本館指定ノ現品又ハ相當ノ代價ヲ賠償セシム。——德島縣立光慶圖書館
- 圖書ヲ紛失又ハ毀棄シタル場合ハ同一ノ圖書若ハ相當ノ金額ヲ以テ此ヲ辨償ス。——私立宣川會圖書縱覽所
- 借覽圖書如汚損或遺失之須照原樣辨償。——東亞同文書院
- 圖書ヲ汚損又ハ亡失シタル時ハ其ノ覽閱者ニ之ヲ辨償セシムルコトアルヘシ。——東京女子高等師範學校々友會圖書室
- 圖書を紛失したる者は原品若くは代金を以て辨償せしむべし。  
圖書を毀損したる者は其損害の多少に準じ原品を以て之を償はしめ若くは修繕せしむることあるべし  
但し時宜により代金を以て償はしむることあるべし。——早稻田大學圖書館——明治三十六年現行
- 書籍取扱方粗略ニ致シ候ヨリ墨附又物缺損爲致候者ハ其大小ニ應シ償金可差出事——文部省博物館書籍館。——明治五年
- 借書不可過二部、若紛失之、則可辨還之、又離滅破朽者、可修繕之。——宮崎文庫書類——「文庫令條」——（神宮文庫沿革資料中）

(二)賠償の上に更に制裁を設けたもの

- 過失ト故意トニ關セス借受ノ圖書ヲ紛失シ又ハ汚染毀損スルトキハ同一ノ圖書若クハ相當ノ代價ヲ以テ辨償セシム又其行爲ノ次第ニ依リテハ再ヒ來館スルコトヲ謝絶スヘシ。——大橋圖書館(舊)——明治三十五年六月施行
- 事情ノ如何ヲ問ハス借受圖書ヲ紛失シ又ハ汚染毀損シタルトキハ同一ノ圖書若クハ相當代價ヲ以テ辨償セシム或ハ其行爲ニ依リ再ヒ來館ヲ謝絶スルコトアルヘシ。——財團法人大橋圖書館——現行
- 本館利用者ニシテ本館ノ圖書又ハ設備ニ損害ヲ加ヘ若クハ規則ニ違反シタル者ニ對シテハ辨償ヲ命シ又ハ本館利用ノ停止若クハ禁止ニ處ス。——東京帝國大學附屬圖書館
- 貸付シタル圖書ハ借受者其保存ノ責ニ任シ紛失汚損等ノ行爲アリタルトキハ之ヲ辨償セシムルコトアルヘク、且貸付閱覽ヲ停止スル等相當ノ處分ヲ爲スコトアルヘシ。——京都帝國大學附屬圖書館
- 借覽ノ圖書ヲ紛失シ又ハ文字、記號、點線等ヲ記入シ若クハ毀損シタル時ハ時價ヲ以テ之レヲ辨償セシム本規程ニ違反シタルモノハ相當ノ處分ヲナシ本館ニ出入スルヲ禁スル事アルヘシ。——同志社大學圖書館
- 圖書借受中之ヲ紛失シ或ハ毀損汚染シタルトキハ同一ノ圖書若ハ相當ノ代價ヲ以テ辨償セシム
- 前項ノ手續未了中ハ更ニ他ノ圖書ヲ借受クルコトヲ得ス。——神宮學館
- 閱覽人ニ於テ圖書ヲ亡失又ハ汚損シタルトキハ館長ノ指定ニ從ヒ同一ノ圖書又ハ相當ノ代金ヲ以テ之ヲ辨償セシム但シ情狀ニ因リ其ノ義務ヲ減免スルコトアルヘシ
- 前項ノ辨償義務ヲ了セサル者ハ閱覽スルコトヲ得ス。——樟太廳圖書館
- 閱覽人圖書ヲ紛失汚損毀棄シタルトキハ本館指定ノ現品若ハ相當ノ代金ヲ以テ賠償スヘシ
- 前項ノ賠償義務ヲ完済セル間ハ本館ノ圖書ヲ閱覽スルコトヲ許サス。——靜岡縣立葵文庫

- 借受中圖書ヲ亡失又ハ汚損シタルトキハ本館指定ノ現品若ハ相當ノ代金ヲ以テ之ヲ辨償セシム
- 前項ノ辨償ヲ了セサル間ハ圖書ヲ借覽セシメス。——高知縣立圖書館
- 借覽圖書及器具ヲ紛失又ハ汚損毀損シタルトキハ現品ヲ以テ辨償セシム若シ現品ヲ以テ辨償シ難キトキハ館長ノ指定スル相當ノ圖書又ハ器具ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
- 前項ノ義務ヲ了セサル者ハ本館ノ圖書ヲ借覽スルコトヲ得ス。——鹿兒島縣立圖書館
- 圖書閱覽中誤テ亡失シ或ハ點汚毀損スルトキハ同一ノ圖書若クハ相當代價ヲ以テ辨償セラルヘシ但該件未了ノ間ハ更ニ他ノ圖書ノ貸出ヲ謝絶ス。——石坂文庫(基隆)
- 閱覽人圖書ヲ亡失又ハ汚損シタルトキハ本館指定ノ現品若クハ相當代金ヲ以テ之ヲ辨償セシムルモノトス
- 前項辨償ノ義務ヲ了セサル間ハ本館ノ圖書ヲ借覽スルコトヲ得ス。——石川縣立圖書館
- 借覽圖書ヲ亡失又ハ汚損シタルトキハ同一ノ圖書若ハ相當ノ代價ヲ辨償セシム前項ノ手續未了ノ間ハ他ノ圖書ヲ借覽スルコトヲ得ス
- 借覽圖書ヲ故意ニ毀損シタルモノハ情狀ニ依リ爾後ノ登館ヲ禁シ且本館指定ノ辨償ヲ爲サシム。——大連圖書館
- 借覽圖書若ハ器具ヲ紛失又ハ汚損毀損シタルトキハ現品ヲ以テ之ヲ辨償セシム若シ現品ヲ以テ辨償シ難キトキハ館長ノ指定スル相當ノ圖書若ハ器具ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得
- 前項ノ義務ヲ了セサル者ハ本館ノ圖書及參考品等ノ閱覽又ハ觀覽ヲナスコトヲ得ス。——鳥取縣立鳥取圖書館
- 閱覽人ハ故意又ハ過失ニ依リ本館ノ物品ヲ滅失毀損シタルトキハ現品又ハ代價ヲ以テ賠償セシム
- 賠償義務完了セサル中ハ圖書閱覽ヲ許サス。——市立高岡圖書館
- 閱覽圖書ヲ亡失シ若クハ汚損シタル者ハ館長ノ指定ニ從ヒ現品又ハ相當ノ代金ヲ以テ辨償スヘシ

- 前項ノ義務ヲ了セサル者ハ圖書ヲ閱覽スルコトヲ得ス。——山梨縣立圖書館
  - 閱覽人ニシテ圖書ヲ紛失又ハ毀損シタルトキハ圖書館長ノ指定ニ依リ現品又ハ相當ノ代金ヲ以テ之ヲ賠償スヘシ
  - 前項ノ賠償ヲ完了セル者ニ對シテハ圖書ノ閱覽ヲ許サス。——臺中州立圖書館
  - 圖書借受中誤テ之ヲ亡失シ或ハ點汚毀損スルトキハ同一ノ圖書若クハ相當ノ代價ヲ以テ償還スヘシ、該件未了ノ間ハ更ニ他ノ圖書ヲ借受スルヲ得ス、但其汚損ノ狀況ニヨリ本文ヲ斟酌スルコトアルヘシ
  - 借覽圖書ヲ故意ニ點汚若クハ毀損シタル者ハ其情狀ニヨリ一箇月乃至三年間登館ヲ禁ス、但汚損ノ甚キモノハ尙前條ノ本文ヲ適用ス。——帝國圖書館
  - 過失ト故意トニ關セス借受ノ圖書ヲ紛失シ又ハ汚損毀傷シタル時ハ同一ノ圖書若クハ相當代價ヲ辨償セシム、但汚損ノ狀況ニ依リ本文ヲ斟酌スルコトアルヘシ又其行爲ノ次第ニ依リ一ヶ月乃至一年間登館ヲ謝絶スルコトアルヘシ。——私立成田圖書館
  - 閱覽中圖書ヲ亡失シ又ハ汚損シタルトキハ同一ノ圖書若クハ相當ノ代價ヲ辨償セシム、但シ該件未了ノ間ハ他ノ圖書ノ閱覽ヲ許サス其ノ狀況ニ依リ爾後閱覽ヲ禁スルコトアルヘシ。——神宮司文庫規則——明治四十年
  - 借用中若ハ閱覽中圖書ヲ亡失或ハ汚損シタルトキハ同一ノ圖書又ハ相當ノ代價ヲ辨償セシム但シ本條ノ手續未了ノ間ニ於テハ圖書ノ貸付又ハ閱覽ヲ許サルモノトス。——同——明治四十五年
- (三)賠償のことに觸れず、閱覽を禁止するのみのもの
- 御書物疎略に致すべからず、若汚穢破損等於有之は、以來拜借可差止事。——明倫堂〔尾州家〕規約「舍中約制」
  - 供書簿（二ハ時時點檢印コレ拜借ノ書ヲ記スル帳面ナリ、ソノ出納閉閉ヲ慎シ、紙葉牙籤ヲ毀損スルコトヲ許サス
- 〔これは圖書ではなく、帳簿のことを云つてゐるやうでもあるが、これの制裁は同じ學規に定められてゐるのを適

用するものと見て」

初犯ハ記録シ、再犯ハ究治シ、再三シカリノ後ニモ、尙猶悛メザレバ、退寮スルナリ、是ヲ君子ノ林ニ齒セズト云。

——時習館〔熊本〕學規「科條大意」

○ 一、藏書判事、掌其出入、若有乞覽者——(中略)若亂汚簡編、或携出門者有禁。——維新館〔平戸藩〕功令。

○ 一、收書時固<sub>ニ</sub>其屬鑑勝<sub>一</sub>、勿<sub>ニ</sub>浪借與<sub>一</sub>、人若有<sub>下</sub>志<sub>ニ</sub>披閱<sub>一</sub>者<sub>上</sub>、就<sub>ニ</sub>于舍内<sub>一</sub>看<sub>ニ</sub>一冊<sub>一</sub>、可<sub>ニ</sub>輒送還<sub>一</sub>、不<sub>レ</sub>許<sub>ニ</sub>將出<sub>一</sub>闕外<sub>一</sub>。

一、借讀者、勿<sub>レ</sub>以<sub>ニ</sub>丹墨<sub>一</sub>妄句投雜揉<sub>一</sub>、勿<sub>レ</sub>令<sub>ニ</sub>紙背生<sub>一</sub>毛、勿<sub>レ</sub>觸<sub>ニ</sub>寒具手<sub>一</sub>。

一、或實<sub>ニ</sub>于庫<sub>一</sub>、或繫<sub>ニ</sub>于市肆<sub>一</sub>、或爲<sub>ニ</sub>穿窬所<sub>一</sub>獲、罪莫<sub>レ</sub>大<sub>レ</sub>焉、罪莫<sub>レ</sub>大<sub>レ</sub>焉。

——野州足利學校置五經疏本條目永享十一年紀閏正月初吉、前房州刺史藤原憲實

なほ最近贈られた臺南市立臺南圖書館の『圖書館案内』に、異色のある面白い規則が掲げられてゐるから、紹介しておく。借受けた圖書に破損、缺頁等がありましたら直に係員に御申出で下さい、何等の申出がなくて返却の際係員が之を發見した場合は賠償の責任を有することになつて居ますから十分御注意を願ひます。——昭和十三年

と、これはまた、圖書毀損の責任を閱覽者一同に課し、こゝに來て圖書を借りた者は、悉く落丁缺損調への義務を負ふ。

迂濶に返へさうものならとんだ痛事にならうといふもので、勢ひ通関を餘儀なくさせられる。ひやかし狩の意味もあつて

一石二打、確かに一つの方法ではある。

以上、吾々は圖書館の暗黒面をあまり眺めすぎた感がある。

遮莫、圖書館は利用によつて價值が定まる。圖書の保管は利用の前提である。利用されるからには、その損耗は免れぬ。正常に利用され損耗し、廢壞した圖書は、本來の使命を完全に果たしたのである。故にその損耗は却て讚美せられ、祝福される。かくて圖書祭も圖書の慰靈祭も意義づけられるのである。

## 坪谷先生と圖書館事業

石井 宗次

坪谷先生が圖書館事業に關係せられたのは實に古く、明治三十四年大橋圖書館の設立に參畫せられたのに始まる。爾來三十有餘年、其の間不絶我國圖書館事業の普及發達の爲に盡瘁せられたる功績はまことに顯著なるものがある。こゝに私は、先生が多年圖書館事業の爲に、力を盡されたことに就いて、敢て淺學不才を顧みず、業務の餘暇に調査し得たところを聊か記してみたいと思ふ。もとより短時日の調査であるから疎漏の點は多々あるべく、是等に就ては深く先生に御詫び申上ぐると共に、偏に御宥恕を御願ひする次第である。唯私はこの一小篇が先生の圖書館界に盡された御事蹟の一備忘録として他日先輩の方々によつて完全な御事蹟の編まれる日の參考資料ともならばと念ずるものである。

先生が多年全たく獻身的な努力を致され、今も尙ほ専心その進歩發展の爲に盡されつゝあるのは、實に大橋圖書館である。

抑も大橋圖書館は明治三十四年二月、博文館主大橋佐平翁が明治二十六年出版事業取調の爲め、歐米視察中、各國の圖書館を視察せられて、圖書館事業の効果の大なるを認められ、大に感ずるところあり、歸朝後私財を投じて獨力これを経営し、社會の爲に貢獻せんことを企圖せられ、恰も明治三十五年六月十五日、翁が明治二十年北越より上京して博文館を起し、圖書出版業を経営せられてから十五周年に相當するを以て、記念事業として圖書館を設立せん事を計畫せられたのに始まるのである。而して圖書館設立の計畫は、同郷の先輩男爵石黒忠恵氏と親友文學博士上田萬年氏と、圖書館事業に經驗の深い帝國圖書館長田中稻城氏とに贊助を請ふて、着々進められたが、特に創立の事は擧げて石黒男爵に託されたのである。この時坪谷先生は博文館編輯局主幹の重職にあられたのであつたが大橋圖書館創立の事務的方面を一切擔任されて、石黒男爵と共に非常

なる盡力を致されたのである。而して同館は明治三十五年六月十五日を以て開館されたが、先生は最初同館理事として盡力せられ、明治三十九年の九月よりは更に名譽主事を兼ね石黒館長の下に經營の實際に當られ、同館の發展の爲に大に盡力されたのである。當時我國に於ける圖書館の數は、全國を通じて僅に五十有餘を數ふるのみで大橋圖書館の開館當時は閱覽者一日二百三、四十人を算するの盛況を呈し、又翌年八月には圖書館講習會を開催して、圖書館界の發展の爲に貢獻するなど、當時の我國圖書館界に及ぼした影響はまことに大いなるものがあつた。現今我國公共圖書館の第一位を占めてゐる大阪府立圖書館（明治三十六年四月設立）や、また早稻田大學圖書館（明治三十五年九月設立）等も、皆これに刺激されたる如くその後相次いで設立をみたものである。斯くて先生には同館發展の爲に拮据經營漸く大橋圖書館の名は内外に周知せらるゝに至り、その後各地に設立せられたる圖書館中、範を大橋圖書館に採つたものも尠くなかつたのである。而して大正六年九月、石黒男爵は老齡の故を以て館長の職を辭せられた。こゝに於て

先生は石黒男爵に代つて館長となられたが、大橋図書館は年と共に發展盛大を加へ、蔵書と閱覽者とは年々に増加し、爲めに頗る狹隘を感じるに至り、改築の計畫に着手せられた時、はしなくも大正十二年の大震災のため建物全部を焼失し、蔵書八萬八千三百餘冊も亦擧げて灰燼に歸したのである。この時の事を先生が人に「當時自分は實に泣いても足らぬ苦しい思ひをした」と語られたそうであるがまことに先生の多年の御努力御苦心に思ひ及べは、この御言葉には我々は深き感動を禁じ得ないものがあつたのである。私は先生が大正十二年十二月發行の圖書館雜誌第五十四號に大橋図書館の焼失と題して書かれたところの一節を、當時の先生の御心境を如實に窺ひ得るものとしてこゝに引用させて置きたいと思ふのである。

### 大橋図書館の焼失

坪谷善四郎

大正十二年九月一日といふ日は、小生にとつては死ぬとも忘れられぬ大凶日であつた。其れは小生が去る明治三

七八

十四年以來、親しく手に懸けて育て上げた大橋図書館が苦心に苦心を重ねて集めた八萬八千餘冊の東西古今の圖書とともに、本館も書庫も悉く焼けて了ふたからである。建築は本館が木造の二階建、書庫は煉瓦の三階建て創立以來最早二十二年も経つて居るから、甚だしく惜しいとは思はぬが、八萬八千の圖書の中には、今後幾ら金銭を投じて、到底獲難い物が大分にあつたので、其れが如何にも残念で、其當座は寝ても眠られず、會々眠れば夢にまで見て煩悶して居た。

斯くの如く大橋図書館の焼失は、先生にとつては愛子の死にも勝るとも劣らぬ程で、その落膽は甚大なものがあつたのである。然し先生はこの上は一日も早く同館を復興し、社會の公益に供すべきであるとの決意をせられ、直ちに假事務所を自宅に設け、着々圖書の蒐集に力められたのであつた。また大橋新太郎氏も公益事業は一日も忽緒に附すべからずとなし、同館の復興の爲めに、更に七十五萬圓の寄附を追加せられ、現在の九段下に建築に着手し、大正十五年六月十五日を以て、同館は復興開館したのである。

爾來こゝに十有三年益々盛大を加へ、今や同館は私立図書館中全國第一の公開図書館として、舊時に數倍する盛況を見るに至つたのである。

これはもとより寄附者大橋新太郎氏の理解ある御後援によることは勿論であるが、また實に坪谷先生の全たく獻身的な不斷の努力の然らしむるところで、先生に對して我々は深き感謝と敬意とを表さざるを得ないのである。

先生の圖書館に關する事蹟は大橋図書館に關するもの外、その特記すべきものに、東京市立図書館創設の首唱と、御郷里新潟縣南蒲原郡加茂町の町立図書館に關する事とがある。先生は自ら大橋図書館の經營の衝に當られて、學校以外の一般國民教養の機關として、圖書館の效用を十分に味得せられた結果、當時まだ東京市には公共図書館としては官立の帝國圖書館と私立の大橋図書館と外に極めて小規模の教育博物館附屬の圖書館と帝國教育會書籍館の四館のみで府市ともにその施設のないことを深く遺憾に思はれ、東京市會議員であられた先生には、明治三十七年三月七日同志の賛成を得て、東京市會に市立図書館設立の建議

案（日比谷公園に市立図書館を建設する爲に理事者は案を具して提出あらん事を望む）を提出せられ、先生の尋常ならざる斡旋の下に市會の満場一致を得て、遂にこれが可決を見たのであるが、先生は自分が在職中これ程に辭を低うし頭を下げて頼み廻つたことはなかつたと述懐された程、この建議案の實現には苦心せられたものであつた。斯うして始めて東京市は、圖書館設立の計畫に着手し、明治三十八年七月十五日に至り東京市長尾崎行雄氏は、日本文庫協會に對し東京市立図書館建設案に關して諮問するところあり、同協會はこれに應じて直ちに調査委員を囑託してこれが調査に従ひ、成案を得て答申したのであつた。次いで翌三十九年七月二十八日の市會に於て通俗圖書館建設費豫算十三萬三千八百八十圓が可決せられ、かくして建設せられたのが現在の日比谷図書館である。市立図書館の效用は其後一般に認識せられ、大いに市民の利用するところとなり、續いて各區にも順次に小図書館が設立せられ、現在東京市には獨立の建物をもつもの日比谷外九館、小學校附設のもの十七館、合計實に二十七館の多きを算するに至つたので

七九

ある。これは全く先生の首唱によるところのもので、當時の理事者たる尾崎行雄氏とともに、坪谷先生の名は、我等東京市民の間に深き感謝の念を以て、永久に銘記せらるゝであらうことを信じて疑はないのである。尙ほ先生が東京市の圖書館に盡された功績として忘れてはならないことは、大正四年十二月 大正天皇御即位の折、東京市へ御内帑金十萬圓を御下賜あらせられた當時のことである。時の東京市長奥田義人男は右御下賜金の使途に就き市参事會に諮問せられた際、先生は當時市参事會員として重きをなしてゐたが、この御下賜金は永久に保存して、聖恩を記念し、その利子を以て東京市立圖書館に、特別記念圖書一殊に江戸時代より現代に至るまでの、あらゆる文獻を蒐集保存することが、東京市として最も意義あることであると、群議を排して提案せられた。奥田市長は直ちにこれに同意をせられ其結果他の市参事會員も各々の提案を撤してこの議に賛し、市参事會は全會一致これを採擇したので、大正五年二月九日の東京市會に、御下賜金管理に關する件としてこの案が提出せられ、満場一致で可決せられたのであつた。

現在の東京市立圖書館及び日比谷圖書館に於ける大禮記念圖書並に東京誌料は如斯因縁によつて購入せられてゐるのである。

次に先生の御郷里に於ける圖書館關係に就いて述べてみたい。先生は青年時代を御郷里に送られたのであるが、僻遠の地で讀書に就いては頗る困難せられた爲め、後年御郷里にも圖書館の設立を希望せられ明治三十九年加茂町に對し、若し町立圖書館設立の企てがあらば金壹千圓を寄附しようとして提議せられたので、同町會は圖書館の設立と先生からの寄附受納の件を可決し、恙うして加茂圖書館は明治三十九年九月南蒲原郡加茂町小學校内に設立せられたのである。その後先生には同圖書館の爲めに寄附行爲を遂行せられ、これが完了とともに引續き金壹千圓を限度として寄附行爲を繼續せられ、第二回も完了。現在尙第三回の寄附行爲を實行中であられる。尙ほ同圖書館は小學校に附設されて居るため、獨立の建物なく、従つて閱覽者に充分の便宜を與へ難いので、これを先生は甚だ遺憾とせられ、昭和十一年五月新に同圖書館の建築費として、金壹萬圓を寄附せ

られた。近き將來に於て同圖書館は先生の御希望通り獨立の館舎を得て、遺憾なくその機能を發揮せらるゝに至るであらう。

先生はまた我國圖書館事業の唯一の團體たる日本圖書館協會に、その前身たる日本文庫協會の時代から關係せられたが明治四十一年三月同協會の評議員となられ、遂に大正七年十二月同會會長に就任、同九年十二月まで在任せられて、其の間我國圖書館事業のために、將亦同會發展のために盡瘁せらるゝところ極めて大なるものがあつた。その後或は理事として或は監査として引續き在任せられ今日も尙ほ同會のために盡瘁して居らるゝのである。

また先生は圖書館事業の普及發達を圖るには、先づ少國民に圖書館に關する知識を與ふるとともに、これが利用の習慣をも涵養せしむべきであるとの御意見で國定教科書中に圖書館に關する一課を設けるやうに提唱せられたり、或はまた私立圖書館の用地に對して國家がこれに課税するは、私立學校又は幼稚園のそれに關する免稅と對比して、著しく權衡を失せるものであるとなし、同志を糾合して關

係法規の改正を要望せられ、屢々關係當局に向つて建議陳情を致さるゝなど、斯界に於ける先覺者としての識見は頗る群を抜くものがある。

以上記述したるが如く先生は、多年我國圖書館事業のために、多大の貢獻を致されたのであるが、曩に大正十三年一月二十六日 今上陛下御成婚の式を舉行あらせられたる時、多年文化風教若しくは殖産興業等に功勞のあつた人々に對し、紀元節の嘉辰を卜し叙勳の恩典を賜はつた際、大橋圖書館長として多年圖書館事業に盡瘁したる廉を以て、特にこの恩典に浴せられ、叙勳の榮譽を膺はれて畏くも勳五等瑞寶章を拜受せられた、まことに名譽のことである。また昭和三年十一月十日御大禮の佳節に際しては、文部大臣より教育功勞者（圖書館事業の功勞者）として表彰せられ、更に大正八年二月二十日加茂町立圖書館へ寄附の件によつて賞勳局より銀壹壹圓を下賜せられ、次いで昭和七年二月一日新潟縣知事より前記寄附行爲に關し、褒章條例によつて表彰せられ褒狀を授與せられた。

尙ほ昭和三年十二月三日京都市に於て開催せられた、第

廿二回全國圖書館大會に於て、日本圖書館協會より圖書館事業功勞者（大橋圖書館理事として勤続二十七年五ヶ月の故を以て）として表彰せられ、其後昭和八年五月九日日本圖書館協會昭和八年度總會に於て、同協會の名譽會員に推薦せられた。恁うした數多の顯彰も先生多年の御貢獻に對してはまことに當然の事であつた。

先生には本年恰も喜壽の齡を重ねさせられ、益々御健勝に亘らせられて、愈々斯業の進歩發達の爲に盡瘁せられつつあるのは、まことに慶祝に堪へざるところである。若しそれ都市行政に、學校教育に、出版文化に、社會事業及保護事業に、將亦衛生事業に、その他の公益事業に關する先生の事蹟に就いては、記述すべく餘りに廣範圍であり、餘りに功績が多い。これ等の叙述に關しては他に適切の人もあることゝ信ずるから、こゝには少しも觸れない。尙ほ圖書館事業に關する御事蹟に關しても私の知らないことも必ず多いと考へるが、暫く他日の研究に委し、私はこゝに先生が益々御健勝ならん事を衷心より祈念しつゝこの稿を終る。

米 議院圖書館印刷カードに就て

愛澤豊勝譯

目次

序言	八五	第八章 版の變化	九四
第一章 議院圖書館カードの特徴	八六	第九章 註文に就ての他の提言	九五
第二章 辭書體目錄に於ける使用法	八七	第一〇章 著者名及書名に依る註文	九五
第三章 函架目錄、分類目錄及書目に於ける使用法	八九	第十一章 カード番號に依る註文	九七
第四章 貯藏カードの範圍と充滿	九〇	第十二章 註文の繼續、説明的チェック	九九
第五章 豫約者カード	九三	第十三章 叢書に依る註文	一〇一
第六章 豫約者カードに與へられたる指示又は明細書の、各註文傳票上に於ける繰返へし	九三	第十四章 件名に依る註文	一〇二
第七章 欲するカードの枚數指示	九三	第十五章 校正刷の豫約申込	一〇三
		第十六章 カードの價格、郵税(略)	一〇四
		第十七章 支拂方法(略)	一〇四

序言

印刷カードに就ての問題は我國に於ても夙に研究されて居るところであり、こゝに更めてその要を論ずる迄もないであらう。議院圖書館印刷カードの紹介に入る前に、議院圖書館の概要を *Encyclopaedia Britannica* に依つて調べて見よう。議院圖書館は 1800 年華府に初めて設立されたが、1814 年英軍の兵火に罹り國會議事堂と共に灰燼に歸してしまつた。其後大統領 Jefferson の藏書が買はれて新しい圖書館の基礎となり、徐々に増加して行つたが、1851 年に至りまた火災に罹つて二萬冊を燒失してしまつた。この時より蒐書は急速に増加して、1866 年には主として自然科学よりなる四萬の藏書を持つ *Library of Smithsonian Institution* が議院圖書館に移讓された。この圖書館は歴史、法律學、政治學及米國文獻に就いてもよい蒐書を持つて居る。1863 年以來法律の蒐書が特殊部門となつた。1870 年には版權登錄が議院圖書館の管理下に移讓され、版權を要求する出版物は各その二冊を議院圖書館に供託する事となつた。この種の受入れは年に約二萬五千冊に上つて居る。目錄はアルファベット順のカード目錄と件名の印刷目錄とが備付けてある。圖書館は四ヶ日の國祭日を除いては、毎日午前九時より午後四時まで開館されて居り、十六歳以上ならば誰でも自由に入館を許されて居る。而し圖書の貸出は特殊の人に限られて居る。

現在(1930)に於ける藏書冊數 3,907,304 v. ; 1,117,243 maps and views ; 1,045,481 v. and pieces of music ; 494,991 prints.

同經費 1,863,612 弗

以下紹介せるものは "L.C. printed cards, how to order and use them," by Charles Harris Hastings の 1928 年版なので少し古い様であるが、而し印刷カードの片鱗は窺へると思ふ。尙ほ 1933 年以來カードに Dewey decimal 分類番號が附記された事を書添へて置く。譯文の拙劣は御寛恕を乞ふ。



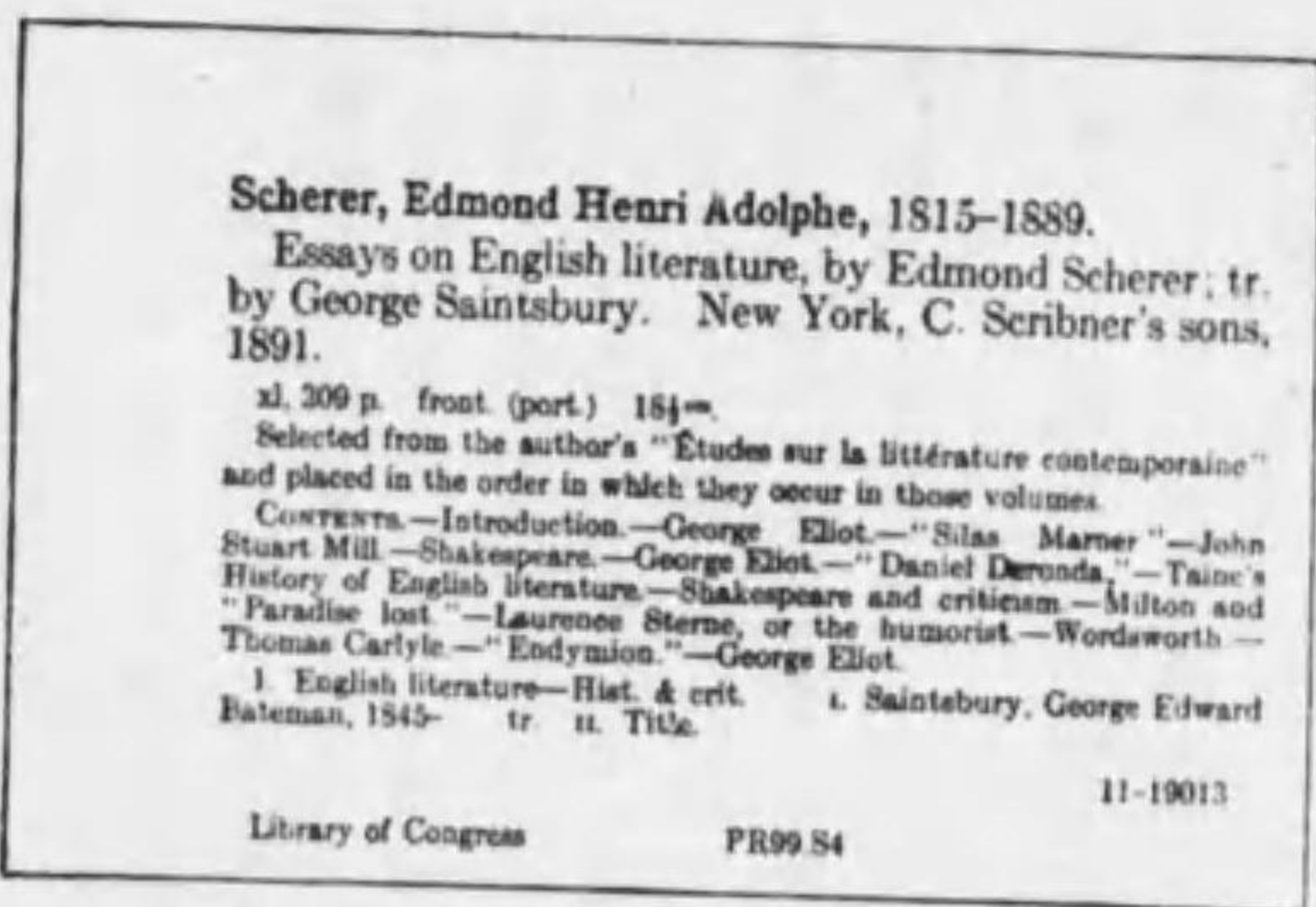
圖書の代りとして印刷されたこのカードの形式は主記入 (main entry) カードである。(例1) 著者の實名は餘す所なく與へられ、必要に応じて生歿の年號が附記される。出版事項は屢々短縮され簡略される。卷頁事項は圖書の物理的組立が正確に記録され、内容及注記も屢々記載される。註記は記述的であり、評價は試みられない。議院図書館に於て、第二記入 (secondary entry) として使用されて居る標目は、書名記入 (title entry) よりも第二記入を必要とする圖書の爲に貯蔵カードの大部分に記載されて居る。

註1 件名記入 (subject entry) はアラビア數字で、註2 附加記入 (added entry) はローマ數字で番號づけられて居る。註3 カード番號はカードの右下邊に與へられて居る。ダツシユに先立つ番號は年號を指示し、ダツシユに従ふ番號はその年の順列のカード番號を示すのである。議院図書館の註4 分類番號及び圖書番號は下邊のほう中央に與へられて居る。カードは標準型で、7 1/2 x 11 1/2 inch (2/16mm) の厚さを有し、而も最上の品質である。

註1 件名記入は、印刷されたカードが未だ館で分類されていない部分のものには指示されて居ない。(例5) 而してこれら初期のカードの大部分は件名標目を附して印刷され直されて居る。(例6)

註2 附加記入なる術語は、件名記入を除いた總ての第二記入を含むて用ひられて居る。書名記入は 1912 年以來指示された附加記入に含まれて居る。(例1-4)

註3 1902 年以前に印刷されたカードに於いては、番號を打つ事に就いていろいろと試



例1—主記入カード

みられた。多くのものに於てはカード番號が日附の次に置かれた。また、或るものにはカード番號のみが與へられた。I. C. の Card Division に依つて用意されたる總てのカードは、一時的な記入に依る CA 類のものを除いては、諸例に示す如く統一されて番號付けられて居る。他の諸図書館から供給された寫して印刷されたカードの 10 の類は、カード番號の前に一ツまたはそれ以上の文字を附して區別されて居る。I. C. Map Division, I. C. Card Division 及 American Libraries (D. C. Library を除く) のものと印刷された三ツの他の類も、同じ方法で區別されて居る。現在の各類の文字は次の如くである。A, Agr, Ek, G, CA, CD, DO, E, ES, F, GS, H, J, Map, PO, S, SD, Sci, W. WAR. (例7)

註4 Dewey decimal 及 Cutter expansive 分類記號は、A. L. A. Catalog (1904) に掲載されて居る圖書のカードの特別版には例外として與へられて居る。

第二章 辭書體目錄に於ける使用法

議院図書館に依つて供給されるカードは、(主記入に使用する) 主記入カードであるから、左上隅に加へられる函架記號や第二記入を導く爲に用ひられるチェックや註記を必要とする。若しカードに印刷されたる實名よりも雅號及び一般的名稱の方を好むなら、第二記入(例3)の標目が上部に記入されると同じ方法で選ばれたる名稱を上部に記入する、説明的の言葉、例へば "pseud. of" を附けて。若し受入れたカードが異なつた版のものであつたら、其の圖書に適するやうに手寫かタイプライターで異なつた箇所を綺麗に修正する、この様な修正は絶対に必要である。公共図書館の中には、屢々新カードに更へなければならぬ小説や一般の部門で、修正してないカードを使用して居るものがある。

第二記入カードとして使用する時には、通例タイプライターで要求する標目を上部に書き加へる事に依つて、その様な記入に改造しなければならぬ。(例2-4) 分出として使用する、即ち圖書の一部分の記入を作る場合にも、ほんの僅かの修正を必要とする。(例5-7)

例8は、Dewey decimal 分類番號及び Cutter 圖書番號を附して分類目録及び兩架目録に適應させたるカードを示して居る。十進法に依つて整頓された組織的の目録に使用するカードは、唯圖書番號を省略したゞけの違ひである。書目に滿

第三章 兩架目録、分類目録及書目に於ける使用法

**WRITING.**

Nicoll, William Robertson, 1851-  
Letters on life, by Claudius Clear (pseud.); New York, Dodd, Mend & company, 1901.  
viii, 277 p. 20¢

CONTENTS.—The art of life.—That literature is autobiography.—The art of conversation.—On the art of taking things coolly.—Vanity and its mortifications.—Some questions about holidays.—"When three stars came out."—Midnight tea.—Firing out the foals.—"A fellow by the name of Rowan."—Taking good men into confidence.—The sin of overwork.—Samuel.—How to remember and how to forget.—"R. S. V. P."—Concerning order and method.—Should old letters be kept?—The secret of Mrs. Farrar.—Brilliance.—On handwriting.—The happy life.—The man in the street.—The rest of life.—Good manners.—On growing old.—Broken-hearted.—The innermost room.

Library of Congress 2-16173

例5—件名分出(カードに印刷されたる分出項目)

**COLONIES**

Smith, Adam, 1723-1790.  
An inquiry into the nature and causes of the wealth of nations, by Adam Smith, LL. D. Ed. by James F. Thorold Rogers ... 2d ed. Oxford, Clarendon press, 1880.  
2 v. front. (port.) 23"

"Of colonies," v.2, p.134-225.

1. Economics. 1. Rogers, James Edwin Thorold, 1823-1890, ed.

Library of Congress 2-19692  
Copy 2 (22g)

例6—件名分出(註記にて指示されたる分出項目)

**Funes, Gregorio, 1749-1830.**

U. S. President, 1817-1825 (Monroe) ... Message from the President ... 1818. (Card-2)

The reports of T. Bland, the third member of the commission, together with other documents concerning South American affairs, are issued as House doc. 48, 15th Cong., 2d sess.

Historical sketch of the revolution of the United Provinces of South America, from the 25th of May, 1810, until the opening of the National Congress, on the 25th of March, 1816, written by Dr. Gregorio Funes, p. 46-96.

(15th Cong., 2d sess. House doc. 2; no. 17 of Congressional series)

1. Rodney, Caesar Augustus, 1772-1824 n. Graham, John, 1774-1820  
111. Funes, Gregorio, 1749-1830.

Library of Congress 6-13945

例7—著者名分出

**ENGLISH LITERATURE - HIST. & CRIT.**

Scherer, Edmond Henri Adolphe, 1815-1889.  
Essays on English literature, by Edmond Scherer; tr. by George Saintsbury. New York, C. Scribner's sons, 1891.  
xi, 309 p. front. (port.) 18½"

Selected from the author's "Études sur la littérature contemporaine" and placed in the order in which they occur in those volumes.

CONTENTS.—Introduction.—George Eliot—"Silas Marner."—John Stuart Mill.—Shakespeare.—George Eliot—"Daniel Deronda."—Taine's History of English literature.—Shakespeare and criticism.—Milton and "Paradise lost."—Laurence Sterne, or the humorist.—Wordsworth.—Thomas Carlyle.—"Endymion."—George Eliot.

1. English literature—Hist. & crit. 1. Saintsbury, George Edward Bateman, 1845- tr. 11. Title

Library of Congress PR99.S4 11-19013

例2—件名記入

**Saintsbury, George Edward Bateman, 1845- tr.**

Scherer, Edmond Henri Adolphe, 1815-1889.  
Essays on English literature, by Edmond Scherer; tr. by George Saintsbury. New York, C. Scribner's sons, 1891.  
xi, 309 p. front. (port.) 18½"

Selected from the author's "Études sur la littérature contemporaine" and placed in the order in which they occur in those volumes.

CONTENTS.—Introduction.—George Eliot—"Silas Marner."—John Stuart Mill.—Shakespeare.—George Eliot—"Daniel Deronda."—Taine's History of English literature.—Shakespeare and criticism.—Milton and "Paradise lost."—Laurence Sterne, or the humorist.—Wordsworth.—Thomas Carlyle.—"Endymion."—George Eliot.

1. English literature—Hist. & crit. 1. Saintsbury, George Edward Bateman, 1845- tr. 11. Title

Library of Congress PR99.S4 11-19013

例3—翻譯者名の附加記入

**Essays on English literature.**

Scherer, Edmond Henri Adolphe, 1815-1889.  
Essays on English literature, by Edmond Scherer; tr. by George Saintsbury. New York, C. Scribner's sons, 1891.  
xi, 309 p. front. (port.) 18½"

Selected from the author's "Études sur la littérature contemporaine" and placed in the order in which they occur in those volumes.

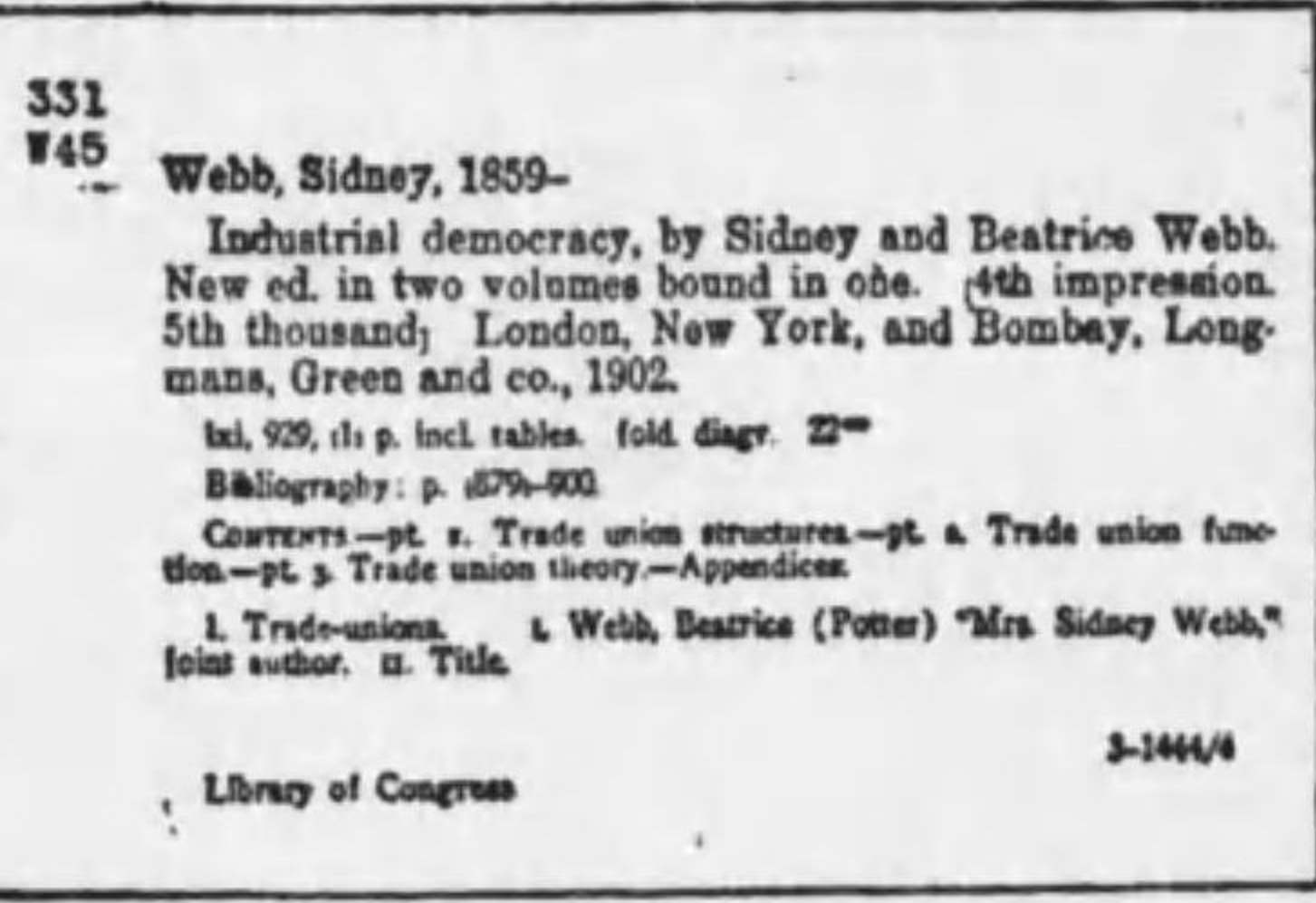
CONTENTS.—Introduction.—George Eliot—"Silas Marner."—John Stuart Mill.—Shakespeare.—George Eliot—"Daniel Deronda."—Taine's History of English literature.—Shakespeare and criticism.—Milton and "Paradise lost."—Laurence Sterne, or the humorist.—Wordsworth.—Thomas Carlyle.—"Endymion."—George Eliot.

1. English literature—Hist. & crit. 1. Saintsbury, George Edward Bateman, 1845- tr. 11. Title

Library of Congress PR99.S4 11-19013

例4—書名記入

件名標目は黒の頭文字で書かれる事を勧める。若し標目を手寫するならば、ばらばらに離れた圖書館筆記體を用ひよ。カードに印刷された件名記入に用ひる標目の中には、小圖書館に於てはあまりに詳細に過ぎるものがある。さう言ふ場合は短縮した標目、又は異なつた標目が使用されてもよい。



例 8—函架目録及書目に使用せられるカード

足な分類表を見出し得ない専門家は、第二章で概説した方法で辭書體の書目を編纂する利益を見出すだらう。たとへ一般索引が完成せられなくても、議院圖書館の新しい分類は組織的書目にとつて良い分類表である。しかも議院圖書館カードはそのカードに印刷してある分類記號に依つて機械的に整理出来ると言ふ利益がある。

第四章 貯蔵カードの範圍と充満

議院圖書館は米國に於て版權を得た圖書に對しては 1899 年 1 月より、その他の圖書に對しては 1901 年 1 月よりその増加に従つてカードを印刷して居る。全體の藏書を新たに目録し直す事も又 1901 年に初つた。圖書の各項目は今や完全に目録をとり直されて居る。而して下に擧げた様な一部分又は全然目録をとり直されて居ない項目を除いては總て貯蔵カードの範圍内である。

○一部分目録されぬもの  
傳記 各傳及叢傳の一部分が、目録をとられるべく殘されて居る。

法律 目下法律家に依つて使用されて居る論文の大部分を含んで居る國會議事堂の法律圖書館所藏の米國及英國の法律に關する一般的論文は、完全に印刷カードになつて居る。議院圖書館に保存してある古い論文の集書は目録中である。外國法律に於ては出来る限り同じ著作の他の版、及同著者に依る他の著作は同じ題目の他のものと共に目録される。  
語學 語學に關する總ての圖書は、アフリカ語及アメリカ(インディアン)語に關するものを除いては目録され印刷カードになつて居る。

文学 この部門の圖書の大部分は目録されて居る。併し次の副部門は未完成のまま、殘されて居る。星標を附してあるのは近く完成されるが、其他のものは半分も出来て居ないものか、まだ手が附けて無いものである。

- \* アメリカ文學 \* イギリス文學、(十九世紀及二十世紀) \* スペイン文學
- ポルトガル文學
- ロシア文學
- ギリシヤ文學
- ラテン文學

軍事 目録中

音樂 音樂の歴史及理論に關するものは大體に於て印刷カードになつて居る。一枚物の樂譜又は説明あるなしに拘らず大體樂譜で組立てられた出版物は、印刷カードになつて居ない。而してこれ等のものゝ爲にカードが印刷されるかどうかは確かでない。

○全然目録されぬもの  
宗教 宗教の目録は始められて居ない。

1898 年 7 月以後米國で版權を得たもの、又は出版されたもの、1901 年以後の外國書で上記の部門の圖書は貯蔵の範圍内である事を心にとめておいて戴きたい。議院圖書館カードで彼等の集書を新らしく目録しようと思つた圖書は、先づ貯蔵の範圍内であるところの項目を整理すべきである。

カードの貯蔵は今や 565,000 の表題にのぼつて居る。これ等のカードは米國で版權を得た圖書に對しては總ての項目に關係的に完成して居る。米國で版權を得ない圖書では、書目と米國の歴史に就いては完成して居るが他の項目に於ては英語の圖書は相當にまとまつて居るが、外國語の圖書に於てはまったく不備である。

第五章 豫約者カード

豫約者カードには註文に就いての標準の指示と明細書とが與へられて居る。この書式には欲するカードの枚数が第一欄に、第二欄には受入れた版の變化が、第三欄には後日印刷されるカードに對する保持された註文に就いての指示が記載される。カードが送られる宛名は豫約者に依つて左上隅に與へられ、豫約者番號と略名が議院圖書館に依つて右上隅に供給される。最初の註文が届けられた後でも豫約者番號は指定されない。然し最初の註文で使用される一時的の豫約者カードは要求すれば供給される。而うして欲するカードの枚数が各細目にわたつて明かに記載されて居り、又は註記、例へば「辭書體目録の總ての記入に充分なカードを送れ、各圖書に對する書名記入並びに函架目録用の附加記入をも含む」と記載されて居るならば、最初の註文を發する前にこの一時的の豫約者カードを得る必要はない。最初の註文が届けられて後に豫約者カードが支給される。これは裏面に印刷されたる指示に従つて使用される、擦り切れて使へなくなるまで使用されるのである。豫約者カードに與へられたる事柄は、註文が適當に充される前に知つておかねばならない。明細書が各傳票や紙葉毎に記載されて居ても豫約者カードは申し出た註文の前に添へて置いてもらひたい。

第六章 豫約者カードに與へられたる指示又は明細書の、各註文傳票上に於ける繰返へし

搜索すべきカードの大多數が含まれて居る目録は、今や百萬を越える記入を含むで居り、カードの貯蔵は四階にわたる 13000 平方フィートの床を占めて居る爲に、個々の小さな註文を取扱ふ事は經濟的でない。今後は多くの小註文は結合して取扱はれなければならない。豫約者は出来るならいつでも傳票 (encl) で註文する様にし、豫約者カードから採つた圖書館番號と館名と註文に關する簡単な明細書を傳票の下邊にスタンプまたはプリントする事を勧める。著者名及び書名の傳票で註文をする大多數の圖書館は總ての傳票の底邊にこれ等の重要な簡條をプリントまたはスタンプする事を實施して居る。要求される五ツの簡條は、例へばの底邊に好ましい形式で與へられて居る。著者名と書名とに依つて註文された最初のカードの價格は、總ての必要な記述が各傳票に與へられて居るなら一仙である。

第七章 欲するカードの枚數指示

目録係の中にはカードを註文する前に圖書を調べて、各欲するカードの正確な枚數を指示する者がある。また中には、いつもきまつた枚數を註文して、その上必要なものにはタイプライターで記入したカードを用ふるか、議院圖書館から追加のカードを送つてもらふものもある。而して大多數の圖書館は、議院圖書館の辭書體目録で使用して居る第二記入が常にカード上に指示してあり、一定の書式に依つて欲する枚數が表示されると言ふ利益を得る事が出来る。この書式の中で、αは「カードに指示せる件名記入の各々の一枚」を、βは「カードに指示せる附加記入の各々の一枚」を、γは「指示せる附加記入の中に書名が含まれて居ない場合の書名カードの一枚」を指して居る。δに従ふ數字は、件名記入が指示されてない時はαの代りとなり、εに従ふ數字は、αが書式中に含まれて居ない時にはβの代りとなり、而してζに従ふ數字は、αとβの兩方かそれに従ふ數字か孰れかの一方を指すのである。

「β」カード一枚を送れ、カードに指示された各件名及附加記入に就いても一枚づゝ送れ

Arizona University Library, Tucson, Ariz.		261 Arizona U	
Number of cards wanted for each title or card number in the order, except when otherwise indicated on order slips or sheets.	Variations in edition accepted in every case, unless note is affixed to title "This ed. only" a) Date of publication different b) Edition different in number, name or revision statement (or all three) c) Publishers reversed d) Publisher different e) Series note lacking on order or card f) Series note different g) Editor different h) Translator different	Orders are	Other requests.
		to be held on temporary slips when the check is Ord. C, or K	
2sal		Date	April 16, 1925
{Subscriber's Card}		Signature:	E-----L-----
		(over)	cm-63

例 a-豫約者カード

「B」カード一枚を送れ、各件名及附加記入についても一枚づゝ送れ、若し件名及附加記入が指示されていないならカードを一枚加へよ

「C」カード一枚を送れ、各件名及附加記入についても一枚づゝ送れ、若し書名記入が指示せる附加記入に含まれてないなら、カードを一枚加へよ

書式の「B」は、貯蔵範囲内の項目中の新刊書に就いての註文の場合には、最も簡單であり、また好ましい。古いカードの總てが必要な第二記入を附して新らしく印刷される時は、圖書館にとつてこの書式は概して印象に残り記憶され易い書名の附加記入を附すると言ふ議院圖書館の計畫に従ふ最善のものとなるだらう。

現在に於ける一般的使用にとつては、書式の「B」及「C」が勧められる。書式「B」は書名記入の議院圖書館計畫に従ふ豫約者に依つて好まれ、書式「C」は殆んど各書の書名記入を作らうと望む人々に依つて好まれる。双方の書式は少なくとも二枚のカードが手に入り、編輯されたり翻譯されたりしたものでない、個人の著者に依る小説では二枚以上は入手されないだらう。

欲するカードの枚数を指示する書式は豫約者カードの左欄に、傳票の左上端(古い様式に依れば)に、または欲するカードの枚数が縮められた明細書の最後の箇條としてプリントまたはスタンプされる時は底邊に與へられる。個々の傳票に與へられたる枚數または書式は豫約者カード上の一般的な指示より重んぜられ、傳票の右上邊又はカード番號の右に與へられる枚數又は書式は底邊にスタンプまたはプリントされた書式より重んぜられる。

#### 第八章 版の變化

議院圖書館カードに印刷されて居るものとは異つた版の著作の著者名及書名でカードが註文された時には、その議院圖

書館カードに表はされて居る變化が受入れられるかどうかの疑問が起る。豫約書カードの第二欄には、版に於ける通例の變化が擧げられて居る。豫約者に受入れられぬものを消してもらひ、それに依つて受入れられるものを指示する。多くの公共圖書館ではこれらの變化をどれでも受入れて居る。而しその目的は、常に許されたる變化の中で最上のカードを送り、變化して居るカードが好まれないなら、カードを送らぬと言ふにあるのである。個々の傳票または紙葉(leaf)上に順序に従つて(第六章参照)受入れられる變化を指示するには、例へば P. P. P. の如く、豫約者カードに擧げられたる數個の變化を指定する文字に依つて指示するのである。若し或る與へられたる文字までの分を受入れられるなら、前にダッシュを附したその文字だけで充分である、例へば  $\text{P. P. P.}$ 。また一ツも受入れられないなら、に依つて指示する。(例 c)

#### 第九章 註文に就ての他の提言

註文に使用する傳票は議院圖書館カードとほゞ同じ大きさのものがよい。普通の筆記用紙より薄くない廉い紙でこしらへるとよい。無駄にしたカードの裏面でも結構である。註文に使用する紙葉は  $8 \times 11$  inches までのものなら如何なる大きさでもよい。

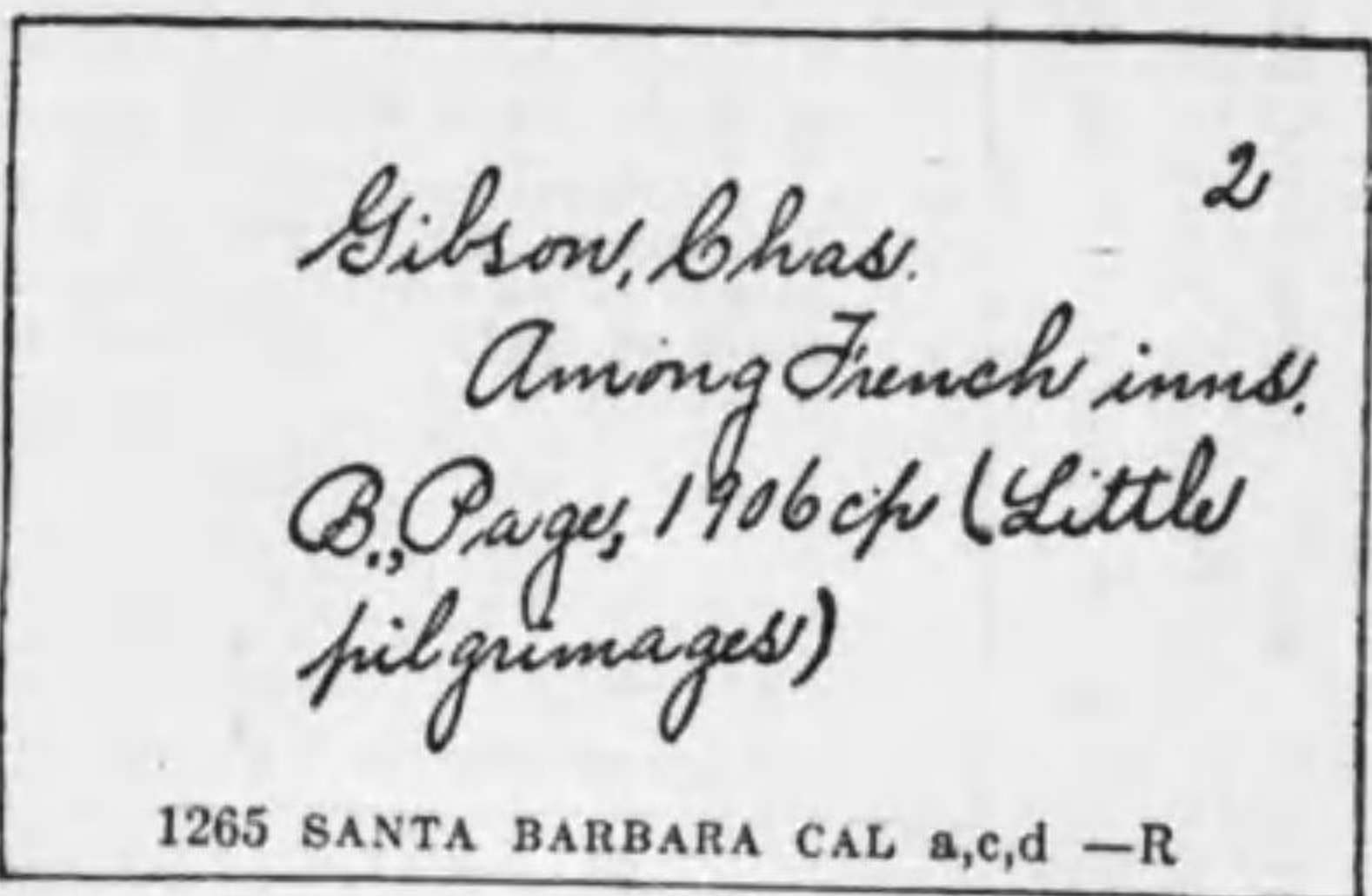
傳票で、著者名及書名に依る註文は、概して小圖書館にとつて最善の註文様式である。一ツ以上の書名を含んで居る紙葉の様式で、著者名及書名に依る註文は、他の目的の爲に用意された(例へば圖書を註文する如き)目錄の寫しを作る時にのみ用ひられる。若し圖書註文目錄の寫しがカード註文に使用されるなら、欲する圖書冊數の指示は消してしまはねばならぬ。さもなければそれは要求するカードの枚數の指示として採られるかもしれないからである。

#### 第一〇章 著者名及書名に依る註文

例bは手寫せる著者名及書名註文傳票の最も簡單なものである。著者名は表題又は目錄にある様に全部與へる。而して surname は特別に注意をはらつて記入して載きたい。與へられた名前に對して、通例の簡略は使用してもよい。圖書の表題は縮めてもよい。而し最初の語(冠詞を除く)は決して省いてはならない。發行地と出版者名は簡略にする。出版年號は省かない、若し無いなら P.P. と書く事。初版物でないなら書名の次に記入する。若し叢書中の出版物なら、必ず叢書の註記を與へて載きたい。その圖書がアメリカに於ける版權を有するなら年號に C. を加へる。また版權が著者に依つて要求されたものなら P. を、出版者に依つて要求されたものなら P. を加へる。版權が著者及び出版者以外のものに依つて要求されたものなら、申請人の名を C. の次に與へるか、または後に記入してもよい。

例cに示される如く、また第七章及び豫約者カードに於て説明せられたる如く、傳票の底邊にスタンプした記載の簡條に従つて枚数が指示されないなら、欲するカードの枚数を右邊の上か下にはつきり指示して載きたい。註文傳票の筆記に際しては圖書館筆記體を用ひてはならない。簡易に、迅速に、明瞭に傳票を記入する習慣を養ふ事を希望する。

例dは、欲するカードの枚数が傳票の底邊に他の記載と共に指示されて居る事を除けば、例bと同様に團體著者名の記入でタイプライターで打たれた註文傳票である。右邊に附記せる週間番號は、この圖書館は印刷中または再印刷中のカードに對して、議院圖書館の一時的傳票の代りに、その註文傳票を C. の週間保有してもらひたいと言ふ事を示して居る。例dは、紙葉で著者名及び書名に依る註文を示す。この様な註文に於ては、傳票での著者名及書名に依る註文に與へられた各書名に就いての總ての記載を含むべきである。若し欲するカードの枚数が、はつきり判つて居るなら例に示される様に左邊に指示して載きたい。著者名及書名に依る總ての註文は、アルファベット順の目錄に於ける記入と同様に、アルファベット順に整理されるべきであり、若しその様に整理されてないなら、それを整理し直す努力と、整理されないまま、で捜す事に就いての特別な費用が價格に加算される。例dは紙葉に依る著者名及書名での註文に於て、記入の正確に整理



例b—著者名及書名註文傳票—傳票に依る一つの書名(手寫)

されたものを示す。紙葉での註文はこの様な順序に整理してもらひたいものである。

### 第一章 カード番號に依る註文

カード番號に依る註文は、その番號が容易に得られる様に用意された最も満足すべき方法である。例eは註文傳票の正しい形式を示すものである。斜線に續く番號は欲する枚数を表はす。若し欲する枚数が豫約者カードに指示されて居り、豫約者が各傳票に其記入を繰返す事を好まないなら、斜線及それに續く番號は勿論省かれてもよい。議院圖書館カード番號は次のものから得られる。

- (1) 議院圖書館カードの貯藏所の目錄
- (2) 議院圖書館カードの校正刷
- (3) 新刊の圖書目錄と出版屋の目錄

即ち "The booklist," "A. L. A. Catalogs (supplements), 1904-21," "Cumulative book index," "United States catalog," "United States catalog Supplement," "Book review digest," "Monthly catalogue U. S. public documents," "Monthly check-list of State publications," "Catalogue of copyright entries, Part 1," "List of books for high school libraries."

番號で満たされた紙葉に依るカード番號での正しい註文様式は例fに示される。この註文では欲するカードの枚数は、

最近註文のカードの大部分は貯蔵中のものであり、直ちに發送された。委ねられた註文の中で残された項目は次の如く

第二章 註文の機械、説明的チェック

5-6480/4

16 HARTFORD CONN

例 c-カード番号に依る註文

C-71	4-251	BS13-2
C-104	4-33058	BS13-5
D-175	GS4-15	DO13-16
D-296	GS4-40	DO13-39
F-198	5-9806	ES13-24
F-337	5-10140	ES13-89
G-62	CA5-124	SI3-11
G-1042	CA5-156	SI3-154
It-136	W5-2	14-21
It-271	W5-13	14-30054
Music-12	6-4580	H14-6
Music-63	6-35240	H14-15
Ro-41	7-15280	15-85
Ro-351	7-29184	15-26920
Z-24	War7-84	C15-3
Z-227	War7-139	C15-12
98-203	8-256	SD15-1
98-2322	8-14123	SD15-5
Sept7-98-2	E8-16	16-6300
99-213	E8-155	16-27500
99-5158	9-2600	CD16-28
Oct26-99-83	9-35154	CD16-195
O-418	10-415	SG16-14
O-6882	10-15502	SG16-270
Dec27-00-24	A10-14	17-485
12-00-8	A10-758	17-27520
12-00-278	F10-6	PO17-17
1-1904	F10-13	18-45
1-31284	11-3777	18-26000
Map1-6	11-25189	19-25807
2-9576	L11-14	20-17802
2-27124	L11-40	21-5440
Agr2-19	12-4786	22-6540
Agr2-142	12-35287	23-11788
J-2400	13-481	24-7985
J-7025	13-19846	25-13741

363 Chicago U.

例 f-カード番号に依る註文一番号で満した紙葉

豫約者カードで指示されて居るものと思はれる。而し要求されるなら欲するカードの枚数をこれ等の番号の或るものまたは總てのものに斜線を附して指示すればよい。註文に就てのその様な特殊の指示は、豫約者カード上のもつと一般な指示にも好まれるといふ事を了解されるだらう。

Michigan. State board of health.  
Quarter-century of public-health literature in Michigan. By Thomas S. Ainge. (From Report of Secretary of State Board of Health, 1907) Lansing, 1898. wk 52

9 BAY CITY MICH -f -R 1s1

例 c-著者名及書名註文傳票

3 Bryce, Jas. Promoting good citizenship. Bost., Houghton, 1913. (Riverside.lit. ser.)

4 Cooper, Jas. F. Cruise of the Somers. N. Y., Winchester, 1844.

4 Gt. Brit. Board of trade--Wages--Textile trades. Return. L., Eyre & S., 1889. (Papers by command C5807.)

2 Green, John R. Hist. of English people. 8 v. N. Y., Macmillan, 1905.

6 Holst, Hermann, E. von. Const. & pol. hist. of U. S. Chic., Callaghan, 1881-1892.

2 Jusserand, J. Hist. abrégée de la lit. anglaise. Paris, Delagrave, 1896.

2 Merzbacher, Gottfried. The central Tian-Shan mountains 1902-1903. L., Murray, 1905.

2 Montgomery, David H. Leading facts of Amer. hist. Bost., Ginn, 1895.

2 Roosevelt, Theod. History as literature. N. Y., Scribner, 1913.

8 Root, Elihu. Addresses on govt. and citizenship, ed. by Robt. Bacon & J. B. Scott. Camb., Harvard U., 1916.

3 U. S. 58th Cong., 3d sess. Statue of Miss Frances E. Willard erected in Statuary Hall of the Capitol. Proceedings. Wash., G. P. O., 1905.

4 Wilson, Woodrow. Congressional government. 12th ed. Bost., Houghton, 1896.

7 Wisconsin. State hist. soc. Library. The Preston and Virginia papers of the Draper collection of manuscripts. Madison, The Society, 1915. (Pub. of soc. Calendar ser. v. 1.)

131 SYRACUSE U

例 d-著者名及書名の註文一紙葉に依る一書名以上一各書名の前にある数字は欲するカードの枚数を指示す

十分に処理される。カードが印刷中か、または再印刷中のもの、注文である時は、何うしてカードが送られないか、そして何時送られるかを通知する爲、注文を發した圖書館に或るチェックが與へられる。若し注文を發した圖書館が、その豫約者カードの第三欄で印刷中のカードに對しては待つ事が出来ないと言ふ事を指示してないなら、その注文は Card Division の傳票に註記され勿論資料として保有される。斯くの如く繼續された注文に使用するチェックは次の通りである。

- Out||絶版、カードは大抵三週間以内に送附される。
- C||版權に依り受入れられる圖書、カードは大抵三週間以内に送附される。
- E||購入に依り受入れられる圖書、カードは英語の圖書なら四週間以内、外國語なら七週間以内に送附される。
- 未だ新しく目錄されてない圖書、または議院圖書館に受入れてない圖書のカードの注文に於ては、カードを得る事に就て如何なる見込を持つて居るかを注文せる圖書館に通知する爲、他のチェックが使用される。即ち
- On||北アメリカに注文せる圖書
- Co||ヨーロッパに注文せる圖書
- Re||購入すべく依頼せる圖書
- C||版權を申請せる圖書、要求が今審議中のもの
- Rd||議院圖書館所藏圖書、併しカードの印刷は一年ぐらゐ延引されるもの
- Rll||議院圖書館所藏圖書、併しカードの印刷は五年以上延引されるもの
- P||購入に就いて考慮中の圖書
- C||其圖書は版權要求を含むて居るのか？若しさうならそれを記載せよ、さうすればその事項が審議されるであらう
- D||疑問

N||通知なし、貴館の記入は我々の判斷出來ぬ程不完全なり  
Np||見込なし

注文が繼續せられるチェックを個々の傳票に指示するには、上に與へられたる如きチェックの通例の順序をよく見て載きたい。例へばその注文がBまでの總てのチェックに繼續せられてもよいなら、Bと書き、その注文が繼續される事をすこしも望まないならチェックの代りにCを書くのである。  
Nは、若し豫約者がその圖書に就てもつと詳細な事柄を與へなければ最期であり、Npは全く最期である。そしてその注文はたとえ豫約者がいつまで待たうとしたところで繼續せられない。

第三章 叢書に依る注文

叢書出版物のカードの注文は、註記で與へられる。例へば "Please send this library 152a copies of each analytical card for N. Y. State Library bulletin, Bibliography, from No. 1 to date and file standing order covering new issues in the series; send also 15a copies of main series card."  
叢書名に依る多量の同じ様な注文に弱らせられて居る圖書館は、例gに示す様な叢書注文傳票の形式を用ふる價值を見出すであらう。  
Bulletin 14, 15, 21, 23 に記述されて居る the U. S. Department of Agriculture, the U. S. Geological Survey, the U. S. Bureau of Education, the

N. Y. State Library.
Bulletin, Bibliography.
1--
Standing series order
Analytic/2als Series Card/1ea
34 Mim U

例 g—叢書に依る注文



Smithsonian Institution, the National Museum の刊行書に就いては特別の注意がはられて居る。

#### 第四章 件名に依る註文

新刊のカードは如何なる題目に就て註文されてもよい。既に貯蔵せるカードは議院図書館の件名目録に出て居る如何なる題目に就いて註文されてもよい。若し望むなら其の題目に就て今後刊行されるカードの總てに互る固定した註文をされてもよい。註文は種々の方法で、例へば「1900年以後出版された森林に關する圖書の總てのカード」の如く量的に制限されてもよい。併しながら「森林に關する主要な圖書のカード」の如く質的の制限をしてはならない。註文は文書又は註記で與へられるがよい。例へば「今後出版されるアメリカの系圖に關する圖書の印刷カードを一枚づゝ送れ、尙ほ系圖的資料を多量に含む地方誌並びに傳記のカードをも含めて。」件名で註文したカードの最初の一枚の価格は、カードを選択するに要する仕事の量で變化する。通例の価格は、一枚につき一仙である。若し註文が一萬から十萬枚のカードに及ぶなら、一仙から二仙へと變化する。価格は註文の範圍がきまつた後でのみ定められるのである。申込に際して件名の順序をきめるに使用する印刷した書式が Card Division から支給される。而しこの書式の使用は任意である。關係題目の順に件名を順序づけたいなら、議院図書館分類表の綱目を参照すれば、最も満足に決定する事が出来る。

#### 第五章 校正刷の豫約申込

目録カードが印刷される前に校正刷が印刷される。各紙葉には通例五ツの書名が含まれて居る。これ等の校正刷の完全な一組は、年極豫約で三弗で賣られる。校正刷の記入は分類されて居り、またどの項目でも一枚二仙の割で豫約する事が出来る。校正刷枚數の一年間の概算は、どの項目のものでも與へられる。現在に於ける項目は

American history and description.	Slavica.
Bibliography (including library science).	Social sciences.
Education.	Technology.
Fiction (English.)	Titles from American libraries.
Fine arts.	Titles from L. C. Card Division.
Geography and anthropology.	Titles from Smithsonian Institution.
History and description (except America).	Titles from U. S. Bureau of Education.
Law.	Titles from U. S. Bureau of Fisheries.
Literature and language.	Titles from U. S. Dept. of Agriculture.
Medicine.	Titles from U. S. Dept. of Labor.
Military and naval science.	Titles from U. S. Engineer School.
Music.	Titles from U. S. Geological Survey.
Philosophy and religion.	Titles from U. S. Patent Office.
Plant and animal industry.	Titles from U. S. Surgeon General's Office.
Reference cards.	Titles from U. S. War Department.
Reprints-Revised.	Titles from Washington, D. C., Public Library.
Science.	

第十六章 カードの價格、郵税(略)  
第十七章 支拂方法(略)

大橋圖書館所藏

博文館發行圖書目錄稿

小谷源三

「ア——コ」

昭和十二年十二月現在

徳富猪一郎翁の談に「自分は古書の市が開かれる毎にかつて缺したことの無い位に訪れてゐるが、その會にまたかつて坪谷君の顔を見ないことはなかつた。それ位に坪谷君は圖書の蒐集に熱心で圖書に對する愛着が深いのである。それだけを以てしても坪谷君は圖書館長として最も適任者であると、私は折紙を附けることが出来る。」と謂ふ意味の話をなされたことがある。それ位坪谷先生が熱心に蒐集せられた古書の一部には、彼の大震災火災によつて失はれた博文館發行の圖書もあつたのである。今博文館の發行したそれ等の圖書を一團として觀れば、それが包含する範圍の廣いことに於て、その大量なる點に於て、また博文館自體が搖蕩時代にあつた出版界に、卓拔確固たる地歩を占めて居た點に於て、我が明治、大正の文化を語る者の度外視出来ないものがある、そして現在博文館發行書を最も多く網羅所蔵し、而も何人にも閱覽の機會を假し得るのは、我が大橋圖書館を措いて他に求むることは出来ないものである。これは偏に坪谷先生の御努力の致すところと云はなければならぬ。幸に先生喜壽の記念として、日頃念頭を去らなかつた、最も大衆に便利な書名目録として之れを作製することの出來たのは、欣びに耐えない次第である。紙幅の關係よりしてその全部を登載することが出来なかつたことは残念ではあるが、何等かの機會を得て完璧を期したいと思ふ。

**ア**  
 土木アーチ設計法 工務 飯田 耕一郎 再明治三三 二ワ二一六五〇リ  
 愛する子の爲に 大橋 涉 版大正二・五 三マハ一五〇四  
 愛 憎 須藤 鐘一 再大正三〇 二ミス二一 五ウ  
 日本愛 と 飯 木村 小舟 明治三三 三マウ二一三三〇  
 青バスの女 新青年 辰野 九紫 昭和 三ニセ二一八五二  
 赤い法 服 眞野 歎三郎 昭和 三ニセ二一八五二  
 明石大將 傳 杉山 茂丸 再大正二・二 ヤア二一 二五ア  
 赤穂義士眞筆帖 山下新助 明治三三 三ハラ一七九〇  
 探偵悪人志願 新青年 江戸川 亂歩 昭和 三ニセ二一八五二  
 浅草海 苔 岡村 金太郎 明治三三 三ナリ三二七五〇  
 アジアに叫ぶ 土井 晩翠 昭和 三ハホ又一三二四  
 足代弘訓翁家集 佐々木弘綱 明治三三 三ホケ二一 一  
 趣味と新しい竹細工 森 田 久 昭和 三ニセ二一八五二  
 新しい花の活け方 近藤 正一 昭和 三ニセ二一八五二  
 東鑑拜賀 卷 福地 櫻痴 明治三三 三メフ三二 一三サ  
 姉小路公知傳 關 博直 明治三三 三ヤア三二 一八ア  
 油繪の手ほどき 横井 弘三 再大正三・三 ハチ二一三三三  
 あま 蛙 袖珍小説 齋藤 絲雨 明治三三 三ミン一 一七ケ  
 編物刺繡講習全書 岸本 野子 昭和 三ニセ二一八五二

鉛製造加工法 通俗 飯塚 啓 大正 三ニセ二一八五二  
 あめりか物語 永井 荷風 明治三三 三ハミナ二一 四一ア  
 あめりか物語 永井 荷風 版大正二・二 ミナ二一 四一ア  
 鮎を釣るまで 藤田 榮吉 再昭和六・六 ヘル一五九〇  
 鮎釣り讀本 岡部 丹虹 昭和 三ニセ二一八五二  
 あられ 酒 齋藤 絲雨 五明治三三 三マヤ一 一〇八  
 アルベルグ・スキー術 高橋 次郎 昭和 三ニセ二一八五二  
 アルベルグ・スキー術 高橋 次郎 四昭和 三ニセ二一八五二  
 アルミニウム製造法 工務 淺野 幸作 三三大正 三ニセ二一八五二  
 安眠 法 門脇 眞枝 大正 三ニセ二一八五二  
**イ**  
 飯塚動物發生學 飯塚 啓 昭和 三ニセ二一八五二  
 醫學新書 博文館  
 藥 物 學 石原 弘 四明治三三 三エワ三二 一〇三ア  
 精神病學 門脇 眞枝 明治三三 三エワ三二 一〇三ア  
 精意ある參拜 木場 貞長 大正 三ニセ二一八五二  
 活きた英語の使ひ方 佐久間 信恭 再大正三・三 カハ一 一五五七  
 活用きた定石 瀨越 憲作 大正 三ニセ二一八五二  
 卷一 置碁定石の部 大正 三ニセ二一八五二  
 育児及小兒病講話 長尾 美知 大正 三ニセ二一八五二

偉人傳叢書博文館

Table listing books in the '偉人傳叢書' series, including titles like '第一册 葛亮', '第二册 坂本龍馬', '第三册 西郷南洲', etc., with author names and publication details.

Table listing books in the '池の藻' series, including titles like '池の藻 解法華經', '池の藻 活ける法華經', '池の藻 活ける法華經 鐵譯', etc., with author names and publication details.

Table listing books in the '伊藤公演説全集' series, including titles like '伊藤公演説全集 第一', '伊藤公演説全集 第二', '伊藤公演説全集 第三', etc., with author names and publication details.

Table listing books in the '一葉全集' series, including titles like '一葉全集 樋口一葉', '一葉全集 樋口一葉 樋口一葉', '一葉全集 樋口一葉 樋口一葉', etc., with author names and publication details.

牛 岡本米蔵 版八正三〇ニラナニ一四七  
 宇治拾遺物語 校註國文書 池邊義象等註 版二大正三六カシニ一五五三サ  
 雨 絲 風 片 笹川 臨風 明治三〇ホスニ一八〇〇  
 歌 かたり 日本歌學全集 村々木弘編等註 明治三〇ホスニ一四〇〇シ  
 歌 の 志 を り 佐々木信綱 版四明治三六ホキニ一五五五  
 二百曲話 ひ 鑑前 井上 正 大正 三三ホスニ一五五〇ア  
 二百曲話 ひ 鑑後 近藤 正 大正 三三ホスニ一五五〇イ  
 二百曲話 ひ 鑑後 近藤 正 大正 三三ホスニ一五五〇イ  
 歌 袋 日本歌學全集 佐々木弘編等註 明治三〇ホスニ一四〇〇シ  
 歌 ま な び 大和田建樹編 版六正三三ニホキニ一五〇  
 宇宙之進 化 蘆野敏三郎 大正 三三ホキニ一五〇  
 歌 潮 生田蝶介 大正 二一ホケニ一三三〇  
 津保物語 校註國文書 池邊義象等註 版四正三三ニカシニ一五五三ス  
 津保物語 下巻 校註國文書 池邊義象等註 版四正三三ニカシニ一五五三七  
 海をこえ 田山花袋 昭和 二二ヨムニ一三三  
 海と 魚 岩上 鎌吉 明治三〇ハウサニ一四五六カ  
 海も へ 溝部洋六編 大正 三三ホスニ一八〇〇  
 運命の影 木與謝野鐵幹 三明治三〇マヤニ一〇二  
 影 江馬 修 大正 三〇ニミエニ一三ウ  
 歌 工 佐々木 弘編 校註 明治三〇ハカカニ一四九

榮花物語 校註國文書 池邊義象等註 版四正三三ニカシニ一五五三コ  
 永久百首 日本歌學全集 佐々木弘編註 明治三〇ホスニ一四〇〇カ  
 自營業開始案内 石井 研堂 (第二編) 大正 三三ホスニ一四〇〇イ  
 第二編 新古今和歌集・新古今和歌集 版二明治三〇ホスニ一四〇〇イ  
 第四編 新古今和歌集・新古今和歌集 版二明治三〇ホスニ一四〇〇イ  
 第六編 新古今和歌集・新古今和歌集 版二明治三〇ホスニ一四〇〇イ  
 第七編 新古今和歌集・新古今和歌集 版二明治三〇ホスニ一四〇〇イ  
 英國文學史 第五編 版五八  
 中英語自修書上 乙骨 五郎 版六正三三カヘニ一四〇〇ア  
 中英語自修書中 乙骨 五郎 版六正三三カヘニ一四〇〇イ  
 中英語自修書下 乙骨 五郎 版六正三三カヘニ一四〇〇イ  
 英語世界叢書 博文 館 (第二編) 版二正三三カヘニ一四〇〇ウ  
 一、戀 と 職 (小日向定太郎註) 三明治三〇カミニ一四〇〇セ  
 改英文文の研究 元田 作之進 版七正三三カマニ一八二ア  
 訂英文文の研究 元田 作之進 版七正三三カマニ一八二ア  
 改英文文の研究 元田 作之進 版七正三三カマニ一八二ア  
 英 史 百 首 天野 御民 明治三〇ホコニ一三  
 英 史 百 首 中村 孝也 昭和 三三エウニ一八〇八  
 衛生學大意 宗室 衛生 昭和 三三エウニ一八〇八  
 衛生觀察南米紀行 森 鷗 外 明治三〇セエウニ一三イ  
 石原喜久太郎 昭和 三三ヨムニ一三三

衛生百話 松下 賴二 大正 三三ホスニ一四〇〇カ  
 衛生百話 松下 賴二 版七正三三ホスニ一四〇〇  
 衛生法 廣中 佐兵衛 明治三〇セソソニ一六二エ  
 英獨戰爭未來記 (英)キウイアム 再版大正 三三ホスニ一六二エ  
 自習用 英文解釋 問題の見方 高田知一郎等註 版大正 三三ホスニ一六二エ  
 英文熟語の使ひ方 佐久間 信恭 大正 三三ホスニ一六二エ  
 英文熟語句慣用法 新編 佐久間 信恭 大正 三三ホスニ一六二エ  
 應用英文和譯法 佐久間 信恭 大正 三三ホスニ一六二エ  
 江 川 子 江戸川 亂歩 昭和 三三ホスニ一八〇二ア  
 江 川 子 江戸川 亂歩 昭和 三三ホスニ一八〇二ア  
 易 學 概 観 象 坂 晉 昭和 三三ホスニ一八〇二ア  
 益 軒 十 訓 西田 益軒 明治三〇キミニ一三〇〇ア  
 益 軒 十 訓 西田 益軒 明治三〇キミニ一三〇〇ア  
 エスベラントの基礎 石 黒 修 昭和 三三ホスニ一三〇〇カ  
 エスベラントの學び方 石 黒 修 訂正昭和 三三ホスニ一三〇〇カ  
 悦 目 抄 日本歌學全集 佐々木弘編等註 明治三〇ホスニ一四〇〇シ  
 江戸時代の科學 東京科學博物館 昭和 三三ホスニ一四〇〇シ  
 江戸時代のさまざま 三田村 鳶魚 昭和 三三ホスニ一四〇〇シ  
 江戸城 明 渡 高安 月郊 明治三〇ホスニ一四〇〇シ  
 江戸 長 明 渡 佐々 醒雪 三三正三三ホスニ一四〇〇シ

繪の具製造法工業書 矢野 道也 版六正三三ニワニ一六五〇チ  
 繪本 百 番 太郎の巻 竹貫 佳水編 明治三〇セルルニ一〇ア  
 繪本 太 閤 記 博文 館 再明治三〇セルルニ一〇ア  
 繪本 神 史 小説 博文 館 再明治三〇セルルニ一〇ア  
 第一集 繪本三國志 藤村 武揚 編 版七正三三ニワニ一六五〇チ  
 第二集 繪本三國志 藤村 武揚 編 版七正三三ニワニ一六五〇チ  
 第三集 繪本三國志 藤村 武揚 編 版七正三三ニワニ一六五〇チ  
 第四集 繪本三國志 藤村 武揚 編 版七正三三ニワニ一六五〇チ  
 第五集 繪本三國志 藤村 武揚 編 版七正三三ニワニ一六五〇チ  
 第六集 繪本三國志 藤村 武揚 編 版七正三三ニワニ一六五〇チ

Table with multiple columns listing book titles, authors, and publication details. Includes series like '第一集', '第二集', '第三集'.

Table listing various books and their authors, including titles like '園藝全書', '果樹栽培法', and '蔬菜不時栽培法'.

Table listing books and authors, including titles like '大浦兼武傳', '大隈伯時局談', and '歐洲戰爭實記'.

Table listing books and authors, including titles like '歐洲戰爭實記', '大空に描く', and '櫻痴全集'.



海外行脚 坪谷善四郎 明治四三ヨム二一三九  
海外移民案内 坪谷善四郎 明治四三ヨム二一三九  
繪畫の見方 今泉雄作 再大正二ハレ二一三〇  
會 議 法 龜井英三郎 明治二五ハソワ二一四〇  
石 志 懷 舊 九十年 石 志 懷 舊 九十年 昭和二ニヤイ三一九  
志 志 懷 舊 九十年 石 志 懷 舊 九十年 昭和二ニロヤ三一九  
楷 行 蒼 編 市河米庵 明治二六ハヤ九一〇  
日露海軍寫真集第二卷 坪谷善四郎 明治二六ハヤ九一〇  
日露海軍寫真集第三卷 坪谷善四郎 明治二六ハヤ九一〇  
日露海軍寫真集第四卷 坪谷善四郎 明治二六ハヤ九一〇  
外 交 小中村義象等 明治二六ハヤ九一〇  
外國爲替論 添田 壽一 明治二六ハヤ九一〇  
外國貿易論 添田 壽一 明治二六ハヤ九一〇  
海 產 動 物 學 飯塚 啓 明治二六ハヤ九一〇  
海上萬國公法 藤田隆三郎 明治二六ハヤ九一〇  
楷 書 怡 好 論 諸井春雄 大正二ハヨ三二五  
新 撰 楷 書 千 字 文 小野 鷺堂 大正三ハヤ八二四  
改 造 外 國 地 理 長谷川與三治 大正三ハヨ二二〇  
害蟲驅除法 長谷川與三治 明治二二ナワ三二五

害蟲と益蟲 長野菊次郎 大正二ハウツ三〇一  
海島日海軍艦 押川春浪 明治二二ミオ一八  
汽機回轉汽機工業叢書 江波常吉編 明治二六ハニワ二六〇  
改良蠶室法 石川孫太郎 明治二六ハニワ二六〇  
花 押 敷 正 丸山可澄編 明治二六ハニワ二六〇  
課 外 讀 本 葛原 幽 大正二ハルラ二〇六  
尋常三年夏休の巻 大正二ハルラ二〇六  
尋常四年三月の巻 大正二ハルラ二〇六  
化學一千題 須永金三郎 明治二六ハソラ二〇六  
化學實驗室及工場必携 須永金三郎 明治二六ハソラ二〇六  
化學實驗室及工場必携 須永金三郎 明治二六ハソラ二〇六  
化學的食養長壽論 石塚 左支 明治二六ハエミ三二  
化學的食養長壽論 石塚 左支 明治二六ハエミ三二  
化學的食養長壽論 石塚 左支 明治二六ハエミ三二  
現代科學と宗教 石塚 左支 明治二六ハエミ三二  
自體用 化學開闢の見方と編み方 石塚 左支 明治二六ハエミ三二  
香川景樹全集 上 香川景樹全集 明治二六ハエミ三二  
香川景樹全集 下 香川景樹全集 明治二六ハエミ三二  
花 卉 園 藝 叢 書 野崎 信夫 明治二六ハエミ三二  
一 花卉栽培要覽 野崎 信夫 明治二六ハエミ三二  
二 花卉の害蟲 野崎 信夫 明治二六ハエミ三二

實 業 栽 培 法 田 村 松 太郎 大和 田 建 樹 九 大 正 三 六 ナ ト 三 二 五 二 イ  
歌 曲 評 註 田 村 松 太郎 大和 田 建 樹 九 大 正 三 六 ナ ト 三 二 五 二 イ  
中 學 校 學 科 全 書 博 文 館 九 大 正 三 六 ナ ト 三 二 五 二 イ  
一 新 編 教 育 學 高 橋 章 臣 再 治 三 七 ラ コ ニ 一 一 ア  
二 新 編 地 理 佐 野 川 泰 彦 明 治 三 七 ラ コ ニ 一 一 イ  
三 新 編 算 術 生 駒 萬 治 明 治 三 七 ラ コ ニ 一 一 ウ  
四 新 編 學 校 管 理 學 高 橋 章 臣 明 治 三 七 ラ コ ニ 一 一 エ  
五 新 編 物 理 學 生 駒 萬 治 明 治 三 七 ラ コ ニ 一 一 オ  
六 新 編 倫 理 學 高 橋 章 臣 再 治 三 七 ラ コ ニ 一 一 カ  
七 新 編 礦 物 學 高 橋 章 臣 明 治 三 七 ラ コ ニ 一 一 キ  
八 新 編 化 學 生 駒 萬 治 明 治 三 七 ラ コ ニ 一 一 ク  
九 新 編 動 物 學 高 橋 章 臣 再 治 三 七 ラ コ ニ 一 一 ケ  
一〇 新 編 植 物 學 高 橋 章 臣 明 治 三 七 ラ コ ニ 一 一 コ  
學 藝 叢 書 博 文 館 九 大 正 三 六 ナ ト 三 二 五 二 イ  
一 人 類 學 叢 話 坪 井 正 五 郎 明 治 三 七 ラ カ 三 一 三 ア  
三 水 産 叢 話 岡 村 金 太 郎 明 治 三 七 ラ カ 三 一 三 ウ  
四 動 物 學 叢 話 石 川 千 代 松 明 治 三 七 ラ カ 三 一 三 エ  
五 歷 史 叢 話 箕 作 元 八 明 治 三 七 ラ カ 三 一 三 オ  
六 植 物 學 叢 話 松 村 任 三 明 治 三 七 ラ カ 三 一 三 カ  
七 國 語 學 叢 話 上 田 萬 年 明 治 三 七 ラ カ 三 一 三 キ

九 地 理 學 叢 話 神 保 小 虎 明 治 三 七 ラ カ 三 一 三 ケ  
一 二 海 事 叢 話 寺 野 精 一 明 治 三 七 ラ カ 三 一 三 シ  
作 文 格 言 辭 典 干 河 岸 實 一 再 治 三 七 ラ コ ニ 一 一 三  
學 校 教 育 小 西 重 直 明 治 三 七 ソ キ 一 三 〇 カ  
學 校 教 育 小 西 重 直 明 治 三 七 ソ キ 一 三 〇 カ  
學 校 教 育 小 西 重 直 明 治 三 七 ソ キ 一 三 〇 カ  
英 學 校 巡 牧 野 宗 太 郎 再 大 正 三 七 ソ キ 一 三 〇 ア  
少 學 術 共 進 會 第 一 冊 日本之少年 博 文 館 明 治 三 七 マ セ 二 九 〇 〇 ア  
少 學 術 共 進 會 第 二 冊 日本之少年 博 文 館 明 治 三 七 マ セ 二 九 〇 〇 ア  
少 學 術 共 進 會 第 三 冊 日本之少年 博 文 館 明 治 三 七 マ セ 二 九 〇 〇 イ  
少 學 術 共 進 會 第 四 冊 日本之少年 博 文 館 明 治 三 七 マ セ 二 九 〇 〇 ウ  
少 學 術 共 進 會 第 五 冊 日本之少年 博 文 館 明 治 三 七 マ セ 二 九 〇 〇 エ  
全 科 學 習 辭 典 佐 藤 武 郎 再 治 三 七 マ セ 二 九 〇 〇 エ  
各 宗 本 山 名 所 圖 會 石 倉 重 繼 再 治 三 七 マ セ 二 九 〇 〇 エ  
善 光 寺 名 所 圖 會 明 治 三 七 マ セ 二 九 〇 〇 エ  
成 田 山 名 所 圖 會 明 治 三 七 マ セ 二 九 〇 〇 エ  
佛 光 寺 名 所 圖 會 明 治 三 七 マ セ 二 九 〇 〇 エ  
大 谷 派 本 願 寺 名 所 圖 會 明 治 三 七 マ セ 二 九 〇 〇 エ  
本 派 本 願 寺 名 所 圖 會 明 治 三 七 マ セ 二 九 〇 〇 エ  
高 野 山 名 所 圖 會 明 治 三 七 マ セ 二 九 〇 〇 エ  
日 蓮 宗 各 本 山 名 所 圖 會 明 治 三 七 マ セ 二 九 〇 〇 エ  
學 生 訓 正 大 町 桂 月 再 大 正 三 七 マ セ 二 九 〇 〇 エ



學生訓練 大町桂月 大正九・〇・キヨ一・六一  
 女學生健康法 佐藤尚實 昭和六・九・エミ一・七〇一  
 學生用和英字典 鳥田九郎 昭和六・九・エミ一・七〇九  
 學生立身策 田中次郎 昭和六・九・エミ一・七一  
 家具の設計及製作 木槍想一 昭和六・九・エミ一・八一  
 家具の設計 註記圖文書 池田重雄 昭和六・九・エミ一・八二  
 火災豫防と消防 高松丈五郎 明治三二・スス一・三〇〇  
 果菜類栽培法 尾崎五平治 大正二・九・ナチ一・八五五  
 果樹園經營法 梶田牛古 明治二二・ハサ一・五〇  
 果樹學教科書 恩田鐵彌 大正三・セ・ニ一・五五〇  
 果樹栽培講義上卷 星野勇三 大正三・ナツ一・五五  
 果樹栽培講義下卷 星野勇三 大正三・ナツ一・五五  
 果樹栽培全書第一編 福羽逸人 明治二二・ナツ一・一〇〇  
 果樹栽培全書第二編 福羽逸人 明治二二・ナツ一・一〇〇  
 果樹栽培全書第三編 福羽逸人 明治二二・ナツ一・一〇〇  
 果樹剪定法 恩田鐵彌 昭和六・八・ナト一・五三  
 果樹蔬菜高等栽培論 福羽逸人 大正二・九・ナチ一・五五  
 標之 與謝野寛 明治二二・ホ又一・三九  
 瓦斯及石油機關工務 根岸政一 明治二二・ニワ一・六〇  
 一、家庭醫學講話 博文館 大正二・九・エモ一・一六  
 二、呼吸器病の預防と手當 小田俊三 大正二・八・エモ一・一九  
 三、家庭看護學 原田隆 大正二・二・エモ一・一九  
 四、消化器病の最新療法 小田俊三 昭和三・二・エモ一・一九  
 五、住居の衛生 藤原九十郎 昭和三・二・エモ一・一九

六、乳兒及幼兒の育て方と 原田達三 昭和六・六・エモ一・一九  
 家庭衛生講話 中川恭次郎 八・八・八  
 一、一般救急法 三輪德寬 明治二二・エモ一・三九  
 二、衛生學大意 森林太郎 明治二二・エモ一・三九  
 三、藥物之大意 林春雄 明治二二・エモ一・三九  
 四、妊娠婦の心得 精方正雄 明治二二・エモ一・三九  
 五、花柳病講話 筒井八百珠 明治二二・エモ一・三九  
 六、耳の衛生 賀古鶴所 明治二二・エモ一・三九  
 七、傳染病大意 井上善次郎 明治二二・エモ一・三九  
 八、外科講話 林秀馬 明治二二・エモ一・三九  
 家庭衛生叢書 中川恭次郎  
 一 傳染病の話 昭和二・二・エモ一・三九  
 二 腸胃扶助に就て 昭和二・三・エモ一・三九  
 三 眼科衛生談 昭和二・四・エモ一・三九  
 四 腸胃の話 昭和二・五・エモ一・三九  
 五 創傷に就て 昭和二・六・エモ一・三九  
 六 ベストの話 昭和二・七・エモ一・三九  
 七 梅毒に關する話 昭和二・八・エモ一・三九  
 八 婦人の妊娠力 昭和二・九・エモ一・三九  
 九 肺癆の話 昭和三・〇・エモ一・三九  
 一〇 飲酒血族の退化 二〇  
 一一 雙燈の話 二一  
 一二 家庭醫學講話 博文館  
 一、婦人衛生講話 博文館  
 二、呼吸器病の預防と手當 小田俊三  
 三、家庭看護學 原田隆  
 四、消化器病の最新療法 小田俊三  
 五、住居の衛生 藤原九十郎

八 簡易治療法 藤井 靜子 明治三三・三三・三三・三三  
 九 禮式と作法 佐方 鎮子 明治三三・三三・三三・三三  
 一〇 惣菜料理 赤堀 吉松等 明治三三・三三・三三・三三  
 一一 編物指南 石井とみ子 明治三三・三三・三三・三三  
 一二 婦人の生理と衛生 牧野 清子 明治三三・三三・三三・三三  
 一三 教育お伽噺 木村 小舟 明治三三・三三・三三・三三  
 一四 女徳の養成 前田 長太 明治三三・三三・三三・三三  
 一五 家庭と庭園 内田 正如 明治三三・三三・三三・三三  
 一六 魚鳥家畜の飼養 鹿野 化骨 明治三三・三三・三三・三三  
 一七 女子作文法 藤橋 絢子 明治三三・三三・三三・三三  
 一八 女子の教養 大森 萬次郎 明治三三・三三・三三・三三  
 一九 家庭の趣味 高橋 定次郎 明治三三・三三・三三・三三  
 二〇 家庭遊戯法 井田 秀生 明治三三・三三・三三・三三  
 二一 歌の手引 大和田 建樹 明治三三・三三・三三・三三  
 二二 刺繡術指南 磯村 大次郎 明治三三・三三・三三・三三  
 二三 摘み細工指南 山田 興松 明治三三・三三・三三・三三  
 二四 新式化粧法 藤波 芙蓉 明治三三・三三・三三・三三  
 二五 室内裝飾法 近藤 正一 明治三三・三三・三三・三三  
 二六 衣服の調整 石崎 篁園 明治三三・三三・三三・三三

二七 洋樂手引 前田 久八 明治三三・三三・三三・三三  
 二八 母の智識 木村 小舟 明治三三・三三・三三・三三  
 二九 衛生と衣食住 福田 琴月 明治三三・三三・三三・三三  
 三〇 東西名婦の面影 高須 梅溪 明治三三・三三・三三・三三  
 三一 婚姻のかゝみ 河崎 哲雄 明治三三・三三・三三・三三  
 三二 交際と談話 福田 琴月 明治三三・三三・三三・三三  
 三三 婦人日常座右銘 高須 梅溪 明治三三・三三・三三・三三  
 三四 日用家庭理科 一戸 清方 明治三三・三三・三三・三三  
 三五 偉人の妻 前田 雪子 明治三三・三三・三三・三三  
 三六 日常公けの心得 小西 眞雄 明治三三・三三・三三・三三  
 三七 魚介新料理 赤堀 峯吉 明治三三・三三・三三・三三  
 三八 家庭新飲料 小原 峯吉 明治三三・三三・三三・三三  
 三九 新洋菓子の調製 赤堀 峯吉 明治三三・三三・三三・三三  
 四〇 看病と養生 伊藤 尙賢 明治三三・三三・三三・三三  
 四一 洋花の園藝 北村 東紅 明治三三・三三・三三・三三  
 四二 漬物法二百種 奥村 繁次郎 明治三三・三三・三三・三三  
 四三 賢母と偉人 前田 雪子 明治三三・三三・三三・三三  
 四四 家政の整理 味岡 貢 明治三三・三三・三三・三三  
 四五 綿細工指南 佐竹 精 明治三三・三三・三三・三三

一 佳節儀式料理 赤堀 峯吉 大正三三・三三・三三・三三  
 二 婦人常識百話 堀内 新泉 大正三三・三三・三三・三三  
 三 家庭文庫 下田 歌子 大正三三・三三・三三・三三  
 四 誦歌之栞 明治三三・三三・三三・三三  
 五 料理手引草 明治三三・三三・三三・三三  
 六 婦女家庭訓 明治三三・三三・三三・三三  
 七 母親乃心得 明治三三・三三・三三・三三  
 八 家事要訣 明治三三・三三・三三・三三  
 九 女子手藝要訣 明治三三・三三・三三・三三  
 一〇 女子普通文典 明治三三・三三・三三・三三  
 一一 女子遊嬉之栞 明治三三・三三・三三・三三  
 一二 女子家庭教育 明治三三・三三・三三・三三  
 一三 家庭養鶏 引田 久次郎 大正三三・三三・三三・三三  
 一四 家庭養鴨 佐々 醒雪 大正三三・三三・三三・三三  
 一五 假名交文典 田中 渙乎 大正三三・三三・三三・三三  
 一六 假名遺枕詞字典 佐々 醒雪 大正三三・三三・三三・三三  
 一七 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 一八 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三

一九 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 二〇 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 二一 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 二二 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 二三 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 二四 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 二五 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 二六 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 二七 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 二八 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 二九 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 三〇 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 三一 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 三二 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 三三 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 三四 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 三五 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 三六 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 三七 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 三八 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 三九 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三  
 四〇 金 飯田 勇助 大正三三・三三・三三・三三

冠句乃 榮 鷲亭 金升 明治三〇年二月一號  
 著 獄學 谷野 格 明治三〇年三月七號  
 官國幣社 國會 石倉 重編 明治三〇年三月七號

一日光名所 國會 明治三〇年三月七號  
 冠詞例 歌集 末松 房泰 明治三〇年三月七號  
 關東の山水 大町 桂月 明治三〇年三月七號  
 芳哉 義士 譽 福地 櫻痴 明治三〇年三月七號  
 韓非子講義下 第六 支那文學全集 明治三〇年三月七號  
 韓非子新釋 卷一 小宮山 綾介 明治三〇年三月七號  
 韓非子新釋 卷二 久保 天隨 明治三〇年三月七號  
 韓非子新釋 卷三 久保 天隨 明治三〇年三月七號  
 韓非子新釋 卷四 久保 天隨 明治三〇年三月七號  
 漢文自修讀本 光武 泰次郎 明治三〇年三月七號  
 漢文自修讀本 明治三〇年三月七號  
 漢文自修讀本 明治三〇年三月七號

一 重改四書伴讀鈔 毛利貞齋 明治三〇年三月七號  
 二 重改新四書伴讀鈔 久保天隨 明治三〇年三月七號

三 重改新四書伴讀鈔 毛利貞齋 明治三〇年三月七號  
 重改大學章句伴讀鈔 明治三〇年三月七號  
 重改中庸章句伴讀鈔 明治三〇年三月七號

孝經國字解 勝田祐義 明治三〇年三月七號  
 四 唐詩選師傳講釋 勝田祐義 明治三〇年三月七號  
 三 體 詩 勝田祐義 明治三〇年三月七號  
 七 補註蒙求國字解 勝田祐義 明治三〇年三月七號  
 八 詩經、毛詩國字解 勝田祐義 明治三〇年三月七號  
 九 小學句讀口義詳解 勝田祐義 明治三〇年三月七號  
 二 古文眞寶前集抄 久保天隨 明治三〇年三月七號

機械設計法 古閑正雄 明治三〇年三月七號  
 幾何 畫法 阿心庵 明治三〇年三月七號  
 其角全 集 阿心庵 明治三〇年三月七號  
 氣 輕 な 放 森 鷗 紅 明治三〇年三月七號  
 機 關 車 工 業 書 芥山 孝吉 明治三〇年三月七號  
 義 經 記 校註國文叢書 池邊義象 明治三〇年三月七號  
 應用 技藝百科全書 博文館 明治三〇年三月七號

第一編 雄辯法 松井從郎 明治三〇年三月七號  
 第二編 養鶏法 服部 徹 明治三〇年三月七號  
 第三編 水産畜殖製造法 服部 徹 明治三〇年三月七號  
 第四編 泰西彫刻術 須永金三郎 明治三〇年三月七號  
 第五編 家畜新論 服部 徹 明治三〇年三月七號  
 第六編 觀相學 松井從郎 明治三〇年三月七號  
 第七編 狩獵法 松井從郎 明治三〇年三月七號  
 第八編 泰西園藝術 前原幽園 明治三〇年三月七號  
 第九編 音樂法 須永金三郎 明治三〇年三月七號  
 第二編 漁魚法 星野應一 明治三〇年三月七號  
 第三編 山林要論 星野應一 明治三〇年三月七號  
 第三編 鑄造學 羽室庸之助 明治三〇年三月七號  
 揮毫 秋山四郎 明治三〇年三月七號  
 記行文選 大和田建樹 明治三〇年三月七號  
 紀行文 幸田露伴 明治三〇年三月七號  
 氣候編 井上正賀 明治三〇年三月七號  
 其日庵叢書 杉山茂丸 明治三〇年三月七號  
 汽車の窓から 友江見水藻 明治三〇年三月七號  
 汽車の窓から 西村 谷口 梨花 明治三〇年三月七號  
 汽車の窓から 東北 谷口 梨花 明治三〇年三月七號

鳥氣象 學 稻垣乙丙 明治三〇年三月七號  
 物理氣象學教科書 稻垣乙丙 明治三〇年三月七號  
 機織及意匠一斑 工部 町原 乙丙 明治三〇年三月七號  
 木・竹の工藝 小泉吉兵衛 明治三〇年三月七號  
 北原白秋地方民謡集 北原白秋 明治三〇年三月七號  
 義太夫集 上巻 義太夫 明治三〇年三月七號  
 義太夫集 中巻 義太夫 明治三〇年三月七號  
 義太夫集 下巻 義太夫 明治三〇年三月七號  
 狐憑病新論 海賀 變哲 明治三〇年三月七號  
 木の研究 今景彦 明治三〇年三月七號  
 吸 血 江戶川 亂歩 明治三〇年三月七號  
 弓術新書 內山 勳 明治三〇年三月七號  
 牛乳と乳製品の研究 鈴木 敬策 明治三〇年三月七號  
 教育古典 第一編 本庄太一郎 明治三〇年三月七號  
 行 雲 流 水 大町 桂月 明治三〇年三月七號  
 況 翁 閑話 石黒 忠應 明治三〇年三月七號  
 況 翁 閑話 石黒 忠應 明治三〇年三月七號  
 俠客全傳 堀原 澁柿 明治三〇年三月七號  
 狂歌の集 鹿 子 笹川 臨風 明治三〇年三月七號

競技運動	武田千代三郎	明治三〇年	六ホリ	一四〇〇
狂句の葉	鷺亭金升	明治三〇年	六ホリ	一四〇〇
教訓繪ばなし	木村小橋	(三〇・三二・三三)	二ホリ	一三〇〇
一家庭の卷	明治三〇年	ニホリ	一三〇〇	
二お癖の卷	三明治三〇年	ルラニ	一三〇	
四陸軍の卷	明治三〇年	ルラニ	一三二	
五動物の卷	明治三〇年	ルラニ	一三三	
六植物の卷	明治三〇年	ルラニ	一三四	
七ポンチの卷	明治三〇年	ルラニ	一三五	
八遊戯の卷	明治三〇年	ルラニ	一三六	
九地理の卷	明治三〇年	ルラニ	一三七	
二立志の卷	明治三〇年	ルラニ	一三八	
三冒険の卷	明治三〇年	ルラニ	一三九	
三修身の卷	明治三〇年	ルラニ	一四〇	
七戦争の卷	明治三〇年	ルラニ	一四一	
八奇談の卷	明治三〇年	ルラニ	一四二	
九理楽の卷	明治三〇年	ルラニ	一四三	
三尙武の卷	明治三〇年	ルラニ	一四四	
岩谷小波	二〇大正三〇年	ルルニ	一三五	

教訓お伽噺東洋の部	岩谷小波	三〇大正三〇年	ルルニ	一三五
狂言評註	大和田建樹	明治三〇年	マエニ	一五九〇
徳才	幸田露伴	明治三〇年	一ミン	一七〇
才	堀内新泉	明治三〇年	二キヨ	一三〇
行政裁判所	行政裁判所	明治三〇年	七ア	一三九二
行政裁判所	行政裁判所	明治三〇年	七ア	一三九二
狂句の葉	鷺亭金升	明治三〇年	七ホ	一四〇〇
驚奮全集	大野酒竹	明治三〇年	三ホ	一四〇〇
怖の齒型	大下宇陀兒	昭和	六ホ	一三二
梁	石井槌太郎	五〇大正三〇年	ニワ	一四五ナ
聖き愛の世界	帆足理一郎	六〇大正三〇年	キト	一五五五
愛の世界	帆足理一郎	六〇大正三〇年	キト	一五五五
魚術	満尾藤次郎	明治三〇年	九	一五〇〇
清元	海賀變哲	六〇大正三〇年	ホメ	一九〇〇
許六全集	大野酒竹	明治三〇年	四ホ	一四〇〇
切られ牡丹	江見水菴	大正二〇年	ニミ	一八一
希臘羅馬文學史	江見水菴	明治三〇年	〇マ	一三〇
希臘羅馬文學史	江見水菴	明治三〇年	〇マ	一三〇
基督教要義	基	明治三〇年	ホ	一三〇
金棟和歌集	金棟	明治三〇年	八ホ	一三〇

銀河の曲	前田曙山	昭和	ニホ	一〇〇
金魚の飼養	前田邦寧	四〇大正	六ナ	一〇一
金銀貨幣論	木下政二郎	明治三〇年	ニソ	一四〇
銀行事務解説	川口西三	大正	三ナ	一五一
銀行と信託の話	笹谷貴義	昭和	三ナ	一五二
近思錄	築田勝信	大正	四カ	一五三
近思錄講義	内藤耻叟	明治三〇年	ニカ	一五六
今世	福本誠	再明治三〇年	スロ	一五六
今世相	齋藤隆三	明治三〇年	ユテ	一五七
近世大儒列傳	内藤燦燦	明治三〇年	ニソ	一五八
近世大儒列傳	内藤燦燦	明治三〇年	ニソ	一五九
近世名家遺稿	内藤燦燦	明治三〇年	ニソ	一六〇
近世名家遺稿	内藤燦燦	明治三〇年	ニソ	一六一
近世名家遺稿	内藤燦燦	明治三〇年	ニソ	一六二
近世名家遺稿	内藤燦燦	明治三〇年	ニソ	一六三
近世名家遺稿	内藤燦燦	明治三〇年	ニソ	一六四
近世名家遺稿	内藤燦燦	明治三〇年	ニソ	一六五
近世名家遺稿	内藤燦燦	明治三〇年	ニソ	一六六
近世名家遺稿	内藤燦燦	明治三〇年	ニソ	一六七
近世名家遺稿	内藤燦燦	明治三〇年	ニソ	一六八
近代歌謡集	藤田徳太郎	昭和	六マ	一五六
近代社交ダンス	潤三郎	昭和	六ニ	一五六
近代西洋文藝叢書	博文館	(第一二册)		
第一册 決闘	三正	二〇大正	三ム	一九〇
生活の河	三正	二〇大正	三ム	一九〇

第二册	サラムボオ	(フ)フロオベ	大正	ニホ	一〇〇
第三册	廣野の道	(シ)シニツツラ	二〇大正	三ム	一九〇
第四册	死の如く強し	(シ)シニツツラ	二〇大正	三ム	一九〇
第五册	處女地	(シ)シニツツラ	二〇大正	三ム	一九〇
第六册	死人乃家	(シ)シニツツラ	二〇大正	三ム	一九〇
第七册	快樂兒	(シ)シニツツラ	二〇大正	三ム	一九〇
第八册	罪	(シ)シニツツラ	二〇大正	三ム	一九〇
第九册	結婚の幸福	(シ)シニツツラ	二〇大正	三ム	一九〇
泥滓	阿部次郎	(シ)シニツツラ	二〇大正	三ム	一九〇
第二册	埃及行	(シ)シニツツラ	二〇大正	三ム	一九〇
米島の漁夫	阿部次郎	(シ)シニツツラ	二〇大正	三ム	一九〇
近代性慾學	羽太銳治	大正二〇年	一エ	一五〇	
近代の事務家	木村健一	昭和	六ニ	一八〇	
近代名家歌選	芳賀矢一	三〇大正	七ホ	一四〇	
公任卿集	佐々木弘綱	明治三〇年	一ホ	一四〇	

金葉和歌集 日本歌集全集 第五編ノ内 佐々木 弘綱等註 明治三〇・三十一・三二・三三才  
 金葉和歌集 第四編ノ内 佐々木 弘綱等註 大正三三・三三・三三・三三才  
 金 利 精 覽 矢野 恒太 訂正 大正三二・三二・三二  
 空 中 紳 士 小酒井不木等 三昭和四・三三・三三・三三才  
 處 翁 論 (英)フリス 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 草 叢書之二 石井 三郎 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 果物採收貯蔵及荷造法 式地 俊村 大正 〇・六・ナナル三・四〇才  
 果物利用法 通商産業省 和 田 歌吉 大正三・八・ナワ三・三三才  
 新編同定忠治講義 神田 ろ山 昭和三・一・ミカニ・九三才  
 九 香 館 長田 幹彦 大正三三・三三・三三・三三才  
 クリツケツト 内外遊藝全集 津田 素彦 大正三・三・ヘロ一・三〇才  
 黒 髪 地 獄 高桑 義生 大正 〇・四・ミタニ・二才  
 黒 木 軍 百 話 來原 小登 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 黒 田 如 水 傳 金子堅太郎 大正 三・三・タク三・一六才  
 猫 抱 いて 江見 水蔭 大正三三・三三・三三・三三才  
 桂園門下家集 日本歌集全集 佐々木 信綱 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 經濟學綱要 上巻 佐々木 信綱 大正三三・三三・三三・三三才

警察監獄全書 廣中 佐兵衛 廣中 佐兵衛 廣中 佐兵衛 廣中 佐兵衛  
 一 監 獄 學 谷 野 格 明治三三・三三・三三・三三才  
 四 衛 生 法 廣中 佐兵衛 廣中 佐兵衛 廣中 佐兵衛 廣中 佐兵衛  
 經 信 冊 母 集 日本歌集全集 廣中 佐兵衛 廣中 佐兵衛 廣中 佐兵衛  
 經 世 危 言 板 倉 中 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 警 世 評 論 岡崎 遠光 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 ゲーテの詩研究 鹽釜 天龍 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 競 馬 と 相 馬 河邊 立夫 大正三・三・ヘラニ・三三才  
 京 阪 一 日 の 行 樂 田山 花袋 大正三・三・ヨミ一・三三才  
 正 刑 法 新 論 藤澤 茂十郎 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 下 女 讀 本村 井 弦齋 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 結 核 菌 物 語 廣澤 汀波 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 結 婚 の 危 機 小田 俊三 大正三・三・ケケニ・三三才  
 結 婚 の 危 機 小田 俊三 大正三・三・ケケニ・三三才  
 現 行 試 驗 規 則 大 全 北 一 齋 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 現 行 罰 則 大 全 堤 一 馬 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 言 行 要 錄 菅 綠 蔭 五明治三〇・三〇・三〇・三〇才

源 語 奧 語 校註國文學全集 近藤 芳樹 大正三二・三二・三二・三二才  
 源 三 位 頼 政 集 日本歌集全集 佐々木 弘綱等註 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 源 氏 物 語 上 巻 校註國文學全集 池田 通孝等註 大正三三・三三・三三・三三才  
 源 氏 物 語 下 巻 校註國文學全集 池田 通孝等註 大正三三・三三・三三・三三才  
 源 氏 物 語 詳 解 一 池田 通孝 大正 〇・六・カシニ・一〇才  
 源 氏 物 語 詳 解 二 池田 通孝 大正 〇・六・カシニ・一〇才  
 源 氏 物 語 詳 解 三 池田 通孝 大正 〇・六・カシニ・一〇才  
 源 氏 物 語 詳 解 四 池田 通孝 大正 〇・六・カシニ・一〇才  
 源 氏 物 語 詳 解 五 池田 通孝 大正 〇・六・カシニ・一〇才  
 現 代 商 業 文 指 針 中 川 靜 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 現 代 人 を 救 ふ 宗 教 宮 澤 英 心 三昭和四・三三・三三・三三才  
 現 代 戰 争 論 (英)エンセル 大正 元・九・スオ三・一〇才  
 現 代 の 戦 略 及 戦 術 本 間 徳 次 郎 大正 三・三・スリ三・一〇才  
 現 代 俳 句 大 觀 高 木 蒼 梧 昭和 〇・ニ・ホチ一・二五才  
 源 太 時 雨 長 谷 川 伸 昭和 〇・六・ミハニ一・一才  
 言 文 一 致 文 範 通商産業省 堀 江 秀 雄 大正三・三・カサニ・三三才  
 源 平 盛 衰 記 上 巻 校註國文學全集 池邊 義象等註 大正三・三・カシニ・九三才  
 源 平 盛 衰 記 下 巻 校註國文學全集 池邊 義象等註 大正三・三・カシニ・九三才  
 元 祿 時 勢 粧 笹 川 臨 風 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 元 祿 時 勢 粧 笹 川 臨 風 明治三〇・三〇・三〇・三〇才

元 祿 世 相 志 齋 藤 隆 三 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 元 祿 名 家 句 集 佛 語 文 庫 大 野 酒 竹 校 註 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 戀 及 性 の 新 研 究 羽 太 銳 治 大正三〇・三〇・三〇・三〇才  
 戀 と 職 業 小日向 大郎 三明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 戀 の 秀 吉 塚 原 滋 柿 園 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 光 榮 之 日 本 田 原 次 郎 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 普 羅 瓦 斯 工 業 井 上 仁 吉 大正三・三・ニワニ・六三才  
 工 業 瓦 斯 工 業 井 上 仁 吉 大正三・三・ニワニ・六三才  
 工 業 經 濟 工 業 井 上 仁 吉 大正三・三・ニワニ・六三才  
 公 共 小 劇 場 演 劇 研 究 (米)デイリン 昭和 〇・四・フワニ・四三才  
 工 業 數 學 工 業 重 見 道 之 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 工 業 叢 書 博 文 館 (一七册裝)  
 水 及 油 市 川 俊 雄 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 陶 器 製 造 化 學 (蘭)ランゲンベツ 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 機 關 車 糸 山 孝 吉 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 構 造 強 弱 學 村 瀬 英 一 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 工 場 管 理 法 重 宗 彦 熊 明治三〇・三〇・三〇・三〇才  
 油 類 工 業 分 析 矢 野 道 也 明治三〇・三〇・三〇・三〇才

動力發生及分配 町原 駒  
瓦斯及石油機關 根岸 政一  
醸造法 一班 井上 正賀  
工業用金屬材料學 伍堂 卓雄  
染色法 河原 一郎  
工業用植物纖維 齋藤 賢造  
硝子製造法 義田猪太郎  
工業經濟 佐藤五百巖  
アルミニウム製造法 淺野 幸作  
船舶機關學 増田 知藏  
繪の具製造法 天野 道也  
紡績 一班 町原 駒  
工業 數 學 重見 道之  
機織及意匠 一班 町原 駒  
工業藥品製造法 淺田 忠順  
電話機及電話交換 若目 利助  
燃料及測熱法 市川 俊雄  
燃料及測熱法 市川 俊雄  
ペイント製造及検査法 大見 錄一

石鹼製造法 淺田 忠順  
蒸氣機關 關 江浪 常吉  
力學圖解法 大河戸 宗治  
製氷及冷却法 守田 鐵之助  
電氣磁氣計算法 中澤 重雄  
機械設計法 古閑 正雄  
實用製革法 佐渡 秀光  
接合劑製法 義田猪太郎  
隧道新書 相澤 時正  
工業瓦 井上 仁吉  
色彩學 井上 道也  
實用鑄金術 石川 浩洋  
アーチ設計法 松田 新一郎  
電氣化學 萩原 拳吉  
鐵筋コンクリート拱橋 秋元 繁松  
硫酸及硝酸製造法 丸澤 常哉  
醫藥製法 越澤 満  
油脂工業試驗法 上野 誠一  
電線製造法 田中宗 一郎

工業藥品製造法 工業書  
工業用金屬材料 工業書  
工業用植物纖維 工業書  
孝經國字解 投書漢文書  
航空の知識 天野 修一  
皇國運動 廣野 幸徳  
興國策としての各種改造 廣野 幸徳  
廣告窓飾の新傾向 廣野 幸徳  
高山植物培養法 廣野 幸徳  
孝子 伊藤 公末  
孝子 伊藤 公末  
皇室之光輝 太田 増次郎  
皇室之光輝 太田 増次郎  
膠州灣詳誌 上仲 尙明  
工場管理法 工業書  
合成金製造法 橋本 奇策  
構造強弱學 工業書  
築村叢書 名家小説文庫  
小唄と端唄 第五編  
幸堂滑稽談 鈴木 利平

高等小學校算術 谷口 政徳  
高等女子文かきぶり 小野 鷲堂  
高等數學講義 博 文 館  
方程式論 松村 定次郎  
高等代數學 松村 定次郎  
立體解析幾何學 宮本 藤吉  
應用代數學 宮本 藤吉  
高等代數學 松村 定次郎  
防犯強盜と窃盜 中村 義正  
坑礦物及地質 腹卷 助太郎  
噴野論 白石 實三  
高野山名所圖會 石倉 重樹  
高陽院歌合 日本歌合全集  
紅葉書翰抄 尾崎 仙三郎  
紅葉書翰抄 尾崎 仙三郎  
紅葉書翰抄 尾崎 仙三郎  
紅葉書翰抄 尾崎 仙三郎  
紅葉書翰抄 尾崎 仙三郎  
紅葉書翰抄 尾崎 仙三郎



吳子講義 支那文學全集 小宮山綾介 再明治三九カスニ一六〇エ  
 古社寺をたつねて 齋藤 隆三 大正二・七ヨマー一三〇四カ  
 古社寺をたつねて 齋藤 隆三 再大正三九ヨマー一三〇四カ  
 後拾遺和歌集 日本歌學全集 佐々木弘編等校 明治三三・ニホスニ一四〇〇エ  
 後拾遺和歌集 日本歌學全集 佐々木弘編等校 明治三三・ニホスニ一四〇〇エ  
 後拾遺和歌集 日本歌學全集 佐々木弘編等校 明治三三・ニホスニ一四〇〇エ  
 五十家訪問録 坪谷善四郎 再明治三二ユヌ一八〇〇  
 湖沼めぐり 田中阿歌麿 再大正二ヨミ一五三  
 古人の遊跡 田山花袋 昭和二・八ヨミ二一五六  
 古人の遊跡 田山花袋 昭和二・八ヨミ二一五六  
 古跡めぐり 笹川 臨風 改訂大正三六ヨミ一五六  
 後撰和歌集 日本歌學全集 大中原能宣等編 明治三三・三ホスニ一四〇〇イ  
 後撰和歌集 日本歌學全集 大中原能宣等編 明治三三・三ホスニ一四〇〇イ  
 後撰和歌集 日本歌學全集 大中原能宣等編 明治三三・三ホスニ一四〇〇イ  
 古代印度の傳説と神話 和田 徹城 大正三・六マウニ一六三  
 古代希臘の思想と文藝 山原 三郎 大正三・七ホオニ一五〇  
 五大洲探検記 博文館 (三・四・五・六)  
 一 亞細亞大陸横行 中村 直吉 明治三・八ヨメニ一三〇〇ア  
 三 歐 脚 蹤 横 川 春 浪 明治三・二ヨメニ一三〇〇イ  
 御 大 禮 圖 譜 今 泉 通 定 介 大 正 三・八セキニ一四〇五  
 兒 玉 大 將 傳 杉 山 茂 丸 大 正 三・三ヨメニ一三〇二カ  
 今 滑 稽 俳 句 集 今 井 柏 浦 編 明治三・九ホチ一〇七

筆 唄 佐々 醒雪 二大正二六カスニ一六〇イ  
 子供のおもちや教育 服部 北漢 再大正三・二ソマニ一七〇  
 子供の四十八癖 服部 北漢 再大正三・二オサニ一七〇  
 子供のしつけ 寒澤 振作 明治三・一ソマニ一七〇  
 子供のすきな讀物叢書 博文館  
 四 プリヂオ王子 (英)ラング 大正二・〇ルミ一六五三エ  
 小鳥を飼ふ武士 横井津根 再大正三・二ヨミ一五三  
 南 安井正太郎 明治三・八ヨメニ一三〇  
 水野 廣徳 明治三・二ユナニ一五三  
 此 一 水野 廣徳 明治三・二ユナニ一五三  
 此 一 水野 廣徳 明治三・二ユナニ一五三  
 五 番 茶 下村 海南 昭和二・二ラナ一  
 古文孝經講義 支那文學全集 東條 永胤 三明治三・〇カスニ一六〇ウ  
 古文真寶前集抄 支那文學全集 久保 天 大正三・六カスニ一六〇ウ  
 小物盆栽仕立方 野崎 信夫 昭和二・九ナニ一七五  
 醫馬御用 盜 異 聞 大佛 次郎 再大正三・三ミオニ一三  
 根菜類栽培法 實験農藝學 尾崎 五平治 昭和二・一ナチニ一八五  
 今昔物語 上巻 校註國文學全集 池邊 義象等註 三 大正三・三カシニ一五五タ  
 今昔物語 下巻 校註國文學全集 池邊 義象等註 三 大正三・三カシニ一五五チ  
 昆虫採集 第一〇編 内外遊藝全集 安藤 謙吉 明治三・七ヘロニ一三〇コ  
 根本 佛 教 姉崎 正治 三 大正三・二クチニ一五二

獻 詞

謹んで坪谷先生に申し上げます。  
 私は初め先生の第七十七回の御誕辰を祝賀し記念致しますため、昨年十一月に祝賀論文集の編纂を心私に計畫致しました。もとより先生の御交遊は政治家軍人官公吏法曹家實業家操縦者教育家技術家文學者其他に涉り、極めて廣汎でおいでになりますから、その論文集に寄稿して頂く方々の範圍を何處に限定するかは、かなり困難のやうに考へられたのであります。ところが一日先生の御病床に侍して僅かばかりこの事に觸れますると、先生は友人の間に賀宴の催しの申出もあつたが御断りした。還暦も古稀もすべてお祝ひはお断りして来たのであるから、祝賀と言ふやうなことは一切心配しないで欲しいとのお言葉でありました。

左様なお言葉ではありましたが、この記念すべき佳き日を徒らに看過して了ふと言ふことは、如何にも忍び難いことなので、私は祝賀論文集の計畫は断念致しましたが、同時に祝賀と言ふ意味でなく、この日を記念として私どもの業績を吟味して戴く意味での著作集の編輯を思ひ立ち、毎日先生に親炙して絶えず御薫陶に浴してゐる大橋圖書館の職員の間だけで、その職務に關係した述作を纏めて先生の座右に奉呈することとし、一同の同意を得ましたのは十二月下旬先生が御静養のため、熱海に轉地をなさいました数日前でありました。

最初は一月末日に原稿を締切る豫定でありましたが、お互に忙しい務めに従つて居りますので、次第に延び／＼になり私なども、先生が御健康を全く回復なさいまして、従前にまさる御元氣で御歸京になつた二月上旬に、漸く執筆の準備



を始めると言つたやうな次第でありました。それでも先生の御誕生日の當日即ち二月二十六日には、全部原稿が手許に纏まりましたので、二十七、二十八日の兩日に組版の割付け其他の整理を了へ、三月一日に印刷所へ交付することが出来たのであります。

斯様な次第でこの記念著作集は到頭、先生の御誕生日にお目に懸けることが出来ませんでしたが大層遅れましたが、今四月二十九日 天長節の佳き日を選びまして高覽に供へるようになりました。御審讀が願へましたならまことに仕合せて御座います。元來私達は書物に關聯した仕事に従事しては居りますが、一種の技術家乃至事務家に過ぎない者どもで著作には慣れて居りません。従つてこゝに集めましたものも構想措辭執れも蕪雜粗笨を極め、或は其點では一般の批判に値しないかも知れませぬが、併しその業績に關する範圍では、決して先生の御徳を演ずるものでないと思つて居ります。

こゝに私達一同はこの佳き日に小やかなる記念著作集を、先生の座右に奉呈して御健康をお祝ひ申上ぐるとともに、併せて私どもの將來の御指導の御参考に供し、更に一層の御奮勵に浴したいと言ふ念願の切なるあまり、お叱りをも顧みず敢へてこの擧に及びましたことを申述べて、十分なる御鞭撻をお願い致しまする次第で御座います。

四月二十九日

職員一同を代表して

竹 内 善 作

昭和十三年四月二十六日印刷  
昭和十三年四月三十日發行

限定版上製五十部(二段に頒布せず)  
並製三百五十部本書は其第 123 號

編輯人兼

東京市麹町區九段一丁目三番地  
竹 内 善 作

發行所

東京市麹町區九段一丁目三番地  
財團 大 橋 圖書 館

印刷者

東京市小石川區久堅町百〇八番地  
君 島 潔

印刷所

東京市小石川區久堅町百〇八番地  
共同印刷株式會社

IT 9C 86

終